明治43年 1910

人の來る鳥影せしはは三ヶ日（梅室）

月曜	戊辰	一月三日	天氣 晴	寒暖

元始祭

眠られぬまゝ、眠り見ぬ夢ン漫ンデ居ルト、ソコヘ坂田君カ訪ネ
ヘイカナイガト、ガワレタノデ共ニ、ゴッタ、ア、乾風ニ、
心地好ク強ク今朝ノ寒レタ々シキ、時ノ時晴ズキモアラウ又近ニカヤイテ居ル
道モ昨日ト違イ日和ト話デカラ〳〵ト歩ム、金ノ帰ル後階段ノ上ノ帳場ノ
淺ノ旗ノ出サウ見セウ思ウ之デ帰宅ノ途ニ付イタ、カ昨日ノ
次サンカ今ノ景帳何度カヘ〳〵コウート言ワレテ居タノデ遂ニ無言デ帰ル
モ程ニナルマイト思フタノデ「春先ニ密昔ノ求メ多エ差ノ上ケ、ゲテ〳〵キ
久〳〵デ帰ル一杯ニ伸度ヘカラ〳〵キタイトモッテ居ルノデト有ノ僅、コトワリ
ヲ述ベテ断ル遊ブヒテ世ヲ帰宅ヒタ、時計ノモ一代ノ半ヲ、ソレ

發信	受信	摘要

旅順各砲臺を受領す（廿八年）

禁無断転載 ©
一般財団法人日本航空協会

火曜　己巳　一月四日

多田市二郎方正面玄関ガ十一時頃ニ帰ヘツテ来タ日月ノ暦ニテカラ一日ヲヤト
ニ時トニ時迄ヤトトモ一廻ヤ九時ガタ々々々々々々々々々ト制御眠ツテラ暦ノ
暦ノテカ眠ルモノガ若干ニヤハリ前日ハレニ廻カレテ廻ヤタ・阿波國本
竜雨表ノ金ト為廻ヤヤんタニナリテ第一番ニケケ・芸々ニ用ノ
孔ヲトゲテヤツタ、之レ今ノ函陣第一ノ切名デアツタ、御都ガ
今年ハ早ク始ニタ金ナドハ七時頃又デ帳簿ノ方ニカ、ツタノデアツタ
七時ノ夕食ノ後ヨリ一日ノ記ヒ立ハ年頃ハ日本正面玄ト
心商ノ数学ニツタ金ニ帯ニ入レ一本買ツタ値二日十銭
七時帰宅後再ビ日記ヲ書ク八時（今夜々警ノ訓練ニ入ル）
ヤ時頃ニ人共酒ニヨイ寝テ居ル

発信　受信　摘要

又廻来ル少廻
為ノ書形況
年ガ又社ニテ共

水曜　庚午　一月五日

新年宴會

御時ノ日ウツクシテ火ノ廻ヒ立ハ年フレカラ対
ヲツタ見、後ツタ頃ハ見知ノ後ニ知使ノ見ル
雨ノ勢ズツマシク降ツテ居タ、掃途後頃ハ見知ノ後ニ知使ノ見ル
八時就寝
今ノ後ニ決算ニ急ガシカツタ、然ニ大急ギデヤツタ者ナ、タ方ニハ
ケヤシトモ東上ガツタ絶金金貴方ニ金ニ為ル為金円先ツ上々ヤ東
ノ方デ何レモ皆ニユクモノデアツタ七ヨリ対年寄家ノヤんナド
大分家ハイツテ居タ、金ノ結算表ノ造ンニ九時迄カラタ
後ニ日ノ記ノ残リトニ迄ヒ記ヒ時十時
夜寝ヒ木ノ後ニ十一時半就眠

発信　受信　摘要　後書ノ

木曜	辛未	一月六日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要
六時半覺醒							
六時十分起床							
朝食ノ後八時就業							
午前ノ慣例ノ如ク諸新聞ヲ閲ス							
午後ハ時ニ一千月ノ為ニ							
孫傳ト他ノコトゴトノ係数金ノ内ニ入レ之レデ日金ノ残ニ万三千余円ト							
七万余年中ニ全部返ヒタイキ分ガデドーカシラ。金ノ壹拾八円							
ト修繕五十大使工ゲノ翌ヨリ得タ外ニ西後壹拾三十三円即チ							
三万余ヲ得タ。							
二時半三井ノ難後加藤ヲ丸的下脱三十壹本五十大ヲ使ヲ盛ストタタ							
買反ントノ返ヲガアツタ。之レハ少シカニ嫌イ重物ノ国ニ有ル入電							
五十二枚十志。夜六時半迄夜業後ノ業講義係ノ調査ヒ八時夜警							

金曜	壬申	一月七日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要
例ノ如ク起床							
朝食後今日ノ所役ハ少シナイ年ナスモノハ帰リ							
食ヒタ其後ノ二合ガ大変悪クナツテ大使ガ止マラシマツタ而							
ヒテ四時半ニ了夜業ヤツタリ夜遊ノ迄何ヤ斯ヤトヒタノデ頭痛ガ又元							
ガヒテ来タデ。夜帰宅後ヒタ帰迄眠丸ノ要ノタ							
今ノ帰宅ヒタノハ十ヒニ時ノ人ノ宅ヘ招待ハ有メ切合セト冬為ノ							
持ツテ帰ヘタノデアタ。妻ノ姉ガ下ゲ髪ノ結ヒト来テ居タ							
高ク90銭ガ高過ギ壹拾七円十大本場ノ持ヒスコフル春弱者ノ大者							
リガタク大分買ヒ来タ居タガ何レモ使ハ合ワナカツタヒイ							

土曜　癸酉　一月八日

天氣　晴

寒暖

發信

受信

摘要

腰痛再發ス恐レテセサ十五分迄床ニ臥タ起床後タベチニ臨ム服ス

有了幸ニ的ニ十二時ニ成ル一寸安イ、元祝ニ妻ラ無シ、五位様ニ井上電ニ

ヒラヒチ尾形参ル　富佳デアル

豊前国ヤ藩ヲ家族電報ヲ遣ヒ之ノ半四百ノ見積ヲ出シテ居

レトノ電報ガ届カヌタト知ラセタノデ、早速作ル所ノ見ニ電信ヲ見ル

ケ十八円カトノ金ヲ言ヒヤンノデ取リヲ、同ジト五十五日ノ由前

ニ五十三円デ取リガ買フタカラノデ遣ニ五十五日迄切ツメサセタ

見積ノ五十五日ヲ六ケ月デヤタタ而シテ本科ノ修的高佳ノ由ヲ詳記シテ

置イタ、タタ佳ノ電気的五十七ヒ五十五日ヒケ本ノ割ガ落ル

最後症ノ何

後景ヲ

日曜　甲戌　一月九日　天　寒

故デ此ガ出来ルカトノ面白イ問題ガ出テ井上中ヒ、両氏ト

お互ニ那ト入れセラレタ、余モ笑盤ノ次ヲ見ルト四五十七日

ナラ出来ル見込ガ付イタノデ入れノ礼ヲ言ルトカ五那ニ中ヒハレ

ハ皆七十八井上氏ガ此日ガ余ニ甚ダ、アタタデ、余モ食

マタ捨テタモノデ無イワイトヒヒリカニ嬉シカタ

ヒ今ヒラ的真牛校ガ一変ニ此日五十方ヲ引揚ケタ、原因ヲ

ヒ友達事デ、ヒール来者ノ集金ガアテ協定シタノガ低シ

割引ヲ遠慮トノ事　此デ当場ニ日ヲ割引ヒタ増田ヒ当ヘ

ヒ月ノ割引ヲヒテ等ヒタ、的的場ノ買ヒヒヒ五十六円

夜　物理ノ後習ヲナヒハ時半終ヲ一寸大便ヘ入ケト、ドーモ

キバルト

ノドガ痛ヒデ何ヒカカ太クフクレル様ナ肌常ニ因マタタ

後ヲ場ヒ方ガ、餅ヲ焼ヒテ居タノデ駄目ニナリ九時半就床

改ガ足ル後ニ十時半就床

一月　何ヒ日時ヲ知ラ

一月　夜ヲ時半ヒ時ヒ終ヒ

晴ヲヒ雨ハドシヤブリト迄ラ

ヒカ一三ナイガ負ヒ

国語ヲ夜ヲ

ヒ月ヒ

ヒ月ヒ

ヒ月ヒ

土曜	癸酉	一月八日	天氣 晴	寒暖

日曜	甲戌	一月九日	天氣 晴	寒暖

午前之時迄帰宅後飲酒又飲り続ク

重近君紀年後男の物ヲ買ヲ物及ビ電話ヲ作ル

者ヲ求ムタ者ヲ田中ハ之ガ為ニ作ル中ニカヒト強リシテ居ラレルノデ、ワハ之ヲトツエ之ガ為ノ切掌ガ一ヌアツテ、中ニ帝蚤ナ故ヲ多ク裏面ヲ見ルトアカクモ電光ガ一杯ニガラ〳〵シテ居ル然シ拙ク細カイ、キラ〳〵ト立イ之ハ之蓋デ電光ガ故トシテ分ガノ原理ヲ応用シテ故ニシタノダフーナ、ソーシテ後イロノ話ガ有リ、ソウフーダ、ソーヲ、ソーヲフトヤ年フレナヲタノヲイタヲガアタ、当因ニ今ガノ美博ニ同故ノ

四八中五十ヲ出ヌスレソーダ、所ナ百人ヲ一日驚ク力ロ

發信	二豊學校 応用機械學ノ學 義井吉松
受信	
摘要	

一 月夜ナ時出国後習紙收ニ表ト今日繁ヲ五十人ヲ持ニ振一元ノ元クデ先ヲ心治好 遊嶺ヲ通ノ帰迄出おデ肉ヲヤヲ今ノ酒ヲ大ヲノヲガ迄ヒヨワ方ヲ帰ヲ帰ヲ更新渓九時事紙来

月曜　一月十日　乙亥　天氣　晴　寒暖

昨日の夜が一寸戎橋へ参詣と云ふ事で来んかうと云ふ話し
やかましい階かつりつぶし敷なんて眠られなくて、延きたりかすぐ出掛半時夜
の眠とまた引きへ今朝の魂と始めて天気　カラリト晴レテ暖ノ気ヨリ
直近落花ヤツタバケ然と其宮と金の色とトカ用かるかつたので
大分急かしかつた直食ら半肉でアツタ午後の飛脚倫休業金ら
欲四月物ら後と吹前井上坂に両天ト底ら出ら中場ら連レテ参
此ノ中場サンデ一寸肩かはれたりタ、ソレハ若え人か中場ノ外出ヲ止メタ
ノデ（金ガ）くれ寄人と絶えずやつト連れんるとたりタ其訳ら金か中場ら憂
スル為中場と同情スル念ノ表現トナツタ、ケケ別と深イ意味ラナイ

火曜　一月十一日　丙子　天氣　雨　寒暖

ノタ。（金ら中場が此頃大分贅ツトナシタ且つ淋ヘラ金ら言ワ
ナ否オトナシクナツタノデ老主人が時々淋ヘ連レテ帰ラセんノデ
ハ考ヘ嬉シイ強ヒ中場が金ノ云フ通ヨリ解スベキ決シテサカロ
ワスるが如シテ見ル度ナドモ金トアナケレハ遠ハナイト云フ見ナノデ
此ノ友ヲ比喩ハ大分又中場ト同情否定ラ述ベタリ或ハ暴ルナドラ他ノ人ノ抗
然シ金ハ決シテ中場ト好言ラ述ベタリ或ハ暴ルナドラ他ノ人ノ抗
ヘ等ヘタリシタるラナイ、タバ彼シカ強迫ラ叫ビ彼ラナカサメ
彼シカイタツラスんの時彼シラ論シ彼シカ遠ノ時彼シ注意
ラ時ヘタシ色ヤナカタノカ）
サテヤツトノるデ人中ラ切リヌケ帰宅スんヤ、ラ多ハ
虚ヘ電話シテ上四二男ト三君ト最ハ来シ抜ヲ遣ヲ鳥佐
ヘラナ強セウラ注文シテ帰ラ之ヨラ頂、寒ラ弛ラタ
下ラウコヘ平井サンカ来ウシ其ヲ又三君モ列席セウシタノデ
大変ニギヤカニナツタ食ラ初終中場ノ如タウ」ガ食物ト
注意シテ

月曜　乙亥　一月十日　天氣　晴　寒暖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大妻ニギヤカニナツタ会ハ初終中略ノ如クナリ「ア辰初ニ注意シテ居タ

六時頃ニ表ヤ平井カヒノ諸曲ガアツテ客奥ニ移ツタ告ゲル

ルコトナリ帰途ニ付イタ、ラヽ〳〵タル星ノ空ニカガヤイテ雲モナイ、昆虫ハ何分何番モ多辰ト今ト左程ニ近今ワカツタノガ何ヨリ有イデアツタ然シ門ニ出ルトサスガニ寒オシ返サレタ、中坊ノ見ル物大変アレ、出ヒイ之レ買フテトネツノデ出発ツテ僅ニタガ「ビトハヒゴ」ガケリヨー買ワナカツタ

次会ウシテ買ヒ純ワガラヒメタノダ、其レハ、キケニ初ル者ヨニ又金目合モ少ハヨウ、之ニ寄リ持テ遊ニ外ルカナイカラヤガテ親戚ノ停車場前迄来ルトヤ友ハ自分ニ之カラ学校ヘ行ニ今ツカヒヨウ、止メ様カト思ツタガ、折格遊ニモ持テ居ルニ弾ニ初メカラ休ムノモアマリト思ツタノデ、比奥ガ諸氏ニ中坊ヲ捉ヒ今ヒシテ、吾ゲテ掃ロリヲ電車ニ接ヒタ、吾モナリ満ニ乗ツトサレテ電車ハ「ゴー」ト走リ去タ

下友学校ノ門前迄ルルトガ、ヒ〳〵ト見一ノ金ガ響ツテ居ル、之レデヤウト思ヒタ

今ヨリ最初ノ少時ヲデ先生ガ新年ニ感ヒタトテ、次ノ様アニツイテ有益ナ話ヲセラレタ

一、新年ノ意義（此ガ年ガ新タニナルト共ニ人ノ心モ新タニナルデ、此時ニ本年ニ、ドーモツテタリ無ニ心ヒトナケレバナラナイトモツ様ナ事ヲ思フ、新モツテ事ガナイ大ニ良イ新年ノ意義ヲ識カツテ居ナイ人ガトモカシタ）

、新年ノ目ニ変ル（此ニモ前日様デタ、酒ヲノンダリ餅ヲ喰フタリ、ヨイ着物ヲ着ルノモ新年ニ目ニ変ノデハナイトノ説タ）

一、信仰ヲ持フ（之ニハ何ニモ仏教ヤ「キリスト」ヲ信ジヨトモフノデハナイ神トモ、半宗ニ拘ラズ各ニ居ルモノデアルサレバ、サレハ正シイ心ニ国イ意志トモフ信仰ヲ持フテスベテニ忠実デアレトモフノダ）

（ヒシ富偏ニアツタ）

此ニ宗教観モアル方ニ様モ引ハリ出サレル教訓話モアル毎偏何ニモ強ヲ聞ガニタシカ思ヒ新型翻早々ヨイ演説タ

待テ心中大ニ感銘シタ

今ヨリ休マナカツタ陸ガ講義ガアケタ後、校ニカツタ

ツヒニテ今夜ノ様ナ心持ヒ先程先ヒノ云ワレタ、心ノ平和ナ人ノ心ガアルト思フタ

九時半帰宅後ニ如中ニ人ガ式場ヘデル準ツタノガ

アオヨータ、キモセネニ立ツテ居ルノガ余ガ素吉ヲ、ヲ、キ

逃ヒテヤツタ

就床前此ヲ記ヲ書ク時正ニ十一時十分前ト成ル

七月一日

月	日	天氣	寒暖	摘要	雙信	受信
火曜	一月十一日	雨				

丙子

寺ニ十分起床 昨夜 雨降リ 郵便

本ヨリ陰ル日ヤ早ク来ル様ニ思ヒ入電流計表ヲ送ル、ソレニテ見ル

朝ノ上下ガ半期毎ニ少シ多ク来テ居ルノハ、ヤハリ、オイ〳〵予場ガ

雪ガ多ク快後ニツイテ現象ガ出テ来ル下半期ノ如キ立ル故ニ上下半期ノ

ニ最高ニ立ツニ成ルタナイトキニ平ラカナ程詩カナ調詞デアル、之レニ依テ

親ルト、十五那ノ書イテアル通リニナツテ居ル

夜ニ入リ夕食ヲ終リ映写見物ヲ借ニ行キ十分賛成ノ意ニ行リ

今日ハ先ヲ合ノ様ナ通リ借サレタ

十時帰宅ス帰途金ヲ寄イノデ「ウドン屋」ヘ飛ビ込ンデ、マヅキレイ〳〵ト思フ

月	日	天氣	寒暖	摘要	雙信	受信
月曜	一月十一日					

乙未

ムサレバ、サレハ正シ心ニ固イ志ヲトラ信仰ヲ守ツテ

スベテニ忠実デアレトラフノ

（ヒニ富倫モアツタ

ヒ之ニ家教親モアル方ヲ引ハリ出サレル教訓読モアル毎偏

何レモ極ク簡カニタレカ」ガ必ヒ外学期早々ヨイ後後ヲ

待テ心中大ニ感謝ヒタ

今日ハ休マナカツタ日ニ講義カ「タケタ」後ニ成ヒカツタ

ツヒテ今夜ノ様ナ心持コウ先程先ヒ云ワレタ、心ノ平和

ナ人ノ心デアルト思フタ

九時半帰宅表ニ出中ニ人カ式場ヘデル平ツタノカ

アオヨータ、キモセズニ立ツテ居ルノデ金カ来ヲ待キ

越ヒテ入タ

就床前此ノ記ヲ書ス時正ニ十一時十分前ナレ寝マ

ヒヨー

一月 何ヒ日暗ヲサハ 也暗ヲヒ丙ハドヒヤブリト迄ラ方カ一三ナイカ免ヒ郵

同現ナ夜デアツタ月 ヒ 記後々復習、神学哲学ヲ読ム十一時就眠

一月十二日　水曜　丁丑　天氣　晴　寒暖

發郵便ヲ見ルト東京デハ大分雪ガ降ツテ居ルソーダ。

又後ノ米ノ國ノ濱四ニ於ケル清飲道ヲ例ヘバ、其有様迄タラヒベトリ提

後ハ日ノ出ノ無條、雲動ヒ、清日マデガ大迫財ヲ為ノ日ノ日ノ為ノ「ツク

ス郷」トカ云ヒガ成立ヲ宣言シテ居ルソーダ。ドウ、ドチラガ勝ツヤラ。

ドーカ日ノ出ヲ無ラヒ之ヲ郷ケテ郷ヒイモノガ

有ル中ニ考ヘラ濱食羣ノ總無響ヲ与ヘレト發マレタノデ、午後早

速一寸ヲ現在ノ大体ヲ調ベタ、多方風呂ヲ上ガツテカラスグ

帰宅シタ、夕食中、奥ノ方ヲ宗教論ヤ人生論ニ及ンデ大分欠ヲ

云ヒ出タ、サスガ一文句屋ヲ絶ヒ[illegible]無ヲ言ヒ出ヲ、然モスグ

信發　受信　摘要

一月十三日　木曜　戊寅　天氣　雨　寒暖

合ヒ十分迄未帰隆、外ヲ、郵便、ドハ来ラ、洗、即チ現在調ベニ行

ツタ帰ヲ、ト帰後時帰ヘツタ餅花ヲ、ドーヲン」ニ上ゲタ。ヲ不現在ハ、実ニ

「アイマイ」ハ極ツテ、ヲ、ヒカナツタ、ヒカラナイ、ヒ合ノ棚部ニソースルト

アテニハナラナイ、十時正ヲ分カラヌマニ帰宅シテヨリ福祝地方ノ封上ゲ

及ビ、地方詰ヲ作リ、後文ヲ現在ノ調査ヲナス、前ハ

ハニカ第一頼ラナイ、而シテ尚金ニ到達、確カナ[illegible]ヲ来ルモノデナイ、ド

ト金マデ「アイマイ」ニ比ベトスルノデ金ヲ心ノ内ニナニクリ、分ヒニナル迄調ベ

スニ運ラネバカト思フ

夜ヲ日知後表ヲ作ヒ、大変ナヌカルニ閉ヒ、然モ

信發　受信　摘要

汁鍋に手鞠は引込れば笑ひ哉　（成美）

金曜	己卯	一月十四日	天氣	寒暖

今日の後ロ「ウフトーシ」氏元ガ今ニモ降リフーデ一ヨル降ラナイ様ヤナ
ロデアツタ、キ後出ヘ出ル軒ヨリシテ待ツテ週ノ帰ル後一ヨ勝ヘ
奥食ノ呉ハリ又帰ル後地言ノ帳合リナス
さるノ時ハ横ヨ後ノ腸ハ今庭義ルヒタ、但、五時ノ地ル
タヨ出函論ノ後ニ云ハ昼後ニ来リ、今ロ遠ル、ヨガ最初ノ百眠ノ
ヲ、ヨワツタガ角遠ル、後明ニ成ツテカラ、半々眠タイ夜ノサワカデ
ナイノデ、用ノタケマケ、パツトヒタ而シテ曲剣今ニツテ数代数式モ
ヨク、分カツタ、十時帰ル三十分後習ヒ之リ地又後ヨ出函論ノ後ニ
十一時ヨリ雪ガ降ル内ノ後生徒々後ノ後ニ之ヨリ稽古

發信	受信	摘要
		夕雨

須磨明石見ぬ寝心や寶船　（嵐雪）

土曜	庚辰	一月十五日	天氣	寒暖

六日半過ギ郵便郵ヲ受ケ後ヲ、ケニヲ務ニカ、ル如正月分カ、節季分
カラ今ハムシロ常ニ高クシテ多方モ此外ニカ休ニ分ノ井上氏ト出ノクヤツ
タリシテ四日半ドーフ、ヌーデ終ヘタ
尚ヲ一時ヲ後ヒヘ見終モーカアルカラ来イカラノデ
此家ハ以前ノ午前中ニ見終ヒ出セヌアル、今ヨ後ヨ先ノ今カ見
終ヒシタ半四ヒ空ト住又カ来タ、ケニ分ニ日書アルノ分カラ一ヨ十二三月
モーカル譯ケタ、新ノ夜夕食後昨年ノ日記ヲ書ノウヒ終ヒ
代数ノ要ヒ、後ケ今ノ来タ二学課義ノ新報ノ見ル時ニ成ノ取リ之リ
地又後ケ分ノ漢文持参ノ使ム

發信	受信	摘要
	義井喜作様	夕晴レ

王政復古を外國公使に告ぐ　（元年）

（規　子）君か嫁ぞしへかなみ踏み壺鐵

日曜	辛巳	一月十六日	天氣	寒暖
		午前雨午後晴卯後、今日外出見合せ日が無かりタ、入力了緒と者り畫食後淀屋定ノ子孫ノ足ニ入リ其ヨリ工場ニ向ヒ出ル風強ク雪ノ比先ヘ吹キ通シ、あ、方僕ニ者リ現ワセ知ナ、寒さもこりかと切ナリ、三時工場ヲ出テ帰宅ス接影ノ暫要リ得テ帰れ者が後ノ一枚、カレシノ稜枝ニ「ヤ」ヲ「ケ」タノ「ケ」写と直ス事ヲ苦しかり葛ヲ繁ラシイ、此ニテ今度ノ出来ハ皆ヨリ無イ様ニ願ヒ色々多入レスれナド、ケシカラヌヲ夕、此ハ帰宅地点ノ仕事整理、夕食、風呂、散髪、放れ寒人ノ後枝ニ花咲ク軍艦ノツブレタルヲ理ヒ午ヒ六時半終リ、物理ノ後習ヒ十時ヒリトシ。床ヲ延ベ之ヲ記ス後ヲ外写名詩抄ノ清ラ	雪	信受

摘要：雨、午後晴し　夕雪、アヽヤユシ

（年六平正）足利尊氏西國に敗走す

（其　角）島から頭巾呼ぶなりの若菜摘

月曜	壬午	一月十七日	天氣	寒暖
		六時半起床掃除、朝後、外写、簿記、復食、庫記在表等本ヨリ此ヲ以ニノ如シ。言ヲ李敬弟後外出見積書提出ニ付ヲ一人ニ々思ヒ々ヲ一人ニ入れアリ食ノ側ニヨリテ食ノ思惑ノ主ヲ手伝観スルニ中ニ入ト坊ヲ入リ中ヲニアリ、月工夫ニ和ヒ邪ヲ最慶シ本ヲ又家ノ電話ヲ半日ヲ古ヲ注文アリタリ、依ヲ先ヲ多ト工通信ヲ出ス、夕食後夕清砂ノ清ニ六時半授ニヲ比往後電車ヨリ夕清砂ノ清ヲ、夕ヲ家ヲ覚エル故事ヲ書カル、忠孝義ナド、云フヲ大ニ書メニナルヲカアリタリ十時半寝床	信受	信受

摘要：終日ハラ〳〵ト細雪　綿々タリ　夜少ク晴レ

（慶應元年）德川幕府征長の兵を止む

一　月　床ヲ引キ之ヲ記ス。

後本ヨリ夕後習新床後ノ獨卯報ノ後ヲ中ニ比ノ末日ノ技、夕ヲ

獨日ノ底押ヒアルトノ説ノ大ニ辭明ヒテ長タ

一月十八日

火曜　癸未　天氣　寒暖

宮内省延遅休掃除、郵便、竹子、今日ハ少シ日ガアツタノデ日獨郵報ヲ送ル

主任落記十時半頃迄ヘ出ル。ソウシテ書ヲナスノデハ解ラ

馳走ヲナン、一寸ハカカナガ着イテ居タ、此ハ雪ヲカブツテ大ブ、帰ツテ居

タ、食後帰宅現在表ヲ作ル、後ヲ接客室ヨリ納ヲ一ツハイ

カラデカードヲスンデヲ見ヲ送リ、横田ヘ注文ス、カードガ十五

デ七ハ十銭ヲ出ガ此用ハ一枚五十銭ヲ今計十五ヲ取ル

ヲ人ニ見ラレタラ、又一寸位ハ目ヲ出ナカロー

言フタ方本上ノ位ニ多ク本ト横田ヘ電話ヲ掛ケ又ハ計

26ヲ急ギ決ヲ白加減ヲ出ス色々難今ノ結果ヲ言ヒ十銭ヲ

受信	發信
摘要	

（萬延元年）　使節を米國に遣派す　（年八十二）

一月十九日

水曜　甲申　天氣　晴　寒暖

今ニナリ迄為替隆郵便、今ハ久々デ暖ク気持ガ好カツタ

言フ所ノ方一枚ニ表ヲ書イテ、ヒトリ「ヒセン」百版ヲ速ツテ送ツ

テ言ヒタヒヒ先ニ角ニ十ヒ日ニ十ヒデ値ヲ貰ヒタ夜七時頃、電話デ主

ノ所ヘ照会ヒタガ又肥人ガ居ナイデ、速報電報ヲ打ツテ居イタカラ、明日

迄ヲ送ルト返ヲ来タ

重任落記地ヲ引今ヒヲナヒ、午後演説庫ニ行ク帰宅後地ヲ

持参ヲ記帳シ後ヲ電話ノ書ヲ表ヲ造ヒ、ヲ用紙ニ張ヲ引ヲ

夜七時頃迄ノ後習後代数八ヲ日ヲ紙幕ヲ号ヲ達ヒ九ハヒヒリ記ヒ

受信	發信
摘要	

一月奏ヒ主人ヒ金ノ税引上ゲノ議案ヒ光下清国式二一ヒ二運動ヒヒヒ

木曜　乙酉　一月二十日　天氣　雪　寒暖

午前半側ノ如ク晴ル食後陰ル夜ヘ入テ下弦ノ月ヲ引イテ来タリ夕方ガテ入レル雲ガナイ其中前日来モ多ク来タル色々多配ノ書ノ開ク中ノ裏ノ入レル事ヲ多ク、金ノ袋ノ書ヲ多ク出タ多方迄難カタ、非多帰宅後出タ入浴夕食等ヲ済シ後ヤ登校ス、今日変ノ方多ク、次ク数カタ、殊ニ前ノ一時頃ガ眠カタ事ノ大キニ困タ、然シ勉国ノ如何ニ云テ数トシテモ知ル事ノ出来ナイ帰途一書籍ヲ買ノ例ノ使車ノ行リ迄ニ金ヲ少ク支出シ帰宅ケ電車ガ中々急ニ出テ来ナイ仕方ナク次ノ電車ヲ待ツタ頃ヤウト出テ

信發　信受　摘要　少暑

来タ日ヨリ外ニ出ル時ハ袖ニ入レテ出レバ大心使ガ一般飯月ヲ眺ヒソコネテ不平ヲ言フモアルトカデハ二三ナイカ一般ガ多ク

十一日　訪寂

金曜　丙戌　一月二十一日　天氣　雨　寒暖

六時半迄床掃除ヲ了、御後、各ル現在、地方、報知ヲ受正午

食後外加減ヘ了ル、五時ノ加減ヲ以テ正午過ニ全部ヲ調ヘ出ル、

五分ノ了ル加減ヲ知ル事ヲ知ル事ヲ知ル

三時半帰宅地方帳合ヲ時帰宅ヘ行ク浪板ノ撰ノ分ケ尾ル

尾ニ付キ序ニ入リ四時半帰宅終業

夕食後今ノ登校ヲ日直教授ナス、変ヘ例ノ相撲ノ錦ノ来ル

サー大変皆々騒ノ取リ合フヤウ、ヤー負ケタ、ヤコイ勝ツテ

勝ツテル一ツニツナド数ル者モアル、実ニ一時ノ騒ナ、ソージョーヲ強タ

ガ之ニ等ノ毎ノ了デ大相撲トナルト何ガモ之レナル、アレナ了ニ

「場ヘ入ルト序ニ帰宅ヒテ、シヤフ等ノ着ケ立ス場ニ種種ノ切ノタトカデ定デ殺テ居タ」

信發　信受　摘要

今ノ業務ノ出ル返ノ如ク雨ノ中ノ歩イテ来タノ了、トコロ〳〵ト叱ル了ル面ノ上ガ了居タ

一　月何ニ事ニ事ニ有ルノガ今ノ解スルニ一日因ル位イ二三ダガ又カルモノ中ノ帰ヘタ日ニ十日ニ

薄墨に文はきわまるなか柳（湖中）

土曜　丁亥　一月二十二日　天氣 雨　寒暖

例刻起床例ノ通リ午後濱ヘ行ク帰宅後税務署使員加藤上ゲ今ヨリ帳簿ノ調ベヲ終ラシムル即チ談話中ナレバ、ストーブヲ焚キナカラ彼使員ノ話ヲ聞クガタメニ時時ハ帰ヘラカ談話中ノ節々ドーモアヤシイ家カアラヲ暗ニ補ノトリ詰ル如ク殆ント自分ノ住計迄ヲ云ワレトモ所多位デ強ニ終ニイブレ時ニ大抵ハ来マセシカ郡役所デ今一人連レテ参ラマセカラ何時カ宜シク帰ラシテ宜敷フハイハ今ハ彼レ等ニ迄デ及ボセル所ニ、コンナモノデ増税ヤイヤ減税ジヤトカ云フタトテ何ニナルモノカ

夜分後米国ノ後ヨリ九時後ノ後物事ヲ書ク時半就眠

信發　信受　要摘　女晴し

（年四卅）英國女王ヴヰクトリヤ陛下崩す

（紅葉）端の雪るず奏てし伏や竹らむ

日曜　戊子　一月二十三日　天氣 晴　寒暖

午前六時十分前起床掃除終テ後ノ話

豊後ノ後ヨリ電話番号表ヲ作ル此ノ表ハ始メテ拵ヘタル個ノ限リ足後約三帳ト半分帳リ調ベタ為メ出ル内ニ入ル分ノ知リ在ル引分ケタナレバ此ノ通帰スヤ時間ノ足ラ強ヒタ食ヲ午前位ト答ル午前ノ時漬物ノ食ヒタラカナイガ今ニ「ヨアツカリ」ヤフタノガ、カツヒテ今ニ「トランシプ」リヤセートヒタガ断ノ時使ヒテ後ヤ分ヒテヤフト思ヒ後ヒタ書事井上氏ノ後ヒテ此ノ電話ヒタ来ノ夜ヤタ二月日デ工場ヲ行ヒヒテ世ノ横ヒタ但シ撰ヒノ工場ノ庭デヒテ世ヒテモガマワナイトヒフタガドーモソレデハ是分ガ悪イ物ヲ持ヒテ来タ事ヲ知レト思ヒテ双方ツッパヤ分イトナリ身通ヒテ先

信發　信受　要摘　午ノ井上氏ヲ中山ニヒテ相撲ヲ見ニ行カレタ

（年九卅）清日式正て於に京北す換交を約條

主人ニ此ノ月分ガ主人ガ出フレナカツタ為メ不得為ヨリヨーニ終ツタ。六時ヨリ八時迄 月言ガ主人ガ出フレナカツタ為メ不得為ヨリヨーニ終ツタ。其所感運動ヲトヒテ上ヒ為ヒ撰セセラレタトノ力學後習ヒシリ弛ス敗ヤ論語ノ種ヲ得ル為大ナリキ

月曜	己丑	一月二十四日	天氣 晴	寒暖

午前七時後外ニ出ルトアル人ニ逢ハレタ事ヲ語ヤ通ル、

逢ハレタ後、坪内先生、御使ノ如ク、畫工原氏、午後倉庫ニ行キ、

帰宅ノ前ヲ個々ニ成ル電話番号表ヲ作ル事ヲ、地方ハ番号付上ゲ、夕展

後風呂ニ入ル、暖ナリ、主人ト連板ス、但シ今ハ何トナク歩ミタイデ往復

共徒歩ニテ

言フ作ル門ノ三尊文殊ヲ電信ノ次ニ、北海道ノ方ノ向ニ全セテ

其ニ名ノ作ル中ニ中ニハ二市中ノ現物ヲ二月頃迄ノ前ノ日子

ヲ全部ニ、今新ノ如ハ二ハ名ニ居ラレル事ト電話ニテ来

デ里ニ入ノ依頼シタ、正午[illegible]来ル大ニ電話ノ題ヲ三月ノ

愛信	受信	摘要

火曜	庚寅	一月二十五日	天氣 雨	寒暖

七時十分起床、物ヲ食シタリ、

時ノ出ヲ、初ヲ食シタリトモ、タマラナイ、夜学校ヲ帰宅ノ

度ニ、電トカ電ヲ使イデアル、然ルニ今日跟ノ型校ニ帽子ト、タビ忘ル

ル、スレタノ、ソレニハ大キニ困ル、本ヲ出ル中校長室ト十二先生ノ

所ニ教員ノ参着人アリタ。

午時帰宅、又中山氏ヲ訪ネ、何カヤ、ヲ居ラレタ、見ルト例ノ

在張ル出ル故ノ口デアル、工ライモノデ僅々二ノ内ニ、百余歩ノ里ニ、ヤ、テ

比ル、美濃三目ノ如ク、大阪、神戸ノ現物ヲ送ル、ノ

今郵ト、ヲ、ヨイ位ナ、ソレニナル、夕、カ本ヲ再加筆ス、ル、ル、川ヘ

愛信	受信	摘要
		主人ハ午前ノ列車ニテ上ル

月ヲ日ヨカの用ノ由ヲ要ヲ対ケ、ヲ、ニ対シテ早速 係線ノ二七本強ヲ十ヲ、ヲ多

有ル又老ヲ人ノ命ヲ中ノ仲ノ年後ノ、ク、鋼殺代ノ人、ヲ、ニ、ヲ強ヲ、ヲ序ガアレバ、ヲ、ヲ、ヲ

一月二十六日　水曜　辛卯　天氣 曇　寒暖

信受

要摘

[illegible]止例ニ依テ例ノ如ク[illegible]後洗ヘ[illegible]吸浪板ノ[illegible]納衣掛ヘ[illegible]

一先ヅ帰宅中山氏ニ報告再ビ[illegible]ニ到リ、一通リ御来リナシ

ニハ西ヤ帰宅

先ヅ来ノ浪板ヲイヨ〳〵中沢氏ヲ以[illegible]同今セニ場ニ、二日西ヤ中山氏ニ見[illegible]書ヲ持テ即チ下神セラル、[illegible]ニ就キ何分ノ御ノ代表ニ？デ

数ヶ月[illegible]ヨ知ニ対シ解約ノ申シ込ニ[illegible]ガ、中山氏ノ理ヲ以テ

之レヲ拒ミ[illegible]解約ヲ望マル、ナラバ[illegible]方ニテ[illegible]以後其分ニテ[illegible]引スベシト考ヘシニ、彼レモ[illegible]ハ今一度考ヘルベシトテ、其後中山氏ニ対シ、何ト

モ電話ヲ懸ケテ之レカラハ[illegible]ト云フテ来タガ、ウマク之レヲ拒[illegible]

一月二十七日　木曜　壬辰　天氣 晴　寒暖

信受

要摘

[illegible]ル、タコ[illegible]早ク起キタモノドモハ、ドタバタ大ナ音ヲ立テ、掃除ヲ仕度ヲタノデ

[illegible]者ニ出ニ悩ヲカラ、今ハ[illegible]ニナ[illegible]ヨバカリ早起ヒテ、見ルト、マタ、ガ、ガ[illegible]

[illegible]ヲ[illegible]ん[illegible]今ハ掃除ヲ終ヘ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]カケタ時ニヲ[illegible]一人起キ[illegible]ヲ[illegible]タ、ナンノ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

金曜	癸巳	一月二十八日	天氣 晴	寒暖

午前例の通り十時過ぎ起き出で洗顔し果て食事済む
後かねてより早く一度帰宅したいと思ひ出でやうやう
なる三十日休みと聞けば明日一日配りすなればなほ
地方の引合せなり一年の清算書作成スデニ出
り通ずんば遂に多忙多忙繁務なり
十時十五分帰宅、之より暫く火を造りつゝ三三
冬的明治引継ぎ時代書を作る此間おすき老人が
焼きたてのおやき、餅を持ち来り喜ぶ、之れ大きなパドり
なりしが十二時十分前全部終り之より祝入

信發
信受
要摘
後記

土曜	甲午	一月二十九日	天氣 晴	寒暖

六時起床掃除後直ちに帰宅の為め十時過ぎ配達出で一時半帰宅
地方暖房なれど寒さ強し後書きしり例の
午前引合せ済み後「イコシ」来り五時
数髪こうの来が大つかへやうり終りて人持ち、其宮「氏衣」新志
ヲ待ち計算後直ち、撃剣稽古に出、サスが肩稽古に
ケ、時に達り忍ケイ、「インピ」ナ文かん、近し後直ち
に対スル氣細ナ歴史其他参考ナんべきるを出れるハ書ヲ
十一時帰宅五分に就寝
新聞老人帰宅、昨寒人病気ヶ今ヲ好サワーデアリ

信發
信受
要摘

月曜	乙未	一月三十日	天氣 雨	寒暖

孝明天皇祭

昨夜ノ休ミモ雨デ良無シト思フモ陰ニテ雨ナク、シカラ明ルイ事ヲ、アケラコヤラトヤフサガシ、アテ、ヅヒニ二階ノ客室ニ上リハ畫近勢ヲ写シ取ラタ揚ヲ別ノ「ノート」ニ写シ昼ヘ畫食後勢国ヲ、ナシニ出ヤ「トーヲデ出来上ガ「タ」主ヲタ食、少ク新浦ヲ歩ク。（本）平浦ヲ歩ク時ツヒヤシ終ル西下近乳寝シタ、ヒ一ヲ寝ヲナカラタ、其中ヲ〳〵皆遠ノテ来ルト、花合セリ乳ヲ見ヤラ〳〵ヤラタシタ、デ主ヲトヲ降リ見ル西、黒田西ヲト新浦ヲ十一五号見知リ見ヤ〳〵後ヤ

ツレリ浦ヲ入ル。夕食ガ早ヤカラ、デ、寝ガヘンカラ思ヒ滝君ガ多ク料理

受信	発信
摘要	

月曜	丙申	一月三十一日	天氣 曇	寒暖

今ヨリ暖ク寒イ日デアツタ。而シテ急ガシイ、ヤコシイ、嬉ナ様ナ、嬉イ日デアツタ

然シ何故カ分カラナイ、昼食後大阪板ニ行ク集会ヲ了ル時、淡タリ

主イ、イテ行イテ、直白ニ、イカニ寒ツ一番ガ、シカモ、雨上リデ寒ト駄ノ

歯形ヤ、車輪ノ筋ガ固ク凸凹シテ足ヲ大キク歩ミニクカツタ

夕、風ガカラ上ヤ主ヲ、主入ツタ様ヲ見ルト一辺、合ツタ、金ノ様ニ上ル

特殊ニカツタ、実ニ大分ヤコシカツタノデ内々心配シテ居タノ

夕食後主ヲ登校ス、十時帰社後今ヨリ集会ノ分ヲ入帳ヲ、地方会上ノ

記帳ヲナス、其内十二時ヤ、三時ヲ過ギ、夜ノ七時ヤ、ヒシ〳〵身ヲ

セマル様デ、風ガ時ヲ時ヲ強ク吹クノヲ、二階ノ便所ノ戸ガ

受信	発信
摘要	

一月中ヲ私ガコヒシ〳〵ト気味ノ悪イ言ヒヲ続ケ〳〵三三ツカ嫌ヲ、ヒ〳〵

悪ンノデ一丁決ノ用心ヲ足ヲ引キ主ヲ主ヲ新聞ヲ時一時

二月

春立（陰暦正月節）　雨水（陰暦正月中の節）

二月行事

十一日の紀元節は、神武天皇御即位紀念の佳辰なり、陰暦にて正月朔日なりしを、陽暦によりて此日に改めらる○此月初の午の日を初午とす、諸所の稲荷神を祭る、今年は十日なれば廿二日二の午なり○立春（此月の上旬）より初めて春となる、梅花漸やく東風に綻ぶべし○五日諸寺にて釋迦涅槃會を行ふ

節物時令

節分○立春○初春○梅○白梅○紅梅○探梅○看梅○春の雪○淡雪○雪解○殘雪○春風○東風○餘寒○初午○紙鳶○初霞○月梅○椿○鶯○初音○白魚○海苔○紀元節○下萌○初雷○青麥○早わらび○菫花○つぼ菫○根芹

食品月令

鰒○ほしかれひ○鮭○海老○白魚○いか○春菊○土筆○蕗の薹○鶯菜○其他の食品多く一月に同じ

諸國祭禮

河内枚岡祭一日
日向鵜戸祭一日
加賀菅生石部祭十日
河内四條畷祭十二日

○二月中行事豫記

十前六時半起床　今日は元旦だから、アセラテ、一寸用事がハカドラテ居ナイ

習慣等ヲ踏ムコトモ出マセン　無之ヲ以テ人情十一時ニ就寝

十時半ニ九時半帰宅セラレタカ、ソノ後ハ一人ノ客ナイトノコトデ仕業部ヘ電話ヲ懸ケルトモー帰ラレタトノコトデ安心シテ寝ル

人事廣ニシテ敢テ知ラレンカ

習慣等ヲ踏ムコトモ出マセン　無之ヲ以テ人情十一時ニ就寝

十時半ニ九時半帰宅セラレタカ、ソノ後ハ一人ノ客ナイトノコトデ仕業部ヘ電話ヲ懸ケルトモー帰ラレタトノコトデ安心シテ寝ル

人事廣ニシテ敢テ知ラレンカ

一五日ニ少ハ後習ノ進歩ヲ為ス為カラ、ダガ、ナカナカ

ネー、チャント

大雪

夕暮や嵯峨を嵯峨にしらしろに霞鐘む　（子鳳）

火曜	二月一日	天氣 晴	寒暖
丁酉			

中前六時半起床　今日も先ばかり「アセラテ」、一日も用事ガ、バカドラテ居ナイ

其ラセ大分急ガセカラテ、ソノ多ガ、　正午五分ニ、汽タイモノガ、ヤ〳〵ニテ其ラ

ニ時半大阪郵便局ヘ俳ノ見積ニ行ラテ、ソノ俳ガ出ルノハ三時ニナリ

雲竹ガ納メ帳ニ為イテ出ニ納メル事ニ為ル念ヲ押スノデ、今

拵メテ出ヘルナラバ、出ス日ニ間ニ合ハセ、マストニテヤラテ為ラメノ五十七ハ

叫ブ「ブ」ト「ブ」ノ孫ノ書ガ向ニ見ユナイ位降リ、ヒキ

ガニ休憩デ電車ノ乗リ降リ時ニ、「ケラ〳〵」ト嗤レデ、ロハ〳〵ト嗤リ

雪ノ其夫ノ夫ケテ出ル〳〵ノ輝イテ居タ

降ル後ノ帳ノ清ヘ出ル見ニ〳〵ノ帰ラスルトモ、ヤレト

（年九卅）　韓國統監府開廳

二月　比較ラテ、多分ノ時間ニ合ノ其ニ三五後ニ少時後習

也ノ日ノ中ノ雖ノ時ニ、ノ文ノ三ノ、帰ル時ニ見ルト、逆人ノ今ノ、憲兵隊ノ、憲兵ノ為ニ、ノ遠ノ

ノ、持ノテ其イトラテ其ノ、ノ、ガ出イトテ大サガ、ニ、ノ陽ノ、今ニ出ニ、ガ、ノ、ガ、ノ、ガ、ノ

（明　五）　なか明夜ふほにりよ聲る賣菜若

寒暖	天氣	二月二日	戊戌	水曜
發信	晴	今日大分ヨクなりましたが寒かった		
		正午頃ヨリ段々ト晴レて十二時ノ方ヘ向ッテ進ンデ来タ		
		早速ヨイヤウニト云フ訳デ仰付ケラレタノデ出掛ケテ来タ		
		ヨウヤウ西ヒテ時ヲスガ鳴ルヲ待ッテ居タ		
受信		故サハ迚最書後ニ出ル知ラセヲ云フ知中一孫十が		
		病ヲ家ノ外ヘ出カケテ来タ、夕方ニナッテ来タ		
摘要		又ダンダンヒレ、ナッテ帰ッテ寝タリデ居モ寝ル事ヲ		
		十一時十分		

（年七廿）　く開に里巴を議會生衛國列

（村　蕪）　なか夕きな塵に水み霞草

寒	天	二月一日	己	木曜
		一人殿ヒ二人越ヘタタマチバタ		
		走ルト例ノ著ハラウ		

（年　四）　く設を線信電に底海の間本日那支

水曜　今日は大分日が長くなりましたが、寒さは、

戊戌　正午頃から終夕、北に北へと十五、六里の方へ「ぺんぺん草」を求め

早速　ヌイフ見えんと右段御役所から修理注文が来たので、契約

書を取り交わしたること、数日にして、

二月二日　夜半は近頃書籍を帰見知りたる「ヒーヌんう」見知中一孫十が

病気で今朝の六時が今朝の十時、夕方から雪降り気す

天氣　見がたびたび出て、帰って寝たり寝ん寝ったり時

晴　十一は十度

寒暖

愛信

受信

摘要

木曜　高岡越後様陸軍の例に倣い後部役の見張番庫現在表を作り

己亥　帳簿引合せをかり畫長後、御役所へ知らせ始末書を送り

二月三日　そうして、が請求書に返さて修繕を強いて遠方へ帰って、帰途然御役所へ

天氣　寄ん、本日より今夕然御役所へ夜番に来ることとなり、ソレより清へ

晴　ゾロゾロ現れり見帰れ又

寒暖　夜半後へゾロゾロ例の逆吹が一番踏切へ来て又城東線の蒸車が横ハ

愛　ブ倒れ、ガラ、待ッテ倒れ　大勢の人がとこくと詰寄ケ倒れ

摘　然車の方も出タヤレ嬉しやトかくかくとゾロゾロ中央に長くく

続イテ貨車が又横ハッテ倒れ　ケナイ其内基白へ貨車が二停ッタ

一タイドーとテ是レハ、其内人ハ各々ヌタヌタ、流流車が

ピーピート、イヤナ笛ヲ吹クとカラ人ヲ左右ニ分ケテ

ヒユーくと走ッテ〳〵ヲ、ヤトこの煙ト走イ気流車持有ー

カが来ッテ、貨車ハ、徐行動カナイ、気車ノ北方

風ノ男ニ人ハ、ツツート又ケ走ると、トコロ〳〵、「今が

ヘラヘラ」か、吉原吸、「オイ、ツッチ側ニ祝レモ居ラヌノカ？

ヲ、ウレテ物サヒタラトウスレンダ、トワタクト妻等ノ

後ロカラ角煙サゲタ者人カ、ツリト現ワレテ、「ウレ

今メレテ吸ッテタンヤ、板橋ウ宮住イツナイヤカマ

ヒツテ来レナイ」トヒゲ河者ヲ待ッタ、「オー来ム……

「是ノ先ヲ吸タイワ」……「ヒレナンナラモ、ト白デ遠レテ

タラヨカッタ」……ナドトロニ不安ヲ稱ヘテ居レ、やが

テノ夕ゲ貨車ノ幾分ハ来レラノ、スグ初ノ方カラ、引ス

来ラレタ、が、マタ面レナイ、其内又ピュー

ピーピート、イヤナ笛ヲ吹クトカラ人ヲ左ヲ分ケテ
コユーリ〳〵走ラセタ。サトシハ煙ト走イ気汽車特有ノ
カガ鼻ヲツク、貨車ハ、依然動カナイ、気ガ付ク方
隅ノ男ニ人ハブツブツ文句ヲ言ヒ、トコロ〳〵「命ガ
ハラユーカ、当座吸」「オイ、ソッチ側ニ強レモ居ラエノカ？
ク、ウレテ堪ラヌドウスルンダ、」トワメクト奇等ノ
後ロカラ角燈サゲタ者人カハソリト現ワレテ、「ウシ
今メシテ吸テタンヤ、板喰ウ男住イソナイヤカマシ
ニツテ言ヒナイトヒデ向ヲ待ツタ、「オー寒ム」……
「ヒノ先ガ冷タイワ」……「ヒレナンナラモト白デ遊レテ
タラヨカッタ」……ナドトロロニ不安ヲ繰ヘテ居ル、ヤガ
テノ動デ貨車ノ幾分ハ出ラノスグ動ノ方カラ、引キ
ヨセレタ、ガ、マタ直レナイ、其ヲ又ビ引ク
一人毎ニ人越ヘルサマチバタ〳〵ト
走ルト例ノ番人ハ「ヨシ〳〵、アブナイ〳〵」貨車ガ動ク
ビ命ガ惜シケレバ、オイアブナイオイ〳〵」トヤッキト
ナッテ居ルカンレデモヤハリ駄ビ近ヨレン奴ガアル、其内前
ノ貨車ガ動キ出シタ事ヒテ、直線ノカラヲ向カレタ、
待チ〳〵タビレタ人々ハ一時ニドット迫ルトロツヲ又
日ビ現ニドヤ〳〵ヤッテ来ルト、ハルカタガ左ノ方カラ
汽笛ヲ吹ニナガラ汽貨車ガ又ヤッテ来タ「早ク直レ
ヤ〳〵」ト騒ヒ立テタ、ア、ヤレ〳〵ト思ッタ、ブー！
ト何故鳴ラカケナイガ「ブ部部」ト改ヒ駅長ノ指図
ニテヤレーカナドト思ヒナガケ発振シタ
十時発的物ト呼ンタ、今ロノ当時ノ元気ヲ
奇ガ帰ッタ可ヒ言ヒ、若皇ガ、寝ヒヒナカラ、上ヒ元ガ
「カタヒ」ヲ「ウ」ヒ居ラレタ余ノ所時空ヒタ美ヒ
アタ、メ、居ヒ、ヒ、ヒ、

横に這うて蟹も出けり梅の月（斗入）

金曜	庚子	二月四日	天氣 晴	寒暖

午前七時半ニ目ガ醒メタカラ、ウツラ〳〵スル内ニ時ガ経ツカバヤ、モシ俺ニ差リ入レン

タガシテ門ヲクヾル鐵ユー音ガ強ヘナクナツタモシイヨク寝ラレテイデ

立ツ迄来ル時ヤ分ニ出勤スル如キ寝ヲセタ、イモ早イ内中ヨデ今ハ今ガ

ヨウテ分ヲシテカラヤツト起キテ来タ

今ハ節分デ鬼ガ外ヘ出テカラ休ミトシテ居タノガ半休トナリ早ク出来トナリ

遅ヒ方ニ出勤シタ、今ノ風ニ入リ込ミ乍ラ帰宅シタ

夜ニ入リ先ヲカラ、独リ暑強盛者トシテ人ガ

写真ト醫師ノ試験者トヲ送レト云ヒ今ハ一ツ一ツヨウヤカ、タケマケ

ヨウ心ヲタ、ヨウオレモ男ガ最期ヤカラ見セルト、ソレカラ見ガ居レバ今ヲ

愛信	要信	摘要

土曜	辛丑	二

相撲ガ、アヒカラ四勝ナノデ、父ニ知ラヌ教ヘテ帰ル

遅次ノ物ノ立番又中ニ入ル又出ル「コレハ」ト嬉シ

登校ス

今ハ出番ガナカタ、ソノ長ノ例ニ会ハナカツタ

ソノ長ノ話ニ、ドーニ紙ノ性ドレニ似テ居ル

ソレデ会ニ、ソノ事ニ集ル時ナド声マデ

会ハナニトナカ、ナツカシク感シタ、ソレハ彼レノ者ニ

又ハ「ツクツク」ト「ホー」カラ結ヒタ、ソレ

ニ入タデ、各々トモ家ガ勝ラナカタノカ、ソレト

ナニ言タカラ下宅ニ教エテヤツタ

十時帰宅ス知リ後ニ後就床ス

今ハ

夜食ヲ先ニ済ヲ終リ足テカラ、父ヨリ流行サスノ如ドーシタ

ヨウカ、又ハ其ノ物ノ中ノ分ヲ

思タノデ

我水雷艇隊清艦來遠威遠を擊沈す（廿八年）

四月	日	天氣	寒暖	發信	受信	摘要
		晴				

二月五日	日	天氣	寒暖	發信	受信	摘要
土曜 辛丑		晴				

今日モ教ノ授業ヲ了ヘタ後ニ父先ノ御ニテ最近セヨカトノミト腐心シタ、ソレニテ今ノ若枝ガ体ニダカラ定ヘ帰ルハヨイカ然ル場デ寝ル様ニナッテ初メテ一体ノダカラ早ク帰場ニナレバ、教会ガ良イカト思フノカ先ヅ一度試ミカラ一ヨウニナッテ居ル今ノデ丁度ナヨウナカラ、安リ返ルガ過レテ初格ノ機会ヲ逃ガス様ナコトニナラウト何ニモナラウト典思ヒ返シテ修養ニ力ヲ尽シテ居タノモ捨テ、居イテ帰定ヒタ、ヒヒカリトスルカ丁度

数サニガ過ビ来テ居タノデ其ヲ見ニ行ク風ニ成ッテ世ヒ早ク帰ヒル様ニ待ッテ居タガ七時ニナッテモ帰ラナイ、父ハ一寸用ヲカネテ出ヲ出テ

ルヲ待ッタカ、今ガ用ヲカアルトカラノデスグ帰ッテ来ヲ差レタ、ヨウガ

丁度二月初サニガ帰ッテ仁来タノデ今ニナルト見ルト呼ビニヤ三九ルト今帳合ヲ

ヒテ居ルトノ事ヲ、是ニ又其ノ日居ノ言サニガ過ビニ来タデモ今ヨリダメト思フノデ

参良様先生カラ来タ之迄ノ手紙ヲ見ヒ見セル授業ニ

預ヒテ、少ク主腹ノ体ニ帰ッテヤッタ、宗陸又見ヒ

ヒヒ人ガ的格ノ器械ガ出来ルカラトカラ、ユーユー

ト帳合ヲシテ居ルナドハナシタ帳合ガ[illegible]ナ、左程主急ヲ

要スルモノデモナカロウニ人ヲ雇ヒニシテ居ル事ガ

コレナラヲ考ヘカラ帰場ニ、是ニ角迄ヲカ過レテ

思フノデ此ノ文ヲ返ヲ、考イテ居イタ

後ニ母ニ知リ使ヒニハヒヨクヲ目ヲ眺ヒ「居デ

来タカ」トカリヒタ、九時頃ノ者ガ出風ヲ、ドーデスト

カテ来テ居レタノデ一風ニ話スルコトタ、溜場カラ

ヲ移ル迄来ルニ大ヲ遠イ其ヲ、場ニ[illegible]

ヒヒ「カラタ」ヒヤリ〳〵トサワルル心地ヨリ、ヨイ気味ダ

寝ヲ者ト為ヘ教ヘ主ニ母ニ知リ使ヒナ事ヲ秘密

ヒタ

金曜	庚子	二月四日	天氣 晴	寒暖

午前三時ニ目ガ覚メテカラ、ウツラ〳〵スル内ニ時ガ経ツカバヤ、モシ怪シ方ガ入シ
テ来ルカモシレナイト思ヒ、ソワ〳〵シテ居タ。イヨ〳〵寝ようとスルノデ
ある。時ハ延永ガ時ナ方ニ出掛ケテ居タノデ、イクラ早イ方ヲ目ザシテ
出テ来ルトシテカラヤット起キテ来タ
今ハ節分ガ近ク成ルカラ休ミトナルト云フノガ半休トナリ早ク来ルト
ナリ遅クトモ出掛ケテ、全ク風邪ヲ引キ帰宅トナルカ
左ニ全ク先ヲカラ、数ヶ番強盗考ト云フ人ガ申ガ来テ、経験者ト、
写真ト醫師、試験者トリスガ送レテ来タ。今ハ一ツ〳〵ヨクヨクガ、タケマケ
ノ心ヲ、ヨクオレモ男ダ。長崎ヤラ見セルト、初ヒテ見ガ居レバ今ニモ驚

發信	受信	摘要

十	辛	一

相撲ガ、アヒラ面白ナ[illegible]ガ、父ニ知ラセ教ヘテ帰ラ[illegible]
次ニ出掛ケテ主人ト又中ニ入ル又出テ「コレハ」ト云ッテ「ハイ」ト
登板ス
今ハ出掛ケナカッタ。初春ニ例ニ会ハナカッタ
ハイ〳〵ト云ッテ、ドーモ知ラナイ様ナ様ニ成ッテ居ル
ソレデ会ニ、ヒヤリ考ヘテ来タ時ナド声マデハッキリ
会ハナイトナラナカッタト感ジタ。ソレハ後レ書ニ
又ハ「ハイ」カルタ結ビタ。ヒヤリ考ヘテ来タ
ナルトハ多クカラ下宅ニ教エテヤッタ
十時帰場ニ出掛ケ知リ後ニ後就寝ス
今ハ本ニ会ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]

日曜　壬寅　二月六日　天氣　寒暖

七時十分ニ勧学院ニ先生ニ手紙ヲ渡シ引ケ七ツ

ナスニハ同氏宅ヘ参ル先生ニ逢ヘヤ写真ヲ取ラセ四時ヘ帰ル

時ガ過イテ引イタ。但シ明日ハ、美濃獨立軒ヘ写真ヲ出サズガ方ニ隨一

写真館ヲ出ル

一先ツ帰宅シ食終ツテ外ニ出ヘ写真ヲ受ケ

帰ヲトートート宅ノ思ヒ外ケテサラケヒ今夜ハ父ガ何レトモ言ハ

ヌカラ居ナイトモ思ヒ先ノ帰ヲヒ帰ヲ思ヒノ外

早ク用ヲガ済ミイタ帰ハサスガニ暮ケテ配ヒ多ウテ心配ヲガ

いや無用配ヒ内ニ居ケヒ死ヒトテ心間敷遠モ多無ク解決

月曜　癸卯　二月七日　天氣　寒暖

ヒ多、而シテ先生ニ出ベキ白紙ヲ先生ニ見セテ居ケタ

ヌカ居ルカ如ケデ

相変ラズ考教ヒ授ケ掃除ヒ、終テ宅ヘ帰ル途中ヒ

昔ノ知ル頃中上ル件ニ付ヒ出ル所ヒ無ク帰ル採用ノ

趣ヒ通知ヒ来ル為ノ有難ク存ジ

実ニ其後考研究今ニ於テ吹ク手段ヒ飛ル獨ノ実験

ヒ為ハセラレル由ヒ到ル到上ニ用ヒ為ヒ内ヒ

時機ノ来ルヒ待ケ中ヒ居ヒ打開ヒ試ノ報ニ接ヒ

機ヤ快晴美景ノ感ヒ抱ケ中

警部ノ試験表、展展書等ヒ写真等ノ後使ヒ送ル

ル郵送中ニ紛ル失ル故ヒ送ル故ヒ送ル

故ヒ送ケ為ヒ遅ル

[illegible]

大学院ヒ出ル先生

拝下

[illegible]

二月　教室ヒ張出カレテアル、比等見ル等実ニ四二班ヒ

考ヘテ見ルト二十才ニ十ヒ才ノ者ノ書イテ居ルヨウデハ多ク遠ブ

多クハナイ大ニ差ヒ勉強セナケレバナラナイ、十分帰ヒ今ノ吉田氏ト日宿舎ノ話ノ書リ

日曜　壬寅　二月六日　天氣　晴　寒暖

七時十分出勤高良氏先生と共に船ヲ雇ヒ行合セタリ
ナスには内務省高良氏先生と迄ヘ出張ニ相成ヘキ旨長官ヨリ電報ニ付
明廿五日ハ引イタシ度旨ヲ以テ埋蔵ヲ中止ノ為出軒ニ及ヒタルカ
雪氣餘カケテ出帆ナリ
一先ツ帰宅夕食後帰宅父ニ夕食後又ハ伯母様ニ行ク外兄ヤ
姉ニドートート父ノ思フカケサルヲ今夜ハ父ハ何レトモ
ヲカシミ居ナイトモ思フ兄ハ此度ヤハリ〳〵トモ思ヒノ外
早ク用ヲ済シタイタ帰ハサスガニ落ケテ死ヒカラ〳〵ト心配ヲカケレ
ハ無用ニ成ルカラ安心ハ出ヒ死ヒトテ此問題迄モ多無ク解決

受

摘

月曜　癸卯　二月七日　天氣　晴　寒暖

相生二十名ヲ考察ヒ相撲ヒ行ヒ夫レ繁忙中ヒ
若ミナスハ頗中上ヲ伴ヒ出ヒ居ル無ク帰宅ノ
趣ヲ通知ヒ来ヒ有リ　有難ク存ジ
実ニ書後学研究会ヒ於テ吹毛ヒ伝ヒ飛ヒ機ノ実験
ヲ為ハセラルヘキ由郵便ヒ到ル上ニ用ヒ有カヒ為ヒ内ヒ
吗機ノ好ヒ事ヒ行ヒ中ヒ行ヒ所ヒ柏ヒ此ヒ一ヒ報ヒ接ヒ
機ヤ帆船実験ノ感ヒ起ヒ居ル
警部ノ試験表、履歴書等ヒ留英等ノ後後ヒ出シ
此郵送中ヒ行ヒ居ル故ヒ行ヒ先ヒ出ヒ不ヒ敢
此上ヒ方ヒ迄ヒ迄

高良氏先生
拝下

帰ヒ姉ヒ金ヒ月末ヒ九時十分帰宅ヒ兄ヒ分ヒ僅ヒ
十時風呂ヒ入ヒ後又ヒ寄ヒ十一時十分就床ヒ
後石岡日ヒ記ヒ分ヒ今ヒ日ヒ
寝ヒ

日曜	壬寅	二月六日	天氣 晴	寒暖

帰りかけ帰と金子自費ヲ九時十分帰途ニ就キ見物ヲ済シ十時頃名古屋ヲ後ニ出テ十一時十分発ス紙帳ヲ後石岡日ヲ暮シ帰ルガ今ヨリ二年ニ成テ寝タ

月曜	癸卯	二月七日	天氣 晴	寒暖

板ヲ舟モ如何ヲ材木ヲ屋根モ白ク〳〵義渡ヲ行事場表ノ場劇ニソーテ北ヘト急ガ叫ブイ、然シミルイ夫ノ太陽ガキラ〳〵ト正ク霜ニ横ヒテ成ル美シカツタ

今ヨリ北ヲ出テ来ル事ハ運命ノ室想ニフケリ過ケタ然ト用事

"鄰沢山アツタ所ヤトヤツパリ〳〵ガタ〳〵ト過ツタ

夜登校ヲ今夜昨夜ハ東學校ニ提出シテアツタ"男国ノ黄ツタ

"思ハ"美ノ若上トモ改ガ"良"可"結可"ト記ヲ知ケテアツタ金ノ比ヌミ

多内ヲ知"美"今一枚ノ美ナレド"可"ナラカル者アツトアタ実ニ不用ト思タ

畫カナカ〳〵ノカヤハリ〳〵ンノアツタサテ残念然ト"美"ヲ知ノ内一枚ノ

發信	奈良ヨリ金ノ一帰ノ日ノ多弱ノ板ヲ今ヤ正ニ"ポスト"ニ白ツテ多ハナサレトスル例
受信	之ヲ金ノ弱ノ星命ガ初メテ来タ人ノ多ナート思ウタ
摘要	

二　月　教室内ニ張出サレテアツタ、比年見タ穿実ニ四一枚ニ力ツタ迄ニ

（茶　一）雪る殘にれ逃寸一やしま淺

火曜	甲辰	二月八日	天氣 雨	寒暖
御ミ伝ヘ申上ケ候ヲ用ガ醒メル方ハ改カラ早ク使ミ七ツ起来、先ヲ去ル				愛信
一通ノ用事ガ済ムト流ヘ〳〵ヤリレカラ大阪和使ヘ比ノ船ノ上納書ヲ				受信
残リ遂ヲ〳〵ヲ十ツ西ヲ帰ル				要摘
一ツ頃ヲ〳〵ヒ〳〵ヲ〳〵ト雨トナルヲ雪後ヘヲ〳〵カラ、スカコブル牛因難ナ				
ヨテアッタ、此頃石思ハ仕ナルヲ〳〵大綿ヲ〳〵十一ツ前ヲ〳〵ヲ早ケレバ				
ヲ〳〵濃カラ月ガ醒メル〳〵ヲ雪後ヲ一ツヲ暖ヲ〳〵サイ先ヲ有難ヲ〳〵ダ				
様ヲ〳〵ヲ様ヲ〳〵ヲ機嫌悪者トヲ最期、カラ〳〵カラガル外職関ヲ吸				
ヲガ、ガカラナイデハト思ヲアテ、元新ヲ石油機関ヲ取モヒヲ使ヲ				
又金ヲ残ヒヲ居イテ〳〵ヲ方ヲ〳〵ヲ方論ヒガラ費ヲ元値ノ出制及ヲ七八制住				
デ壹ヲ題ヒヲ				

（年七卅）東郷司令長官露艦三隻を旅順に撃沈す

水曜	乙巳	二月九日	天氣 晴	寒暖
雪ヲ一ツ如後ノ				
ヲ今〳〵ヲ				

今宿原任ヨリ送来

火曜

御ニ伝ヘテ立ツ時ニ為ス用ヲ解ム方ヲ

起来、我ニ出ル

ヲ、此ノ上他ヲ

ムコブル外国敵ナ

ヲ早ケレバ

難ヲ

外職国ノ及

ヲ強ク

及ヒ之ハ到住

奈良原氏より送来

水曜　乙巳　二月九日　天氣　晴　寒暖

受信　受信　摘要

今ヨリ以後ノ修学ヲ為ス後ノ書ヲ、農業ニ関スル用ヲ為ス

ニ付キ其物ヲ見セ

後ニ時事問物ニ帰ル、主ナル密題ノ問題ニ関ヲ十四歳ヨリ

国勢ヲ知ル工ヲ、後者良原先生ノ手紙ヲ書ク、近ク出カ

ヲ寄ス老生近カ十四歳カラ、国ヲ酷ヒテ寄ヲ、一日先ヲ帰ル今

ヲ、ヒ家ノ二合飯ヲ提ゲテ帰ル、皆嬉ビテ喜ビ

モ多イナイカト、而ノミニ過ギル云フ以テ半分ホド、トボ〳〵トダン

ボヒソ、牛蒡ニツケテ、ガリ〳〵ヤラカシ、フリ〳〵ト話シタ、自分

ノミ弱カトテ、宗教偏カラ国教ヲ偏ニ道徳トナリ高業偏ナリ工業偏ト

農業偏トナリ遂ニ余ニ貴ノ中ニ工業ニ就キテ勉強ニテ

陥ル様カトシテ、意ニ動合ニ電気ヲ業ヲヤテ居ルヤ

ガテ、カラ何ニテ一ツ、ソフトロリ、ダイテ足様ナドトフ

様ニ、ニテ居ル、然ニ余一帰宅ヲ見テ余ニ為ニ計カテ下カ

ル、カラ余心一中ヲ感謝ニテ、然ニ今余ニ生ニ

様ヲ書クテ居ルナドトハヨ云リナカラ、其四十五歳ニ

久シキ前ニ過ギ去ラタリテ、床ニ入リ余ヲ眠ル迄大悦ヲ

感ス

十四歳ヲ、ハヨリ知ラテ居ルフーニテ、ビハヤハ

ヲ、ニ精ヲ

人の見るがな表なりけり野路の梅　（蒼虬）

二月十日	木曜	丙午	天氣	晴	寒暖
	今から別に大したるもの無き様の気持がするが、後の影響が今が後の方				暖
	方は先生へ手紙を書屋宛に下書きをしたり				暖
	寝る三時迄ら就眠した				暖

摘要

征露宣戰の大詔渙發（卅七年）

梅白し きのふや鶏の盗まれし　（芭蕉）

二月十一日	金曜	丁未	天氣	晴	寒暖
	臨時に見えアルコール分が極少簡単ナ健康狀態ガ				
	ことに世に帰遅の家に寄附の一部を提供する				
	一時酒一カスリ分ト吸イ込ンデ帰宅ノ遅ク行ク考遅ク				
	先月ノ「実業少年」ニ巻頭式機械搭型ガ出テ居ルノデ				
	之ヲ購フベク市況ヲ「アカラ」ガ無カツタ、此頃細雪降ル				
	ト降ラヒキツテ居タ				
	帰宅後勉強ヤツタガ為ノ一年ノ政治ニ関スル実政				
	結ヲ太イヤツテ「ヤツテ」比舞ヲ「ヤツテ」新橋一時後十時				
	頃迄カヽツテ寝イタ間モダイ無ヒニ[illegible]ナリ終ル				
	モ一寝ムリヲニナラナイ又ハ[illegible]ルコトヨ—				
	後ヲ次カヒノ為ニ合ヒニ苦考機ガアルトスルノデ雪ノ降ル中				
	ノ後ヲ来テヤツタ此考ニ面白イノデ電話デ呼ベ難				
	ケテ見タ、井上氏ヲ呼ヒテ貰フト思フガ、又例ノ「かれタ」リ				
	ヤツテ居ルトスルノデ「如何ニ」ヤカヒテヤツタ、ソレニテモ又				
	「かれタ」逃ビトハケヒトナラヌ、先トモ私ノ連中トモヒ、ヨーロ				
	度如何仲間ラシヒタケ「腐ハイ」ヒタモノ				
	殺ミ後カヒノ定ヘヤツテ見タ中ニ行イ外ケ寄席ナ家デ				
	アツタ二時、来ヒ、後ヒツカ二個並ヘテ置テ其上ニ古書ガ高ク				
	積カサネテアツタ、コヽラサスガ昔カ昔外ケニ工ライモノダ				
	外ノ逃ヒテ帰宅、後ニ昼見ノ残リ続ヒの時前就眠ス				
	本ノ大半ヲ帰宅後立ケニ先生ヘ手紙ヲ出ヒタ				
	次ノ通ヲ外ニ健康状態一通				

憲法發布二十年祝賀會を行ふ（四十二年）

人の見るがな表なけりり路野の梅（蛍　著）

木曜	丙午	二月十日	天氣 晴	寒暖

ッ俗ッテ来テヤッタ此者ニ面白イノデ電話デ私ヘ話
ケテ見タ、井上君ヲ呼ンデ貰フト思フノガ、又例ノカルタリ
ヤッテ居ルトイフノデ、部屋ニ寄カテヤッタ、ソレニテモ又
カルタ遊ビトハケテヤラウ、先ヲヒ私ノ連中トモヒ、ヨーモ
食物屋仲宮ヲ之ヲ外ケ「腐ハイ」ヒタモノタ
教ヒ方ノ定ヘヲッテ見タ中々ヤケ奇麗ナ家デ
アッタ二時、来ヒ、結ヒヒカ二個並ヘテ置ケテ其上ニ古書ガ高ク
積カサネテアッタ、コヽラサスガ昔ガ昔ダケニ工ライモノダ
サ時遊ビテ帰ル、後ニ昔見知リ続ヒの時前私眠ヒ
本ヲ大半ヲ帰宅後ヒ先ヒ先ヘ手紙ヲ出ヒタ
次ノ通ヲ外ヒ健康祝ヒ一通

征露宣戰の大詔煥發（廿七年）

梅白しきのふやふの鶴の盗まれし（芭蕉）

金曜	丁未	二月十一日	天氣 晴	寒暖

紀元節

例到遅ル来テ先生ヘ手紙ヲ厚書ヲ書キ封
皆ニ納メ後十時近ク場デ雑煮ヲ食タ（後ニ今ノ
二場ノ様ニナシ）アルカラ居ヘ帰リ依服ヲ着ヘ食ヲ済シ、帰宅ス
今ノ日正月ニ香ヲトテ定ノ雑煮ガ出ル事ヲ居タ、ケレ共バイ又方ガ
タ変ガ今年ノ方ノ出歯ガ無クナッタノデ元ノガ作ラト云フ人ト今ノ
ヲト云フ人トガアッテドチラトモ分カナイソーダ
兄姉ノ二キリニ先ガ此度出ルデ夜十時ノ時近ク遊ビニ来ルノデ、ドンナコト
ニナルデ居タ、全モ居ル為イ遊ビヲスルヲ知ラ居ルノデ、ヤリガヒ
注意セネト思ッテ居タノダ、遊ビ本ヲ一ノ帰宅ヒナカッタ、ナメ夢ヘナカッタ

發信	奈良 安先生
受信	
摘要	後ノ雪 雪トナル

憲法發布二十年祝賀會を行ふ（廿二年）

土曜	戊申	二月十二日	天氣 晴	寒暖

五時ゴロフニ既ニ目ガ醒ヨタノデ歐州見物ノ續キ後見物ノ不油機ノ

ヲ繰習又七時十五分起床ナ時ニ場ヲ見ハ時帰ル力ヒ郵ガモ来テ

居ラレタ、今ノ繰日落ノ繰ヤ通ニテ一日ヨリ十日迄デノ多ノ今郵

記帳ヒタ後地方郵ノ帳簿ナモ繰ンヤ多代空ニ又ノ著ヘタ著物ヲ

多早ク整理シ太陽ノ集ヲ完ヘ持帰ル八時帰場ルモ二ノ少時

接吻九時半就眠

今ノ張ニ居ル日少ニモ繁ノ力ヲ又繁ヒタノイノ外、現由トスル者

ノ今ノ此ノ情体ガドーモ面ノ白クナイ、飲酒、喫煙、トバク、シフト、イヅレ

道徳ニ反シ居ナイモノガナイ、何カ評ガレル様ナモ持ガヒテナラナカタ故

ハハ、ヨシ！ヨシ！

發

受

摘要　後ヨリ

日曜	己	一月十二日	天	寒

アハ、モシ（仏蘭西カラナイガ補鑑）者ヨ居サイ

居ラレマスカ？

ビキリニ電話ヲ繋ケテ居ルガ一向ニ出ラレナイ、ハ、ーニ

アカニアカナ、ドーモ口、孫用ヒテトサルガドーカ？

狭イ山ヨ（谷ヨ？）カラスケテ出タ一路ヲ機スート

心地好ク走ツテ来ル、嬉々タル哉！

中ニ一カニツテーヒ」ガアル其傍ニ天ニ聳ビユル大樹ガアル

（何ノ木カ知ラナイ）冬カレノ葉ニナイガ精繁ヲ八方ニ

廣ガリテ居ルノミカ地上カラ実一ノ枝迄ノ高イ

ハヒニ伝イデハ到底、ヨニ合ヒ兼ネル、出ナモ出ナ

ガ今ヒモ彼ノ鳥ヲ捕アワレト思フ内ニ大樹ノ最モ

高イ枝ニ達シテ動カナイ、業者ハ幸イ何ヲモナイ

ガ中々ヨ迄ヒヲ動カヒ来ナイ、

ハルカニ眺メテ居ルハカリ

土曜　戊申　二月十二日　天氣 晴　寒暖

五時ト云フニ既ニ目カ醒ヨタノデ歐州見物ノ續キ後見物ノ入浦獨逸ノ練習艦七時十五分延期ノ時ニ場ヲ見ハ時帰ル如ク那カ出来テ

ハヒヒ信イテハ到底ト云ヒ合ヒ兼ネル。出ヲ出ル

夫カ今ヒモ彼ノ飛ノ鳥アワレト思フ内ニ大樹ノ最モ高イ枝ニ達シテ動カナイ、兼者ハ幸イ伸ヒ出ヒ

カ中ニ出ヒ入ヒカ出ヒ来ナイ、

ハルカニ眺メテ居ルバカリ

晩下ヨリ

日曜　己酉　二月十三日　天氣 晴　寒暖

五時頃ヨリ起ル後ニ七時延期ス、ル

今ニ後ロ孤ニ立テル北帽嘉地ヨリ請求ヲ作ル

敬ロ時ヨリ比舞ヤ宮ヤ食ヲ終ヒ帰場十一日遣ス技ヒ史図

ヒカヒル為カ今ロニ又ヒ出ヒレノ時一ヒ日遣ヒ出ヒタノデ時トードー

止メヒ比舞ヒ、カキモチヲ焼キ茶ヒノリ殺ヒ終ヒ

今朝アマリ先ヒノ遣ヒヒ気遣ヒ精カ少ヒ弱ヒ見ヒ即チ

別研ノ為アル

發信	受信	摘要
		後景

月曜	庚戌	二月十四日	天氣 晴	寒暖

晝後、義塾ヲ出テ、流井方ニ、日外約束ノ所ニ赴キ、寒イ

時々雪ガ降ッテ来タカラ同ジ

ロ時頃ニ風呂ヲ沸シ、家ノ者ガ持ッテ来タ

五時終業ヲ告ゲ、家ニ、海ノ幸ヲ又ヲ買ッテ、花ヲ生ケ

度々、方ニ坐禪ヲ為ス十時十分前帰宅ス就床

發信	受信	摘要
		雪時々雪

火曜	辛亥	二月十五日	天氣 曇	寒暖

此事ナレ、ヲ先ニ、返事ヲ待ツ

夜、明ケ方ニ、家ニ書ヲ送リ

十時就床

發信	受信	摘要

水曜	壬子	二月十六日	天氣	寒暖
例と依て部屋の中で鞋を履き帽子を被へられ迄半道々			晴	
夫の鞋に有様を思ひ出て一は アーカコーカ老へる所				
今日客人の帰者を急いろいろ作夜迄如何とも喰べないので				
で食つ仕時とも分からないので、そこに暇を貰うと時死去と、年過うて又				
一之通りをオクラれ訳ナノデ今から暇を貰う様子風と色々見せて居カウ				
カト思フノデ其相談をする先それに色々か来るやこれカト帰宅と				
此夜の事を居カラ「後間」カスノ話をとり、帰かオカこれ話を				
使とで居ると帰りを待つサレハ明日和合部使を待て帰る場風を				
入り直ちに就眠				

發信	受信	要摘

木曜	癸丑	二月十七日	天氣	寒暖
ナルと後母様と連レラレ横須賀へ行き船に乗り横須賀に着き妻子夢破ると				
時五時十五分前ハ一寝ラレナイノデ船の揺れ又昨夜遅く宮業中の				
足と、妻長女が船の揺型と而と先生の有様が考へ居ると金の不				
先生の面と揺られ後ろ姿と分る、顔ハ色イカ「ハさ」の通り口先のきり				
トと多目の冷とイ好男子、好青年士官、之レで娘が船の揺様				
後の家トラッカラ実と金の先生トと敬ふと何ノハツル妻カアルヤト				
ヲトヲイ位「後ノ」後ノ部屋ノ工夫ノ為国と子足ヲカ作ノ思フ通ラ				
ハラカナカッタ少を改良と多、然と中々皆マデ出来ナイノデ本ノ為後				
ノ癖と子之ヲ分ルヲ多ハ時前出発後ノ如那と意見ノ一寸モラ				

發信	受信	要摘

金曜	甲寅	二月十八日	天氣 晴	寒暖

午前九時ヨリ醫師ノ研究ヲナシ終テ今ニ眠ニ陥ル

夜九時歸場服ヲ脱ノ研究ニ從フ九時頃ヨリ眠リヲナス

「うどんいり」ノ夜ニ又研究ヲナス十一時就眠

午後研究中ニ待ち人ヨリ電報アリ明朝ヨリ出セリ出用ニテ

ノカト考ヘルトカワイ子ノ事ニ思ヒ

發信	受信	摘要

浪サムノ自分ニナルヨウ跳走ガアル八時半歸場

去四ヒ、カキ餅ヲ焼クトヨウ考ヘ焼ク

午後中遊ビ遊廊ノ事ニ彩ノ金ガ遊ブヲ伺シテ遊ブ

ノカト考ヘルトカワイ子ノ一度ノ

中ニ大変ナ廊通ニナッテ来タ・トード十一時半ヲ

過ギテヤット眠ルニ就イタ

歸場ノ途次先ヘ手紙ヲ出ス・途々思フノニ今ヨリ

ヲカネバナラヌ又ケラ以ズ自叱ノ稽古ヲ嘗々勉励

実ノ厄介ニナラナイ様ニ出来ナイト思ヒ考ヘタ

土曜　乙卯　二月十九日　天氣　曇　寒暖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日曜 | 丙辰 | 二月二十日 | 天氣 晴 | 寒暖

記了著物ノ乾了後ハ研究

二月

發信

受信

摘要

五四

月曜 | 丁巳 | 二月二十一日 | 天氣 晴 | 寒暖

年賀ノ為ノ五分日ノ暇ヲ以テ研究

夕方ニ帰場ノ座敷ヲ用ヒテ外ノ試験ノ大勢ノ張紙ニ紀四ノ書ヲ認ム

後向ヲ帰場ヲ去テ

後ノ紀要ノ研究ヲ

二月

發信

受信

摘要

五五

火曜	戊午	二月二十二日	天氣 晴	寒暖

[illegible]

午後宮ノ現在ノ中山氏ニセカレテ大きと国ヲ[illegible]ノ[illegible]ある大ク[illegible]

痛ミタリ　アヽヤ、ヨシカラン

大時[illegible]場入信講義[illegible]整理後如現後ツテ[illegible]ヲ燒キ[illegible]後研

究十時就眠

發信	受信	摘要
長井書[illegible] 返ル	長井書[illegible] [illegible]	

水曜	己未	二月二十三日	天氣 晴	寒暖

今[illegible]ノ家ノ苦辛ハ下降ノ際ノ力ノ[illegible]ノ[illegible]ノ機ノ破碎ス

ルニ[illegible]ノ事研究ノナセ[illegible]ノ論結ノ得タ、然ルニウマクノ[illegible]

ニウマクノタカリシイ

夕[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ

木曜	庚申	二月二十四日	天氣 晴	寒暖
今日午ヨリ研究会ノ行レシ待ル事モナカリシ 時等スベキモ 研究又研究如何等考ト大事ナリ				

發信	受信	摘要

金曜	辛酉	二月二十五日	天氣 晴	寒暖
毎朝ト雖モ今朝不図モ早カリ、オ互ニ考ヘテ考ヘタ 今マデノ研究ノ仕方ハ実ニ使用ノ点ニ於テ具体的ノ考案ニナリ ナカリシ為ニ発足シ難ク時ヲ費ヤシ事ニシテ、然ルニ御ニ カラダガ少シ出ケ残リ九ト諸事ノ悪ミ割ニシカトモナイコレニ 一番ヨリ タニ嗚カラ電後デヨンデ来シタノデ食ハズニ嗚デスルコトニ下ル 四牛男氏ヲ伴フヒ肉ノル処迄ナリタ後研究ト如何ナル就眠 一パイ機嫌デ越ニ上タ事ハ二ト戸迄ナレハ一日色ヲ帰場ニ 何ヲ更ニタ出ナカリ利ニテ明文ハ病気ノ為メ帰国セリ				

發信	受信	摘要

土曜　壬戌　二月二十六日　天氣 雨　寒暖

朝から雨やく降りて曇やすこしづつ晴れて雨が
ハ上がる
午後御ノ山ノ研究、今日電報ニ来ラスと云フ
夜如理ノ思潮ト今迄解スルノ来タル迄ノ今或ハ
ズシ〳〵解スルカ出来ルノデ此考ヲ心持ガ好カラ後ヲ
研究

發信
受信
摘要

日曜　癸亥　二月二十七日　天氣 晴　寒暖

ヒ時半ヨリ研究ヒ時ヨリ動ク一ヒヨリ用ヨリ終ルヤ昔ヒ一ヨリ
整理ヒ殺書ヒ配ラヒヒヒ時帝国帰ル中方帳ヒヨリヒ来テ
居ル書ヒヒヨリ研ベヨ帰帳ヨリ上ガリヒ時就終業
ノ時帰場遅ク心病筋ニテ駄ヨ機ノ玩弄ヨリ足ヲ寒ヒ輕快ヒ
ヒ来テ居ルノヒ感心ヒヒ、今ガ作表色ヒヒ夫ヨリコヨヒテ、終
就ワカヨノガ今ノ玩弄トヨリ好重ヒヒヒテ居ル実ヒ余リ今
自分ノ淡薄ヒル性来ヒハヒヒ、年ヒ而ヒヒ益々一倍ノ努力セサルベカ
ラサルヨリ、日向ヨリ、ヒ時迄ヨリ就眠

發信
受信
摘要

月曜　甲子　二月二十八日　天氣　晴　寒暖

愛信

受信

摘要

七日十五夜ニ勅願ロ入ル多クハ後ル、今ハ石名塚ト、ソ人ノトカメリ得ルヲカナカラ宮ニ拂帳ノ書ノ様ニナラヲ初メテノ

ヲ夕ヲ入ル多ハ白ヤ坂ニ居ト見ル様ノ塚ノ下ノ塚ノ様デ夕食ノ

ヲ、大分酒ノ味ニ夕、夕ヒカニ一今ノヤラヲデアル。然ニ左程ニヨラ

ヲノデイナカラ夕帰途不図ヒヒヒヲ帰宅ヒ夕而ヒヲ、ソノ婦モ

来テ居タノデ今ノ時業ノ大体ノ方針ト稼希望トリ述ベ又ヒ

安心スル様ニナヒ手伝ヒヒヲ居イタ、ソノ婦ハ今ノ頃ノ様ノ人ヲ

好イ色ヤ了。否ヤ知ノ目ガ悪イ様ナ、ドーモ出イナドト酒ノ目ノ

悪イトノ百遍ヘヲ出来ヲ夕（西倫日モ少ヒ悪ンカラ）サヒ背筋ガアタカ

ヒヒヒナラヌ中ソノマ、十時帰宅ヲ寝ヒ十一時就眠

三月

（陰暦二月節）啓蟄　三月

（陰暦二月中の節）春分

三月行事

三日女兒ある家々に雛棚を飾る○中旬より彼岸に入り○その中日即春分の日、宮中にては春季皇靈祭を行はせらる○民間にても佛事を營み○六阿彌陀詣などする者多し、秋分も同じ○彼岸櫻開き初む○十五日は向島梅若寺法會あり

節物時令

春雨○春水○春寒○遅日○陽炎○絲遊○春の海○汐干○春宵○春鐘○春山○朧月○春月○朧夜○柳○猫の戀○長閑○水ぬるむ○山笑ふ○霞○佐保姫○若草○摘草○彼岸○春季祭○春の草○初櫻○雉子○雛祭○雲雀○燕○歸雁○若鮎○春陰○花曇○梅若忌

食品月令

若鮎○さば○鰆○飯だこ○かれひ○かながしら○きす○こち○鰹○鯉○鮒○鯰○蛤○あさり○蝶○螺○赤貝○雉○山鳥○小鳥○三葉○芹○花柚○生椎茸○鹿角○蕗の薹○鶯菜○つくし

諸國祭禮

三日	三日	十三日	十三日	十五日	十六日	十八日	十九日	廿日	廿日	廿日	廿日	廿日
駿河	駿河	駿河	若狭	大和	上野	摂津	豊前	陸前	志波彦	宇佐	廣田	貫前
神田	淺間	御祖	歳彦	狭日	若春	大春	若彦	上彦	摂彦	豊彦	上彦	摂彦
部祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭	祭

○三月中行事豫記

火曜	乙丑	三月一日	天氣	寒暖
上野ヨリ自由海ヲ渡リ説ヲ変ヘトコトゴトク自由ノ精神ヲ發揮セカルヽヤウ			曇	
東京ヲ渡ルニ是情タルコトヲモ忘レ純ノ[illegible]ズ余ヲスラモ今既僕ニ教				
業ヲ授ケルニ及ヒナイガ勤勉、精力、正直タルコトノ念ガ[illegible]トヒラ迫				
ルノヲ覺ユ				
今ヲ書合ハ如何ニモヘタノト多分香港ハ三無洋ヲヘノ電報ヲ				
山上郎ノ書イタノデ、言ヒ合ワナカラ多カラ書ヲ直ヒ其他ニ終ル月				
表ノ準備ニ費ヒタノヽ				
夜頭痛ヲ感ジタノデ早寝ヲ				
夜ヒ帰場ノ途次自由海ヲ過ギ[illegible]現ヲ見ル				

發信	受信	摘要

水曜	丙寅	三月二日	天氣	寒暖
床ノ内ヲ自由海ヲ渡ヒ[illegible]ヲ物[illegible]務ニ慰ヲ感ル足ヲ自				
由海ヲ渡リタ云ヒ帰場ニ十分百姓[illegible]後ヲ飛ヲ現現[illegible]				
後計ヲ[illegible]ヒ迄ヒ眠ニ就ク				
月ヲ閉ヲ後ヲ先ヒヲ今ニ場ニ昔迄ヲ[illegible]ヲ今一度ヲ[illegible]				
ヲ[illegible]ヒタノデアロー、又ヲ				
云ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]カナ[illegible]カヲ又カ、ドーヲ風ニ持ヲ				
ヲヲヲノデアロー、ナドト考ヘルト[illegible]ヲ眠レヲ				

發信	受信	摘要

木曜	丁卯	三月三日	天氣 晴	寒暖

身吐ヲ強ミセ付ル為ニ立タ事ヲ務ト著リ有ル体等書ヲ完成ス

務修業尽ク後井上、改ト所理（長化ニ三）務京ト推薦ノ由ニ送ハタマタマ

場会ガ終リ部ヲ後ケス場ヘ宿立ト雖シカ乞ヲテアルートヲ乞

寄ラシ身ニ物ヒヒ塔一章ニ「イヤドニナラシ」「イヤコタヒユーム」ト言フ

クトカフヒ一ガナイ丝ヒヲ乞ヲ象ガ実ニ不可思議ダ、ソレハ電車デ通フトヒテ

ヒ電車マデ歩ムノガ、ジヤマナトカ、車デ送ラ等シナラ、マタマタ乞カイ

ヲヒナイトカ、或ハ立ヤ先ヲ後ヲ長シナラハナドト実ニ食ヒ彼ヒ等ガ

何ヒノ為メニ生キテ居ルノカ解ラナイ全ク章ヒニ今ハ近父先輩ノ教

導ヲ受ケ居ル時ノ感化ヤハタ昨冬以来ニ業夜学校ヲ通ヒ

金曜	戊辰	三月四日	天氣 晴	寒暖

ハ

ハ

要

ハ

ハ

ハ

木曜	丁卯	三月三日	天氣 晴	寒暖

動カナイデ今度ハ、等盤ヲ、捷ニ二段ヲ、カシテ其上ヘ十五ヲ番ノ外金ヲ後ヒ、ソノ上デ試驗スルト一番ウマク、ヲ、ヲ、ガ、ヒ、ハ、ガ、ヲ、動イタ、ヒ、ヒ、ソ、ヒ、ス、ベ、ル、ノ、デ、外金ガウマク、ク、ク、廻ラナイノデ、之ヒ車ヲ着ケタラタヒカヒ、ヒ三尺ハ、ヒ、ル、モ、ト、タヒカメタ、ソコデ、ヒ、ハ、最期「緒ガウ」デ機体ヲ構ヘ、ス、ル、ヒ、ヒ、ヒ

鶯のあちこちとすやるすやや小家がちち（蕪村）

木曜	丁卯	三月三日	天氣 晴	寒暖

曲水や岩に三つ組五つ組（希因）

金曜	戊辰	三月四日	天氣 晴	寒暖

午前出時頃「逗子」ノ停車場ヲ出テ直ニ内ヘドーモコヽヲ出ル様ノ話ガ
オシイ様ナモノダイナイ様ノ気ガシタノデ直チニ、トダ後ヲ追ヒ自由論
トノ話ヲセヨ出張ス
帰場ノ途次ヲ合ヒテ農ノ機ノ動カヲスベキ「コツ」ヲ求メタ
帰場後直チニ推進器ノ発送ヲナシタ、マヅウマク出来上ガッタガ抽ニ動
カナイ様ニ付ケルノニハドーシヨート思ッテ色々ヤッテ居ル内ヘ職長ノ中お
ガ来テ之レヲカウクッテ付ケテ居レタカナニガカテ「ユーリ」ノ投ノ居イノガ
カウ又ガタ〳〵動キ出シタノデ昨夜ノ手デ〳〵巻キニクヽウ付ケテ
ヤット成功シテ見ルト昨夜思フ通リハタシテ重ニ自ノ上デヤルトナニモ

發信	受信	摘要
		快晴

鳴く口へ花の散りこむ蛙かな　（柳居）

土曜　己巳　三月五日　天氣　晴　寒暖

今日は長道を徒歩で行くと云ふ事で、皆の手前ハレテ出掛ける。泥ぬかるみ川の「ランカ」といふ渓に霧雨が降りかゝる。先づ来た所の「ハルピン」の「ハルピン」の「ハルピン」

日曜 庚午 三月六日 天氣 寒暖

日 天氣 晴 寒暖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日曜　庚午　三月六日　天氣　晴　寒暖

郵便一通ありとて見に電話で今多忙なれば帰れ帰れとのことなり直ちに居たり

夕食後一寸帰場と言ひて帰宅其儘外出務所に行き向こうに見えて一寸死次ぐ居たりと言ひたるが「明日の夕方」とのことなり実に八きりのことなれども思ひたるが見こうやはり先ず行くべかりあれども一応先方確めたる上にしようとのことなりドーダトノ意見金最初の如き帰宅帰ったるが遠と先ず強と同意とす、宅と寄れと何故か母が父が大変悩みつゝあれと言ひ居り、帰宅金ノ為ることかとのことなりトノ為金ノ父ノ異意ノ解さんとかまわない何故なら今日迄

（金ノ勇気欠如ノナキモノトシテ父ノ為ニ一つ考ヘテモヤラウ位ハ言ヘル）

父ノ為ニ対シ一つ考ヘテモヤラウ位ハ言ヘル

受信　発信　摘要

天氣　晴　寒暖

ナレトノ始終云ッテ居タタ為ナリタ迄ニ様子ガ位ノ遠イ為ヘメクトテ心配シタリスルカラ

然シ金ノヒナカニ思フ父ノ返対意見ハ表面キノミデ金ノ後部ニ家庭ノ事情ト外ニ後ニ対スル後理トニヨルモノナルヨウ、

デ金ノ今ヨ迄ハ四年ト後ヲ結ヒテメタイト思ッテ居タガ此有様ニ到底ダメダ、金ノ此考多分ニ依ル外迄キリ論フタ、

ソレニトテモ最初ニ父ニ最ト安心スル様ニトナレハ

ナラン、先ニ言ヒ帰ニモ知ラセテ言ッテ遠慮ノ為ケルモノダ一日サレバ之ニ考ヘテ強ノ様家ニトナレバナラナイ、先ニ言ヒ基準備ノ整ヘカルベカラズ、当ヨリ其陸後ニ外ニ雨ノ人ニ非ミノ父ニ帰ニ対スル迄ヲ多幾ノ所ニト書イタモノダ一ト今ノコニナルヲ考ヘナカラ言ヒ帰場ニタ、而シテ先ニ角先ニ多場ノ書クコトガ、今ニ来客カアッタ為メ以後ニユブリ「セルフベルプ」ト「科学立国」ヲ後ニ十一分半就寝

月曜　辛未　三月七日　天氣　晴　寒暖

午前四時半目ガ醒メタ。先ヘ一度寝ル。一下ニ寝ヨウトシタ。四時半延期。洗面ヲ終ッタ。ムコウ側ノ空ハマダ暗イ。星ガキラキラト細イ月ガ微カニ照ラシテ居ル。下ノ外ニ我輩近来ノト家待ッテ迎ヘガ来タカ。「ヒ帰ッテスガ」ト伸ビヤカニ一寸ツイテ居ル。家ノ後ニ頼ム、イラナイ。ヤリ示シタ。車夫ガ場外ニ出テ居リノ客ト言ヒ迎ヘ居ラウトイ不ラナヤウメ、帰ル後ニ試リシタ。ヘタ様ニ、金ガ沢ノ者イタノ云ッタ聞リシテ、誰レ一人起キテ居ナイ。ソノ中マデ云ッタ半時モ経ッテ起キタ。金ノ沢ニ居ル時ト殺ル早ク夜ガ明ケル様ナ。ナテ起キルガ及ヘテ通ラナテ居ル。ドーモ此方ノナイ人ハカリダ

信發　奉天ヲ出発

信受

摘要　夜沢村様リ出テ船ヲ様ノ音様リ送ル

火曜　壬申　三月八日　天氣　晴　寒暖

今朝ハ、定四先ヲ会ヘテ個リ壹ヲ奉ガ二ツ前ニ間ヲ奉ガ三十七円ト延テ個ノ高ハ二ツ君ノ裏カラ定四ノ指ヲ出ヲ十個ガカラ十個ノ持タセテヤレトテ十個ノ指ヲ迎ヒテ来タノデ不ノ延テ一高ハデ壹ツ延テ個ノ高ハ二ツ延テ個ノヤレトモフト前ヨリカ十デヨイ云フテ居ラレマスト迎ヒテ来タ。デ金ノ一声後ニ多ノ沢ノソレナ不正ナ方ノセスト変ヒイ（前ハ「ハ」ヲ「ヒ」ガ云フテモ「ヲ」ヲ又延テ一高ハデ）壹ツテアレバ延テノ持タセテヤラナサイ」ト一本ハネツケテヤッタカ十四郎ノ中サイデ結ハ十個ノ十個ノ主ハ二ヒ持タセテヤレ申ヒ夜「セルフ入ルプ」ノ後ニ又ハ沢ノ撮リ送ル

信發

信受

摘要

水曜　癸酉

三月九日

天氣　晴

寒暖

執務中ヲ眺ル得テセルフヘルプ繪ム中ニ畫ヒ「オックスフォールドのオール」ヲ見ルスやはりにある汽の表面ヲ眺メル時ニ「余モ自分ハ此主義ニ基ク」

ガラクタ物ヲ「余ノ可ナリノ多ク」ト自信ヲ記セリ

夜知覚ヲ・壁ヲ「一時ヲ余ハ何ニ」ヲ記明ス

今日ハ場ニテ反射燈ヲ「五ニ」ヲ選ラフ、アリタリ余ハ稽ヤ

久ニ自ラ之ヲ見ル内余ノ身体ガ煙カラ出ル熱多ク感ル

熱ナドハ出ル「おテル」位デアルノデ余ハ此考ノ熱ヲ全全放散シ

イ物ヲ製造スレハ為ノ消費料ガ眼考ヲ減ジ又型ヲ流スノニ

今少シ機械的ニ出レバ人決リ少クシテ生産ヲ為ス

受信

摘要

木曜　甲戌

三月十日

天氣　晴

寒暖

諸費ノ準備トシテ昨日買フ所ノ何為公例像ヲ帰ヘ買フ

多方帰宅シタ ツ ヒ ヲ 図デ 迄ヲ用意シ持フ帰ヘタ為ガ、又ノヤウニ

ガ為ヲ居ル余ハ実ニ驚イタ ヲイテ居ルト一時ヲ為ルトノ「、ソレニ

ヒ知ラシテ言レナイノ多、此ニ今ヲ「男デ大分 強ヨリデアヲ又

多ク為ル大ク機械ヨリ後ニ何ガ近ヲ「素人浮ルリガアルノ

ヲイテ来ルトシテ出ヲ、ノ多、デ余ハ帰ニ個像ヲ示シナ内デ買フ

買フ「ニ於ニデ最初ハ多ク ヲカヲ多ガ遠ニ「ヒノニ」ヲ此ニ

アヲリ余ハ心持ヲガラリナカヲ多ノデ帰後ヲ云フヲ主義フト帰ラ者

笑 書ニテ居タ九的帰場後ヲ個現十時半就眠

受信

摘要

大津繪に蓑こぼしゆくゆしぼこ蕪かな　（蕪村）

金曜	乙亥	三月十一日	天氣	寒暖

「セルフヘルプ」中ニ博士メーソン・グードト病人四訪ノ為メ毎年ニ集ラ週ンテ之ヲ「ラクレケウース」ト飜譯シ、「ヘール」ハ「ガーキ●ウト」ニテ話ス人ハ之ヲ「コンテンプレーション」ト書キ「バーネー」ハ門モヲ屋敷スル為メ中ニ佛蘭西語及ビ此方創作ノ書ヒツカークホワイトハ之ヲ語ルニ直勤セル往後ノ途中ニテ希臘語ノ等ビタリト有リシニ余モ孤ヘ直勤スル途ヤリ創用ヒタリ漢文ノ要ロレト志シ今既ニ多年ノ実地ノ為メ果歩ヒクヲ之ヲ今日ノ名詩鈔リ後ヤリ地ヲリ例ノ如ク大差ナシ

發信	受信	摘要

山里によいの鐘の鳴る彼岸かな　（蒼虬）

土曜	丙子	三月十二日	天氣	寒暖
			晴	

海ヲ渡ッテ吟ヲ為ス飛ハ鉢ニ移ヲ時ハ雷ヲトモナイテ、出ル返次第一ヲ為ス吟ヲ飛バサレントセシ事ヲアリ夜如此、角恢、後ヤキ餅ヲ焼キ食シテ十時次就眠

發信	受信	摘要

（來山）草の春つ捨はてつしむはてつしむ

日曜	丁丑	三月十三日	天氣 晴	寒暖
發信				
受信				
要摘				

朝から雨降り後ハ代教之時ニ成カと、サリワレ孔こゐれこ多大雖寒ニ成り

多分和國帰宅ニ、法要ノ云ハリカトテ帰宅ハ能ニ分ヲ多

ハ時帰婦の陰後れ時孔眠

（方山）照れば桃降れば柳の節句哉

月曜	戊寅	三月十四日	天氣 晴	寒暖
發信				
受信				
要摘				

今年ノ一ツ贈ル物語ノ後ハ後ノ為ノ義ノ後ニ少ク、出初ス

後ハ後ノ為ノ物ハ後ノ事ニ帰宅ノ為ノ歩ノ川ノ要ノ為ノ孔ニ

事ニ子ノ帆布ノ月ニ、ハ孔イテ、少マリ買ノ後ハ新ニ子身ニ

子見ニト物ノ多イニノ一ツ下ノ子ノ丈ニ上ノ多ノ無論ハ

下ニハ子ニ捨ニ子モノトカ後ノ一ツ下ノ多ノ五十ノ義成ヤ

ソノ多、後ハ時近ノ多ノ工拵準備ニ夜業ノ子ス

水ぬるむ頃や手鍋もおもしろき　（河　誰）

火曜　己卯　三月十五日　天氣　丙　寒暖

信受　信受　要摘

佛語ヲ後ニツヽシテ如カヲ稽ル要アリヲ

主　樂ヲ集ル人ノ樂ヲ求ル者ニヲ樂ヲ急ガシヲ

夜、昨日ヨリ一時ヨリ勉強ヲシタカラダノ所ヲ心ヲ吸ヲ安ヲ

ヲシテ之ヲヨリ十時迄ヲ數學ヲ學ビ百ニ出養ニ陳ニ夢用ノ計

第ヤ、請參ス人ヲ出ル書物ニ就イテ充分ニ勉ヘヲシヲ出ル

心持ヲ寢ニ就ヲヲ得ヲ時ヲ十一時ヲ過ギ

青柳の泥にしたゝるゝ汐干哉　（芭蕉）

水曜　庚辰　三月十六日　天氣　晴　寒暖

信受　信受　要摘

立時覺醒ヲ為ヲ後ニ六時平起床倫敦後ヲ為ニ立勉

ヲ為ニ忠實ニ後ヲ六時歸場ヘ後ヲ飛ヲ機ニ車取ヲ

十ヲ八時半ヨリ漢文復習ヲヒテニ出卿ノ時實ニ弾カヒトヲ北絶

ヲ誠ヲ即チ下ノ如シ、

決然去國向天涯、生別又兼死別時

誰知今夜出鄉志、慈使情緒顧考弟

書ニ後ヲヒカヲ警使ノ音ヲ聞ヲ門者ヲヒヲ手ヲ者ヲサヒヲ光ヲ

ナイノデ自身電話ニヲ陳宅ヘ電ヲ近ヒカ否カヲ聞ヲト

板屋橋ノ向ヒ方ヒ角ヲトノ下先ヲ歩心ヒヲ十一時就眠ス

今夜老ヒ人ヲ

ヲヲ帰ヒラル

木曜　辛巳　三月十七日　天氣　晴　寒暖

立時學校行ク積リニテ立時半迄ニ御宿リ積リニテ出発

出張ノ準備トシテ諸々用事ヲ片付ク

夜九時帰場入浴ニ十分ニ教學校ヲ出テ直チニ就眠ス

發信

受信

摘要

金曜　壬午　三月十八日　天氣　晴　寒暖

此時半ヲ以テ宿リ後ニ後ヲ眺ム術研究立時半迄ニ御宿リ積リニテ

ニテ和泉ニハ八俗先ニ出ニ夫迄ヤ迄ヲ進ニテ

タ立時ヲ今ヲ二坊猪鼻祭ヲ入ニ丹上天ト金トハ地ニ貴ニ移リ

ニ帰ニ金ニ先ヲ力ニ寄ニ例ニ此ニ出ハ仁盃ヲ辛ニ アトハ

皆ニヒワカリニタリ教ヲタリ大ニ ニヤヤカラアヲ ナ時今郵

寺ニ就眠ニ

發信

受信

摘要

サユリ絵ノ如ト比ベルモノガイクツナシ出来、今ハ服装ニ関シテ多クノ時間ヲ費ス、夕食ヲナス、三時半ノ時間ヲナシ終ツテ加キ饒煖リシ九時頃就寝

八二

土曜	癸未	三月十九日	天氣 晴	寒暖

ベチクトト天窓ヲ打ツ雨ノ音ヲ聞イテ再ビ目ヲ醒ヒタ時ハ既ニ夜ハ明ケテ帰ヘテ来ルト中主ハニガ手方板ヲ出ストッドニナ丁カト考ヘラレタノデ、ツマラ美術ノ同ヒ丁ヲ考ヘルトヒ方ヲ教ヘテ美レト云フレタガ余モ此ガ方ヲトキリト考ヘテ居タノガ解ラン丁ガ出来ナカタノデ、ヒカシ全ク又研究セネバナラヌト思フノデ、ソレカラ色ヲ工夫ニ工夫ヲコラシヤウト講義後ノ中カラ引ベリ出シ年筆デ出来ル様ニナルカヲ考慮デヤセウトデーモヤリニクイデ又考ヘテヤウトスル時ニ丁ヤコニナカラ筆遣デ丁ケンヨーニナリ中ニハ二人ト連帯ヘタ、後ヲ外ヲ多ク後ニ又同ヒニ対シ中ニハ二「スケッチ」ヤ方ヲ暮シ語シテ来ル時ニ迄ハ少ク物著

日曜	甲申	三月二十日	天氣 晴	寒暖

今曜ガ余ノ眠リ多ク後ヲ外ケ「セッヘンブル」ヲ続ク

夕食後生徒ト帰場入浴後夕食後ト天地ハ待シタノデ内ノ馳走ガアル後ヲ「ミ迷タイムス」美後ノ日ヲ送ル

十時就寝

發信	受信	摘要

月曜	乙酉	三月二十一日	天氣	寒暖
春季皇靈祭				

發信	受信	摘要

火曜	丙戌	三月二十二日	天氣 雨	寒暖

今ここ帰リ出シソーナノデ偶偶のまことのマ、遂マズと早足ニ場ノ去ル途中

昨ノ日戦ニ行キ一時ノ休戦ノ到ルマデ待ツテ見様ト思フカ、やハリ一ツ早ク行ッテ

其ノ一ツアル正ノ一ツ内機強進者トシテ一番戦ノ蒼ナラ必ズ勇ノ感ジ、行ッテ

出来ル内ニ外セカンデカラズト思ッタ、然ルニ此法心ノ通ルニ、ノ待タカンヤ

ラカニ到ル、ハ数ノ高ノ孔ノ体ニ成ルヲ前ハ正午、始メトシテ

死去ノ報ニ接シタ者ノ、ダ一人ニ不足ノ今ノ食事長ノ内氏ノ死去ニ

接シ何ニモ知ラズ故アッテ知ラレニ知ラ帰宅ス

八時半帰場ノ後ニ、ノ昨日ノ記ノ文ニ綴リ就眠ス

發信	受信	摘要

初虹に蘭の芽芽を撫て見る　（星　諧）

水曜	丁亥	三月二十三日	天氣 雨	寒暖

本日午後三時前母氏一華後ヲ以テ法華ノ通夜ヲ営ム　僧二数人参通ス　其ノ和尚ノ如キ人物ニテ孔子ノ教ヲ説キ一家ノ謂カ母氏ノ許ニ

数年セラレカルヒーアクレヤ　此ノ故ノ次ノ差工ハ無キ限ノ孔子全部

見通ノスルコトヲ又全ク不幸面数ノ命セラレタリ　其ノ全ク

二十ヶ月ノ和ト先ヲヘノ孔ノ草稿ヲ作ル

發信	受信	摘要

かたむきて田螺もきくやの初蛙　（巣　兆）

木曜	戊子	三月二十四日	天氣 晴	寒暖

六時半起床六時孔ニ出テ先ヲヘノ手紙ヲ認ム後ヲ食庫ニ於テ

セルフヘンプンノ復ム

十時土ホ出孔ノ帰途国ヲ孔ヲ来ニテ阿後ノ代金ヲ受ル

帰宅スルヤ　お旦那ノ電信ニテ所刑所ヘ宣印ノ持参ス

ルヨウニ十二時迄ニ幾ヶ定腹ヲ決シ

夜如後表ノ者ノ八時迄ニ帰場仲等去界ノ復ム

發信	受信	摘要

金曜　己丑　三月二十五日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金曜　己丑　三月二十五日　天氣　寒暖

[illegible]

土曜　庚寅　三月二十六日　天氣　雨　寒暖

[illegible]

愛信

受信

摘要

日曜 辛卯 三月二十七日 天氣 曇 寒暖

例ノ通リ

主幹ノ為メ午後唱田ヘ昨年ノ勅定引合セニ行ク其後ノズキニ歩イテ見タガ今ハ此考ニ過ギズ「ビジョウ」トハ何カナイガ「ニワケヤウ」ト迄行リカイタ

夜ハ帰場入後帰迄ニ来タル手紙ニ以テ船ノ機ノ試験ノ結ニ一旦推進機ガ回転シナイ原因ノ調ベテ見ルト推進器ノ「ユニット」ガ悪イ「ニム」ノ之レガ先ヅ理想的ナモノ

此ニ次ハモーサル強ノ難ケネバナラヌ後ノ代数英語ノ習等ニ十時就床スル今日ノ記事ハ確ニ要シタル事ノ寡

愛信 受信 摘要

心スコブル安シカラス

海軍中佐廣瀬武夫戦死す （廿七年）

月曜 壬辰 三月二十八日 天氣 晴 寒暖

例ノ通リ

夜ハ帰場入後ケロリト晴レテ来タ風ヤワラカニ心地ヨイ日デアル

七時帰場入後裕セト居タ帰宅ス、帰場ノ次ハ帰迄ノ通リ変ニ余ニ言フ一到セカン人ヲ無ク強ク甚タ困ル

アルタ而シテ今ハ「セルフヘルプ」ノ中ニ「他人ハ其仕入金額ノ内ニテ」

ヒ後ス「ヒルヨウ」計ンベシ中略 蓋シ美シ人、自己ノ仕入ノ中ニテ正当ニ先ヒスルヨウ計ラズ「心後」ハ不正者ニ他人額ノ内ニ「寄食」居ルナラ」

トアツタ、余ハ実ニ婦ノ額ノ内ニ寄食シテ、アル男ヲスデニ二十才ニ成リテ、アルテ心ヨロトスベキ、否否余ハ迷ヲリ

愛信 受信 摘要

三月帰場ノ件 甚ニ「ビヤイヒスコープ」研究後九一ヲ船ノ機

進器ノ通力研究ヲ十一時就床

嶋々の雨の菜の花流なるり（曉臺）

火曜	癸巳	三月二十九日	天氣 雨時晴	寒暖	發信	受信	摘要
平日と異ナルコナシ							
夜ハ客ニ引ラレシノミ							

こまかへる草や八十八夜より（蓼太）

水曜	甲午	三月三十日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要
今日ハ久ニ晴ノ事ナリ明ケテ起キ出ツ							
在ハ本ニ近ク、アラハレカラマタ時レソノ事ナリ							
新麦雨モ注ケト降ラレテハ一向雑草ニ勝ヒアラ							
弾ニ流寧時之ヲ、ウブハ獲ル可ノ中ノ新タ通動ス							
ハ徹ニウンカリトスル位ニ後ケ書ウトナラ							
再ビノ念ヒアラ							
午後帰国経理部ニ見経知アラ脱車ノ態ハ入							
夜ハ半近ク工場ノ準備ナシハ帰宅後ケ料要							
五号ノ後ハ							

恒久王殿下に竹田宮 鳩彦王殿下に朝香宮御稱號親授式あり（廿九年）

木曜	乙未	三月三十一日	天氣	寒暖	發信	受信	摘要
今日大多北ノ強ク吹キ出シ後ヤ帰場後代数等十一ヶ							
終ノ後ヤ少ク曇ル日ノ方ヨリ晴レ出ル							

清明（陰暦三月節）　四月　穀雨（陰暦三月中の節）

年中行事

三日神武天皇祭○八日灌佛會、所謂お釋迦の誕生日として、寺寺の釋迦佛に詣づ○櫻桃を初め、百花爛漫春風駘蕩の好時節なれば、遊人到る所に賑はふ○汐干狩は陰暦三月三日及び十五日を好期とす○十七日上野東照宮祭此月全國神社の祭典最も多し

節物時令

花○櫻○櫻狩○夜櫻○朝櫻○桃○朱の花○蝶○神武祭○涅槃會○灌佛○駒鳥○百千鳥○春の田○花の雪○花吹雪○櫻鯉○柳鮑○海棠○山吹○ゆく春○惜春○春○別春○暮春○春晩○夏となり○筍○櫻もち○蒔き○胡瓜

食品月令

松魚○めばる○櫻鯛○ひらめ○鰹○蕨○筍○胡瓜○うど○莢豌豆○初茄子○蔓菜○莢隱元豆

諸國祭禮

| | | | | | | |

鉢叩き來ぬ夜と夜ぬ來てなればれなと職りな（去　來）

金曜	丙申	四月一日	天氣	寒暖
本日早朝醒まして早速起床之後の例のごとく本年紀元節中作成の業を終わるつもりにて午後を又例のごとく自他倫理の講義を聞くに昨日と同様なる為気候や風ノ工合イケ悪敷ありて疲労の為一通り研究にとどまりし様思ふ中へ入り来る気象学ノ書ノ賜と帰宅後帰場の途中ハ雨降り出し来る雪にハ遭ハ[illegible]ず				
信受				
信受				
要摘				

（年三冊）　未成年者喫煙禁止法を実施せらる

驚の來て染めぬらむ草の餅（嵐　雪）

土曜	丁酉	四月二日	天氣	寒暖
発日来雨降る	例のごとく書又例のごとく但し本日作るべき及比例これは時間表ノ準備と寸暇を得ざりき	帰場後気象学	雨	
信受				
信受				
要摘				

月曜	己亥	四月四日	天氣 雲	寒暖
化事ナシ本日科學世界氣象學ヲ讀ミト雖モ多ク時ヲ空費セ				
ヲ恐ル				
但シ本日實驗ヲ年ニ能ク機大金ノ寫眞アルヲ見テ支ケニ之レヲ				
求ム				

發信
受信
摘要

日曜	戊戌	四月三日	天氣 雲	寒暖
神武天皇祭				
時ニセズ書ヲ讀ケテ暮ヲモセズ				
例ノ如ク日ヲ暮シ氣象ヲ學ビ夜近ク又用ヲ				
同ジテ空想ヲ除カハ時延ベ休ムハ一ツ歸宅シ、席ニ先ヲ進ミテ				
（此ノ夜ハ佐々木ト寢ヲ長ク共ニ博覽會ヲ見ンデ外光樹ノ所ニ居ナリ）				
疲ルヲ中ヲ了ル然シ例ニ依リテ機械、機器、精米器、ポンプ、瓦斯				
發動機ハカラデ目新ニ發ヲ始ムテ一ヲ其ノ性ヲ一ヲ前ノト異リ				
ケ居ルノ猪ヤ精巧ナ印刷機械ハ之ヲ見テ了ノ之、肉ヲ求メテ見ト				
リ共ニ之ヲ時歸場ヲ出ヲ再ニ之ヲ紙ニ寫シ服シ、科學世界ヲ				

發信
受信
摘要

順禮にうちつれ行く歸雁かな　（嵐雪）

火曜　不二日以來ハ寒イタ兩晝夜今ハ久濕ナク時シ降ラツテ所ニモ來ラシイ樣天氣ガアラタマシ サレ風ガ寒キカラ

庚子　今朝老人京ヘ行キ、余ハ側ニ於テ御供ノ事ニ決ス

四月五日

書余暇多ク其筆ニ思ハレン又氣象ヲ記ラナス

夜ニ付婦場入院ハ明ラカニ近代數ニ多クテ、成サントシテ眠ニ悩ガラシ其儘就寢

天氣　晴

寒暖

發信

受信

摘要

（文永六年）　後嵯峨天皇東寺に受戒したまふ

水曜　昨夜成サントシテ成サザリシ欠ノ今朝オヤナワント欲シ早ク目醒メシテ行ハ

辛丑　ンヲ待ツト甲斐アラテ十二時ニ成リ目ヲ開ケ又、ヒシテ余ノ早ク起ヤシテ再ビ

眠リ今朝醒シ一時半ニ早ヒトヌツククシテ比ベ合ハセ四時半ニ

早イカ之レカラ遊ビト思フガ又知ラヌ日ヲ閉ジテ知ラ四時半ニ

為起ラン能ハズ又眠リ此時又此時遊ビ不ル後ヲ待タリ後ヲ

慮ミル余ノ志ハ今ダ固ナラズアヽ行ヒモ尺比猶性ノ稅ヲ待ヤ

アヽ全ク新故意ハ實ヲ待ガルカ大ニナヤミ且ツ梅ヒ又、サレ風猶

是ナル解決ノ待カリキアヽ之ガ余ハ眠ルカ

本日午後ノ大機氣象ノ異ヒ時ノ要又、夜六時婦場氣象ハ記リ後ヒ

天氣　晴

寒暖

發信

受信

摘要

（年十三）　楠正行に從二位を追贈す

四月後ヲ飛ノ機ノ國ノ畫ノ内月ガ急ニ痛ミ出シタ

十大ノ家ガアイテ個ノ時イテ流ル響イテ階ヒタカカテ因ルノデ

早速帰宅為知り

四月

一〇二デ不國足ルト

為ヘタ時ノ帰場飛ノ機研究十一時就寝

木曜	壬寅	四月七日	天氣	晴	寒暖	
然御ノ如ク	本日表出ヨリ上カラ来カ加藤部か一寸例ノ通リ出ル	セラレタガ余ノ年後ヨリ之ノ大問題ヲナセ夜ハ時改御ノ全部遣ノ	書ヘテ作ル多、実ニ比ベ四一百遣ノ馬鹿ナモノ様ナ事ヲ	同本表ノ引今ヒカヤランポウシテ遣ヲアタ書ヨカ後ヲ定定ヲ	キカ加藤ニ本ノ借リル心計リノ為来ニテ約束ヲ待ツ	上御ノ拝借ノ帰物ヒルノガ丁度十時ヒカラ先ニ記ノ付ケ十二時
然ハ時ス者本日帰物ニ当リ大キナル風ヲ敢包ニス事ヲ一時	不ヨリ感シタル後御諾ノ思ヒ捨ヲテ之ノ好諾ヒ又					

（年四十）　初めて農商務省を置く

金曜	癸卯	四月八日	天氣	曇ノ	寒暖	
時ノ帰ノ機研究	亡時事起ル	重大事ヲ				
夜亡時帰物入院ヒタルノ代数ハ時事ノ	ガ十ヲスル人ハ家族ノ作ル何ヒ	シ時ヒノ遣レナイ英語ノ二年余ヲ前ニ止メテ	大変ニ多ガ	シテ十一時ヒヤット下ル	木上ノ後ヲ報ノ	機研究十二時本時ヒ帰物ヒノ
二時表ノ又神経ニテ少時ダンノ	状ノ床ニ入ルト直後部ヘ来ル時不非ハ時長ノ方ノ	ト出テ裏表ニ見エテ居ルノデ驚イテ近寄ルニバケツト焼ケル音ガ入ル	イヨイヨ好ヒカラトヒール場ノ白ヘヒノ見ルトノノ方ヒ	言ヒヒガ焚火		

（長禄元年）　太田道灌江戸城を築く

父母のしきりに戀し雉子の聲（芭蕉）

四月　一〇四

土曜	甲辰	四月九日	天氣 雨	寒暖
今日昨夜作りし美文より山五郎に一寸迄ヲ不備ノ點ヲ直シテ世ヒ投函ス 夕歸時後の法代數、先象、九月半記眠				

發信　カーチスと会

受信

摘要

白魚に朧月夜のうるみかな（大江丸）

四月　一〇五

日曜	乙巳	四月十日	天氣 晴	寒暖
記事なし 夜明後法代數ノ方程式ノ「マーク」ヲ用ヒテ考ヘテ解カコイ マークノトコロノ「毛々画イテ見タ」考ヘテ見タ十分出来ル 後4先家ヲ記十一時就眠				

發信　美術家招待

受信

摘要

（朗士）　身の程なくまくなもきなもでまくなな程の身　（士朗）

月曜	丙午	四月十一日	天氣	寒暖	發信	受信	摘要
秋の暮方に山の方に出かけて見たら兎が一匹居られたのでチャンと鉄砲がスイタカ、ピヨコ〳〵と駆け廻りそのあとをチャンデ行かうかと思ひや表の草ナドを焼こうとせき焼しつゝと食べる所を焼くなり			雨				
本の出来の途を駆け廻り毎度ト云つてこつちに来るこつちに来フト風が空中を通り過ぎたらしい何かワケガト来ると思ひ居ると毎度タヨこの尾りは多んか又来ケナイ〳〵と思ひ居ると案ぜ出定と空中と魅ず居ん〳〵デアル為か如何ことを来かアレば出定と居ん〳〵加カト考ヘたこと、ソハ風ノ反面と次ヤ分ん風と均合フ為〳〵ノ力が備ナハヲ居ん力デアルサレバ美と其力サヘ均合ヘラロイトスルナラバ					

（光集）　蛙初やくきも螺田てきふたか

月曜	丁未	四月十二日	天氣	寒暖	發信	受信	摘要
低き左の北東方と云ひ考へ居た所が北信地方から来フ〳〵アルトきフ〳〵ウ久シ振りニ始メテナリ							
昨日一番の機研究一応ヲ今日ノ過ウ							
夜の明初フ近所ヲ見ナスナク心マツ〳〵眠ん							
本日濱定上棟式ヲ行フ							

水曜 戊申

四月十三日

天氣 晴 寒暖

發信

受信

摘要

海棠ノ花トシテ如何ニ美ナルモノカ明ラカニ知ラレタリ。海棠ノ花ハ蕾ノ時ハ紅ニシテ開クニ従テ白ニ変ズルモノニシテ、其美ナルコト言フベカラズ。海棠ノ花ハ蕾ノ時ハ紅ニシテ開クニ従テ白ニ変ズルモノニシテ、其美ナルコト言フベカラズ。

今ハ鬼ノ花ノ前ノ方ニ集セヤウ、デナイト防違カ忘サリシテ、殺シテ仕舞ヒマシテアルカラ、然シ今ハカラ考ヘテ、思ヒ切ツテ多分ハ大分元気ガイイ居タ

木曜 己酉

四月十四日

天氣 晴 寒暖

發信

受信

摘要

根ノ機ノ又ヲ如何ニ例ニコヲ居ル如ケスマヒテ集合ト多配ヲ生ジ金ヲ書ヒ一配ニ出タ書屋ノ山ニテ和料理ヲ食ヒ

昨遅ニ帰ニ書ヒ遅ニ帰ル又其遅ニ今朝急ノ書メニ

葉ヲ見ル時ハ居ル居ル居ル居ル海棠ノ本ヲ見テ

通ニ出タ頃ヲ知ル居ル居ル居ル工、師イヨウ後ニ見ル。

帰ル教ヘナル中カラ茶酒ヲ入又朝ニ山上即ト海棠ヤ自地海ニ

イ子ト闘海ヲ勝利ヲ得タ、其中ニ余ノ茶酒ガ今後十年ヲ

経バ必ズ中ルヤウ解ニシタ。此ニハ成功スルカ一カ

ア、如何ニ知ラズ、ハケメ々々ニ成ルト成ルセサルトニ居ル余

必ズ報酬アルヲ信ズ 四月ベストヲナサバソレニテ満足セシ此レト天ノ其一〇九ベストニ対シ夜徹ノ研究ナニ日ヲ費ヤ就眠

白雲の根を尋ねけりいわ躑躅（召波）

金曜	庚戌	四月十五日	天氣 晴	寒暖
發信				
受信				
摘要				

[illegible]

地ノヨリ考ヘ帰ラウト思ヒ事タノモウシテラウヲ収入ニ比較シタニハ入金ス

夜一五帰場後家ノ整理ヲ[illegible]

忍ブノデ帰宅セカマタ事ヲ度ヤカラタ九時帰場ヲ以テ就眠

絶壁にすがりて藤の覺束な（佛句）

土曜	辛亥	四月十六日	天氣 晴	寒暖
發信				
受信	長井高橋			
摘要				

[illegible]

畫食後内外作所ヘ集合シテ[illegible]

夫ニ稽ヤ[illegible]マトマリタル考案ヲ待タ[illegible]

蒙古特爾扈圖國王日本留學の爲め來朝す（卅九年）

○夜霧模糊ヲ冒ストシテ孫ヲ起キニ更ニナイ、孫ハ今ハサシ強痛ヲ感シタノデ夜ヲ見テモ異ニイトモ思ワナカツタ ソレカラスグ宅ニ寄リタ度ハ馳ニナリ七時半帰場シタ、ソレカラ中山氏ハ組織ノ「マーク」ヲ畫コート 四月ニ入リ月 居ルト中ニ入ルガ梅用ヲ殺ヘテ差シトカ心ヲワスレテ 一二ニ入タ ヲ九時頃ニ

曜日	月	日	天氣	寒暖	發信	受信	摘要
日曜	四月十七日	壬子	晴				

此時ノ表ハ ナニ ヲ 扶時ヲ 又 怪時トカ 時天 、 ハ ハ ト ヲ 題 ル 人 何 ハ 何 ヲ ハ ハ

ヤ ヲ 御 ハ ハ ヲ ア ル

孔 徐 ヲ 復 ト ツ 、 ヲ 動 金 ハ 持 ル ト 言 ル ト 冒 面 ニ ハ ノ 機 カ ラ ワ イ ヤ ナ 紙 ガ 出

ヲ 尼 ル 見 ル ト 今 ヨ リ ヲ 分 現 今 課 技 ヲ 命 ル ヲ ハ ト ヲ ア ル 、 即 チ 時 ヲ 高

時 ヲ 時 病 院 デ 見 テ 貴 フ ト 神 経 衰 弱 ト カ ラ ノ デ 別 ハ 静 養 ト 帰 ル ノ ヲ 言

輔 欠 ト ヲ デ ア ル 、 リ ー ト ヲ 金 ハ 代 ト ヲ 書 ク 用 ル 立 ル ガ 帳 場 ハ 来 ル

金 ハ 心 ヒ ヲ カ ヒ 言 ヒ ヲ デ ソ レ ハ 用 ル ガ 金 ハ ヲ 持 ル 人 ト ス ル ト 今 度 時 ハ 長 ガ 居 ヲ

言 ヒ ヲ ヲ 金 ハ 身 体 ハ 明 ヲ ル ル 取 顔 ル 時 数 金 デ ア ル カ ラ

夕 天 ヲ 言 ヒ 国 ヒ 楊 表 ヲ ル ル 行 ガ ヲ 都 金 ハ 俗 塵 デ 色 ヲ ヒ ル カ ラ 仏 ル ノ 待 ハ 孔 経 。

摘要
遊ヲヤ ヲ 国ヒ 後ヲ ヲ 言ヒ ヲ 時ヲ 孔 来 金ハ ハ ヲ 待ヲ 後ヒ 二時 前 明ル

月曜	四月十八日	癸丑	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要
編後ヲ復ヒ ヲ ル							

現今郵ヒ ル ト 表ヲ 自 ル ヒ ノ デ 表 見 ル ガ カ ル 、 少 ル ヲ ト 、 ヒ ヤ ヲ ヒ サ ウ ヲ デ

来 ル

夕 父 ヒ 京 ル 電 車 ノ 血 郵 来 車 ル ヲ 時 ヲ 帰 ル ト 下 ル 奥 ル デ 大 キ ナ

ガ イ ヒ ヲ 豊 ヲ タ ト ヲ ヒ ノ デ ソ レ ヲ ハ 馳 ル ヒ ヲ 帰 ル

曲すらにすらに慈姑の角や水の春や角の水　（兆巣）

火曜	甲寅	四月十九日	天氣 晴	寒暖

何ノ道ヲ行クヲ讀ミ終ヲ論語ノ書ヲ勘

余モツクヅク思ヒ出ルコトヲモ、セメテ何ニナリ一ツ目ザマシイ働キヲシタイト

[illegible]ル不甲斐無イ出来ヲアルノデ現金邦ヘ来タリ幸ヒ当邦カ一向振ハ

ナイカラ、一気発ヒテ大ニ面白ク行タメテヤロート決心ヲ[illegible]ソーヒテ成ヒ[illegible]

出ヒ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

（白　尚）　哉菜水の京るえ覺とりくつむ

四月二十一日						
水曜	丙辰	四月二十一日	天氣 雨	寒暖	發信	要信
夕方帰場ノ途ニ大ク蝙蝠ヲ見ル様ニナリ今日ノ例ノ通リ[illegible]ト幸ニ帰際ナリシカ[illegible]ハ[illegible]ヨリ[illegible]ハ何ト[illegible]ヘトヨリ後ニ[illegible]ト地ニオケツ[illegible]数カレテアル余ハ一ノ[illegible]ハ帰場ノ時ダケハ何ニモノヲモ考ヘナイ[illegible]ト[illegible]和ナ[illegible]ハ[illegible]ノ様ナ時デアルノダ、今ハ帰場後[illegible]研究準備トシテ[illegible]其他ノ[illegible]ナス終ルノガ十一時スギ[illegible]夕						

摘要

四月二十二日						
金曜	丁巳	四月二十二日	天氣 曇	寒暖	發信	要信
今日ハサト急カシ[illegible]ハ[illegible]ノ意上ガアル又[illegible]ノ[illegible]ヲ見テ[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ

土曜　戊午　四月二十三日　天氣　晴　寒暖

發信

受信

摘要

日曜　己未　四月二十四日　天氣　曇後晴　寒暖

今朝七時ノ汽車中船ニ乗リ研究ノ為ノ最期一度佛国ニ行キタイトモフ希望ヲ起シ節約必要ヲ感ズ

今日後郷ニ帰リ感心因縁ヲ校帰場後主ヲ伺眠セラ

右日ハ今ヲアレヒューム職ヲ尋ネ来タ人カアタノデ一ツ研究ヲヤル

ト思フヲ必要ナ材料ヲ調ヘテ帰場ス

發信

受信

摘要

月曜	庚申	四月二十五日	天氣	寒暖
			雨	

今たゝかひ始りぬとしり申

近頃愛寂坊成

東風老樹々偏南　花新醉臺淡酔香

春眠朝醒花工夢　何時後々英雄笑

春と共に寂坊ニナ名ハ何と言ふとり警匠セしか寂と同数ナ

ル

夜明愛節愛ノ琳（ゼ七年記）トシテ五日五十代世ニ帰近日ノ

夕刊ト和等編集後研究トシテ寂ナ後ニナ、見タ

十分熟眠

受信	受信	摘要

火曜	辛酉	四月二十六日	天氣	寒暖
			晴	

既ニ延期後御後ノ持ヲ之

業務ノ今ヲ〳〵ヒビヨービ、スチフエフレー得ノ金解ヒ後ニ写入

何ノ家ノ持ノ意ノカラ嫌ナトエフ勝手ナ用ヲ心カラ其ナイ

多ノ堂ノ中ポカレトシテ庚子ネ心ナラ又其可ニ何ヒカ悟ヒイ後ナ

気ガヒナラナカラノ

夜代後研究十分熟眠

受信	受信	摘要

（邦史）月朧や匂ひ煮の豆そみ

水曜　壬戌　四月二十七日　天氣 晴　寒暖

今朝近衛公爵と陪して、内閣に入り、何とかして、ものを思ふ所あり、若し、

[illegible]の遠き即ち、遠隔的にして集まるべきものとすれば、金も大分

使ひ捨てにしなければならぬ、此の[illegible]

今日は金曜にして[illegible]

[illegible]時[illegible]

大[illegible]

[illegible]代表[illegible]

發信

受信

摘要

（年九廿）す朝來下殿官令司總軍陸子皇四第國羅暹

（臺曉）茸汁に八重山吹のながめなの哉

木曜　癸亥　四月二十八日　天氣 雨　寒暖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

發信

受信

摘要

（年一廿）く置を院密樞て始

金曜	甲子	四月二十九日	天氣	寒暖
今日こゝにて夜を明す				

發信	受信	摘要

來て見れば夕べの櫻實となりぬ　（蘇村）

土曜	乙丑	四月三十日	天氣	寒暖
今日の節季なれども全く閑にて保供なるから小者に樂をさせて早寢をする	御天氣なり	今年自如何手續を後にしたるもの多し之を惡きものかあるも多し制を全神に		
		餘中に化する思慮かあり		
		夜陣寒し		

發信	受信	摘要

ふりあぐるぐ鍬の光りやは春の野ら　（杉風）

房子内親王北白川宮兩殿下御婚儀執行　（四十二年）

日曜	丙寅	五月一日	天氣 晴	寒暖
一日より明治十五年分の公債証書の利子を渡す				發信
今日ヨーロッパ、ステフェンソンの伝記を写し終る				受信
夜代数、後ち久々にて研究すべき法式と記し終る				摘要
旅費等の計算入り十円余				

五月

（陰暦四月節）夏立　（陰暦四月中の節）小滿

五月行事

立夏の日、上旬より夏となる

○五月幟は一日より五日を當日とす、今は鯉のみ建つる家多し○此の日には粽又は柏葉餅を喰ふ○湯屋にて菖蒲湯をたつ○躑躅、牡丹藤の花開く○立春より八十八日目を八十八夜といひ、農家にて重要の季節なり

節物時令

首夏○立夏○更衣○藤○牡丹○つくし○芍藥○青簾○つりしのぶ○初鰹○短夜○遲櫻○葉櫻○若葉○杜鵑○松魚○新樹○鯉幟○菖蒲湯○卯の花○羽蟻○螢狩○卯の花くだし○栗の花○柏餅○青梅

食品月令

黑鯛○あなご○泥鰌○鰻○いなご○年魚○あはび○蜆○姫百合根○茗荷の子○蓮○芋○青蕃椒○摘み菜○水芹○蠶豆○白瓜○ぜんまい

諸國祭禮

| | | | |

月曜　丁卯　五月二日　天氣　両　寒暖

時々アタリ改以長時代ノ笑ヒヨリ今ハ甚レトロ日ヨリ文ヲ花ヘクタ

計畫ヲ今朝ヲ人ト改以長時代ノ曉ハ暫ロヲノ時ヲ考フ丁ヲ

教ヲ受テ居ラル

夜代教巻ヲ学ビ九ヲ記時ス

發信

受信

要摘

火曜　戊辰　五月三日　天氣　晴　寒暖

イヨ〳〵明日文ヲ品ヲ子ヲ、夕方帰宅ス、ヨリ計ル姉ト共用カヒヲ

十八日ヲ文ヲ主ヲ文ヲ遅シテ花ヲ暑ク弱ヲ暑ク帰場ヲ

帰遅待車場ヲ寄リ時計リ今ヲ居イタ

姉ヲ猫ヲ文行ヲカ、悪ヲセイ者ヲ見ヲ子ヲ時ニ猫ヲ悪カヒヲ主ヲ上ヲ寝

ラレナカ子

發信

受信

要摘

初夏や木屋か掃除の行わたり（道彦）

寒暖	天氣	日	四	月	五	己巳	水曜
發信							
受信							
摘要							

灌佛や雛手合はすは珠數の音（芭蕉）

寒暖	天氣	日	五	月	五	庚午	木曜
發信							
受信							
摘要							

東京日比谷公園に第三回陸軍凱旋歡迎會を催す（廿九年）

（月　吐）　簾青りけえ殖に京の家た似

寒暖	天氣	日	七	月	五	壬申	土曜
發信							
受信							
摘要							

（明　五）　竿幟るたぎ過日五し寒雲

寒暖	天氣	日	六	月	五	辛未	金曜
發信							
受信							
摘要							

（年七冊）　す領占を店蘭普軍二第

ろうと云ふ迄ス者アル事ヲ聞クト成ストモ云ヒアラヌデマブ余ノ心意ヲ以テ為ニ先ヅ此ノ例ノ通リ何ト云ヒトモ意イトモ測ヒリカネナイデ、十一時頃迄居タ、ソレデ帰ヘラテ此ノ事ヲ余ノミ其意ヲ

日曜	癸酉	五月八日	天氣	寒暖

夜来ノ暖レト酔メタ目ヲ再ビ開クモ見ル目確カナ可イ天デ七時ヲ過ギ起キタ

~~朝~~ 夕ハ公ノ間ヘ途中巴老ニテ菓子ヲ買ヒ帰ヘリ宅ニ着ノ習ヒトシテ居ノ為タ、然シ何カ可イ何トモ云フ事カイ余ノ此ヲ居タ、ソレカラ今回第正居カ

サテ居ルデ午後ハ百ノ考ヘヲ寝ヲスベク見テ実行シ了タ

然ルニ此ノ休場ヲ居テ然カモ謝レモ居ラナカラカラ其儘工場ヲ

ヲ方帰宅シテ旅費ノ勘ヲ為シ、作ル機ヘヲ先ヲ面倉ニテ今夜ノ場

ノ来ヲ待ツヲシ帰場ヲ定ル作ル機ヘ今ノ頃トスル計画デアルガ市

内ヲ見知ヒカレタ、思ヒ止ヲ来バナラカラ、夜ハ神勝寺ノ国ノ写シヲ

見ルカハ此ノ眠ラテ、タマラナクナリ、ゴロフト横ニナルマ寝ラ此ヲ、ヤヤ

發信	受信	摘要

月曜	甲戌	五月九日	天氣	寒暖

フト目ヲ醒スト暮フトシテ、クルクト巻イタリト寝テ居タ時ニ時ガ再ビ床ヲ取リ寝タ

ト云フ前延ハ日ヲ勅令ノ通リ用ヲ無カラタガ今日現金帰リ

迄四度ガ絶ヒ不在デアタノデ、山麓郡ニ帰ヲ居タ

夕方帰宅ノ職事ヲ求メシテ持テ作ル機ヘ来テ此ノ人ト面倉シ

ル機ヘ今ノ造ノ事ヲ情ト余ノ決心トヲ述ベ又今晩ノ世ノ云ハ時節タル

ヲ説キ為ヲ宝ヲ夕ヲ宅ニ帰ヘラタ今ノ父ノ裏ノ光カノ新陳上ゲ

タトテ気嫌ヨカラタ、ソーシテ、夕食ニ余ノ望ミデ豚肉ノ焼リナシタ

ナル帰場十一時半就眠

發信	受信	摘要

おどろかすや螢の夢や眞菰刈　（也有）

火曜	乙巳	五月十日	天氣 晴	寒暖

主ノ用ガアルカラ今ハナイトモウノデ一日調ベテ見ようトスルガカイモノ多ウナル

夕方帰場入港ノ所ガ勉強シヨウトスル矣ヘ門番ノ木戸ヲカケテ東ゲ講演ヤラウトスルカラ此次ノ帰ヘツタノデフレカラ石油機関ノ為図ラナシタ

マー近頃ノ出来事ヲ考ヘベキ屑問題ヲ渡ル想像シテ結ンド頭ヲ休シテカラナルト即チ何ヲモ図張ヲ御覧ヤ中ニ寝ル余ノ身体ガフレヲ無意ノ気ガデアルデアロウカ、之ガ最ヒ余ノ気ヲ慰ヲ変ヲ何ヲモ慈数年ヲトセツタノ暦ガ立イテ少ノ時ノ子ナイノガカラ

愛信	受信	要摘
	紀南ノ海ヨリ	

面白うてやがて悲しき鵜舟哉　（芭蕉）

水曜	丙子	五月十一日	天氣 雨	寒暖

夕方カラ帰定ヒタ ソレハ外ニ接タケニ接シテ居イタガ一ツ父ヒモ主婦

読判ヒヒ一ツモ早ク解決ヲ付ケヲ比喜ヲト思ツテ夕食ヲ定ヲ

喰ウタ、下ダ居ヘ兄モ帰ヘツテ来父モ今下ダ外ニ出掛ヘツテ

来タトヒツテ帰ヘツテ来タソシテ父ノ出発ヒ主婦ヒテ居タ日ヲ出ヒヒ相

談ヒヒテ外ニハヘツタノダト然ヒ之レ後イノ一ヒヒ承知ノ上ノヲ知ノ

於判恐レモヒカヒタ事ヤ兄ヤ帰ヤカ色々ヒヒテ思ヒヒテ父モ通ヒヒ承認

ヒタ 先ヒ帰場後 飛 oil engine ヲ研究スル十一日就眠

帰

愛信	受信	要摘

寒暖	天氣	五月十三日	戊寅	金曜
	曇			

今日ハ例ニ依テ用事ナキマヽ同市民ノ多得タルヲ以テ帰場ヒラツヒテガタログリ研究シ後タ入浴タ食タ済シ夜ハ工業大辞書タ調ベ得ル事アリタリ九時半就眠

受信

摘要

寒暖	天氣	五月十二日	丁丑	木曜
	晴			

今日ハトード月表ノ下選ノ個所タ發見シタ

夜ハ Oil Engine ヲ研究シ完タ書運動ノ仕方タ知タ得タ

後タ郵士銭ヲ得タ積ミ十一時半就眠ス

受信

摘要

（太　蓼）なか柚花るたぎすひ貰は枝一

土曜	己卯	五月十四日	天氣	寒暖
今日は重展後書ヒ配ツタヒテ其後帰場職工ノ辞ヲ得タシ 夜工業大辞書ノ見、待ッ為又サナカラズ十時来就眠ス			雨後ノ曇リ	

發信	受信	摘要

（樗　良）ほとゝぎすや野山に聲の姿なり

晴	庚辰	五月十五日	天氣	寒暖
今日カラ陸軍ノ人ガ引ケンヲシテ之ニ対スル用ヲ為ス 多忙ナ半帰場ヲ出ルト晩餐ノ後又後ヲ一寸帰定先ヲ 作ラズ之ニ対シテ確ヒカメ又ヲ帰場迄ノ見ノ後ヲ 八時迄ニ就眠ス				

發信	受信	摘要
濱田書ヲ送ル 返ル	濱田書ヲ送ル	

（年七卅）我軍瀛初瀬及び吉野山東角に沈没す

○船を磁石に応用デキナイカト心ニ浮ンダノデ之レ研究ヲナス　十時蟹記帰セリ

（雀子や明り障子に笹の影　（其角））

月曜	辛巳	五月十六日	天氣	寒暖	發信	受信	摘要
今日ハ蔭蔭ナ日デアッタ然シ之ガ全ク次ガ一枚ノ事ノ思ヒ付イテ余暇ニ研究シタイト思フ		磁石ヲ利用シテ永久運動ヲナサシム					
		磁石ハ北ヲ指ス性質ヲ有スルモ之レニ鉄ヲ近ツケル時ハ磁石ハ鉄ノ方ニ吸引セラレ即チ北ノ互ノ引力ヲ敵當ニ増減セシムル時ハ磁石ハ運動ヲ始ム此ノ運動ヲ書ニテ円運動ヲ延ブシメ最ニ完全ナル動力ヲ養セシム					
		多分四半世紀ハ経ツテ早晩倫敦ニ多ク行ハレルノデ之レヲ仏蘭西ノ多、故ニ要大辞書ヲ見ル内水雷、機船、縣ニ至ル論シナリモ之レリ。					

（壺中）　小てまりまて垣やあのちらへかけて咲く

火曜	壬午	五月十七日	天氣	寒暖	發信	受信	摘要
一昨日ハ[illegible]ガ来ラレタガ、ネ[illegible]ニ人ニ頼ニテ[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]ナイノデ							
又昨夜ニ[illegible]ガ[illegible]ガ帰ラナカッタカ用ヲカケルカラ[illegible]							
室ヲ[illegible]ヲ[illegible]レトヲ[illegible]ヲ居ラレトノ[illegible]ア、余ノ[illegible]ナリ							
ガ起リフーガガ然シ行政余ガ眠ラ[illegible]ヲ後ガ[illegible]左後ニ去リ後ノ[illegible]アル							
カトレト[illegible]							
老ニ[illegible]ニ[illegible]ガ来ラ居ラ、下ル余ガ[illegible]居ル[illegible]							
[illegible]ヲ居ル時、アワタ[illegible]ヲ[illegible]ニノ下ガ内ノ二階ガ然エテマスト[illegible]							
已ニ[illegible]ノデ先ヲ余ラ要先ニ[illegible]ビ出シ[illegible]然シ幸ニ大ヲ[illegible]ヲ[illegible]							
多ク下ガ堤下リワスレテ居イタノガ焼ケテ下ノ地ヲ[illegible]ル[illegible]ヲ焼エ[illegible]ヲ							

十時帰場ニ書大辞書ヲ渡ス

心太逆しまに銀河三千丈（蘇村）

水曜	癸未	五月十八日	天氣 晴	寒暖

夕方ニ場カラノ知ラセデ早ク帰場、来ルヨウデ「タイ」ノハ知ラ今ハスキ焼キデアル家ノ大ハ初、昨ハ「イクツケ」ト「ケ」デアッタガ今ハ方ガヨカッタ孫ヤ二番大辞引ラ見ハ出ル記帳ト多

信受

信發

摘要

五月十八日 天氣 晴 寒暖

ハーレー彗星の尾に地球が這入る

乾飯や雀ゝやく軒の妻（谿々）

木曜	甲申	五月十九日	天氣 晴	寒暖

本ヨリ年寄ノ方ニ命ヲ出シテ延ル我地球ハハーレー彗星ノ尾ノ中ヲ通ルンデ、何ニカ異変ガアルトカ、変ルトキハ人類ノ死滅期ヲト補ヘテ居ル然シブレ星ノ後ヨリ更ニ一ツ彗星ヲ今夜出テ北ヲ指テ居ル、天文学者ハアマリアテニナラナイ

信發

信受

摘要

鮓を壓す石上に詩を題すべく（蘇村）

金曜	乙酉	五月二十日	天氣	寒暖
今日午後大阪ノ書ヨリ今朝ハ毎ニ弟妹ヲカヽゲテ眠ラズ今ハ				
ノ事ヲ伝ヘテ哀悼ノ意ヲ表シテ居ル所ヘ午後休ミヲスル				
金ノ意ヲ後ヲ電車ヲカヲテ大ニ学ニ博覧会ヲ見ニ機械館デ				
発動機ノ研究ヲナシ、之ヲ鎖デ玩ベ、「ジヤイロスコープ」ヲ				
見ニ行ク、行ク「オジヽ」今ハ座ニ、カヲタ帰カムト一ヲ帰ヲ				
ブーヒヲ乗ノ帰カ乗ヲ持ヲテ送ヲ来タノカ一ヲ通レタトヲヲ				
遊ビ、居タ、ヲ其菓ヲ食カ大分タベテシマヲタ				
ヲ工場ヘ持ヲ帰ヘヲ、之ヲ先ヲ、弟ノ帰ハ此時改帰ニ来ル、然シ今				
夜ハ国ノ夜ヲ見ル為ノ結ヲ外、外食ノ為ヲ持ヲテ来タ				

信發　信受　摘要

名古屋に鐵道五千哩祝賀會を擧げ同時に功勞者奉告祭を行ふ（廿九年）

人來たら蛙になれよ冷し瓜（一茶）

土曜	丙戌	五月二十一日	天氣	寒暖
今朝場ヲ出カヲ蛙ヲノ作業ヲ書ヲ来ヲ、家ノ前ニタヲヲヲ一種ノ				
好キヲノヲ見ヲ一ツ買ヲ採除ノ記ヲ一ツヲ送ヲ一変シテ				
出ヲフト思ヲヲ、用ヲヲスマスト然ヲレニカヲリ帰場後ヲ又				
ヤヲ続ケテ十一時頃ニ後カ室ヲノデ「ウドン」ニ杯ヲ喰ヲテ床ニ				
ヘヲヲ				

信發　信受　摘要

日曜	丁亥	五月二十二日	天氣 晴	寒暖

千住ニ付ル辺ト解ト成場ニ寄ニ帰場ヲ呵休息、帰宅、相迎機ノ
模型ヲ造ル夜帰ルトおつやんと、やうこと一サエト呼人半遠ニテ公園
へイルミネーションヲ見ニ行ク筆ニ奇麗デアルガ人ガ多カラ
ノト、ホコリトデ八十番ヲ乗ラサレタ　十時半帰場就眠
八時改印堂ニハレー翌早ク見タ、如ト極メテ静カ

發信	受信	摘要

月曜	戊子	五月二十三日	天氣 晴	寒暖

用事ヲ終ツテ後ヲ後ヲ「後ノハレー翌早朝飛行ヲ書ク、中々移転ナル
ニ恐怖カ起ツテ難数、コトニ余ノ無茶苦茶ナルニ驚ケナイヤ
ハウ天文学ニ教会ヲ入ル様ニヤウナケレバナラナイ、デ立方行
書クニモ非常ナ骨ガ折レタ、夜公会堂デ毎月ニ成ル俳ノハレー翌
早講演会ガアルノデ九時半吹カウト出懸ケタ、ソレデモ良イ場所ト
ツケタ、六時ノ開会ガ二十分遅レテ始マレタ、マア五位ノ二ヨリ
ワカラタ、ヤガテ大分待ツテ居ガアル、ヤガテ開会ヲ告ゲラレテ
ばおサレタノカ十時電車ニ乗ロウトシタガ非常ナ人デ乗レナイカラ
コツ〳〵歩ミナガラ十一時帰場ヲ、ソーシテ乳ヲ飲ヤ食ヲ摂イ

發信	受信	摘要

ソレカラ御時程飛行ヲ書イテ十一時半吹就眠　一四九頁ニテ

１５０～１５１ページ
スキャン漏れ

翡翠や濡羽にうつる夕日影　（桃李）

木曜　辛卯　五月二十六日

天氣　快晴　寒暖

今朝八時ニ起キテ、少シカラ延ビテ、少シカラ延ビテ、ソレカラ大辞書ノ續ヲ繰ル。

昨夜ハ早ク寝タカラ、ソレカラ大辞書ノ續ヲ繰ル。

落花ノ後ハヤ引合セタリトシテ、昨日ノ分、夕食後

帰宅ス。軍歌ト蛍雪ヘタ、姉ハ節季ニ借テ居モリカアル。キフ

リ掃ツテ居カナケレバイカントテ二日立ナイ分ヨイトテ二日ニ長ク

帰場後大辞書ノ續ヲ繰ル。十一時過ニナレトモ、カナカ寝ナイ

ウト眠ツテ居ルシ、大タカ今ニモ寝ル。一生懸命ニ

目ヲ見張ツテカラヤルカ、又ヒヲ、スカリ書ノ、ドトードニ十分写雅ヲ

カラ、主ヲ就眠

發信	受信	摘要
佛ヲ知ラル様		

うき我を淋しがらせよ閑子鳥　（蕉芭）

金曜　壬辰　五月二十七日

天氣　晴　寒暖

此ノ年延ビ延ビ、ヤ、ヤ、摩擦ツナ、ヤ、ヤ、ヤ

よし切の聲ちらばるやの江の嵐（小波）

土曜	癸巳	五月二十八日	天氣 雨	寒暖

然其ヒトリ降ル迄ニ夕食ヲ終ヘ此時十五分前迄コサレズ月ノ明リ

日出ノ前延期ニテ後面次水磨隧考例ノ如ク終テ、天界ノ

現象ノ變ニ又外ニ別ノ切被キテナス

夕食後帰宅ノ所、運ノ持ニテ多ク、九時頃半後ノ喜カスレ

ニ驚イテ帰途ニ夕、雨ハ当パラ〳〵降ツテ居ル火ヲ

見ニ行ク人ハ此ヘ行ク能ハ夕ニ辻毎ニ提燈ノ数カ暗ク

多ク例ノ通リ迄ノ通ツテ瓶波停車場ノ所ヘ行レルト其ニ美ニ

おレツリ抵ヘテ消防ニテ屋ヲ火ノスデニ煙マツテ居テ白イ煙カ

上カリ居タ、帰場後ハ白ツテ其儘眠テ夢ニ

愛信　受信　摘要

日曜	甲午	五月二十九日	天氣	寒暖

ヲト月ノ解スト家カ吹ケコレハ霞迄ヒタカト時計ヲ見ルト三時迄ハ不思議

ナト思ヒナカラ起キ出テ家ノ時計ヲ見ルト五時ヲ過ギテ、ソレカラ此

レデ身体ノ方ノ例ノ如ク後ヲ、某年探隧ノ席次ノ書キ六時半

ニ朝食

今日ハ実験ニ行キ活ノ為ケテ置キタイト思フタノデ十五郎ト一所ノ教

ンデ居イタ照合地ノ清水ヒヒ、然ヒヒ〳〵ト言フタリ、夕方

ニ時過ギ、ト行度カヘ出ヲ見ヒ、ヒカナイカラ夕食ノ湯スヒテ帰

物ヲ入浴後宅ヘ持ツテ帰ヒ書物ノ取マトメテ見ヒト、アルハ〳〵一寸

カタヅケテ帰ル思慮デ戸ヲカ、トテモイケナイノデ、車ヤトータ、十時宅ヘ

愛信　受信　摘要

五　月帰場、こぶろ吹笛ノ吹イテ気ノ数ヒ職人ヒ人ト一五五円者トヒ館湯

ニ拙ヒ出ヒデヤウ就眠ヒタ

月曜	乙未	五月三十日	天氣	晴	寒暖

ホントードー四分位ッ書イテ世ヲハレナカタノデ今教又ハ教ヒシテ「えヲコ書ヲ」ト思ッテ」トカフトアノ「ソヤ〳〵」ト云ヒ世ヒフレガ又オイヤ実ハ色々考ヘテ

且タヒカナ、何カを此トシテソレハ又今ガ悪イノデトソヒアカヒヲヒヲヒヲヒヲヒヲ成ル程ヲソレハソーカ、自分ノ為ヲ今服ヲ出シタ。ヒ羅招今状ヲ出ケテ

ヤルトカフ「ハ一日御レヒ来イ」ト外ノ上ノ方ヘ入ル。吉田ハヒヒ弱ハト

ヒヲ返ヲデ引ヒケ、又外ニ書イテ居レタ下ヲ見ヒタコレカラスガ実ハ〳〵

ヲ強ヒシテ上ニ舞カソレデナイト今ヒ二ヨヨ〳〵ケナイガト思ヒ出ヲスヨウド

も今。ヲヲヒも及アマイト其実ヒ〳〵ヲノカ恐ロシイ程ナ元ヨ悪イ顔ナ顔ヒ

受信

摘要

火曜	丙申	五月三十一日	天氣	晴	寒暖

起コサレテ月既ヨリカ下ヲ之ヨリ主ケヒ延永洗面冷水摩擦形ノ如ク終ヲテ外ヒ

出ヲブレバ実ニ静カナノデアル、月ハオボロニ影ヲ地ニ印シテ、強ノ家ノ鶏ダカ、鳴

ミジカ夜ノ早クモアカツキノ近ヅキタルヲ知ラセテ居ル、二時半出発ヲスベキ記帳ヒカヒリ終ヒ

ヤリ直シテ夜又十二時迄ソレカラ帰場ヒテ以後ガ空テ居ルノデ少ドレソ

ソレカ〳〵ヒ来ヒ又起コシモ其ヲ強ヒテ

眠ヒカコレ一時半就眠ヒタ。実ニ今ヒ生レテ今ロ程後イタヲ初メテ

○二十二時ヲ頃ト日ト孝ヲ働カヒ直シタノデアッタ

今夜下ヒ二石猿、孔ノヒ二ハ巳ヒ年ノモ十ヒ。十時ヒ。ハ二サントハ作カレトニ

ハ半襟一品ヒ。ヒ上ヒ

全今ヒヒ〳〵精力ヒヲヒ感ヒ精力ヒヒ〳〵ヒ孫ヒ働ヒ

受信

摘要

五月　月かゆ高んと慢ヲ。ヒ。ヒ。ヒ

六月

（陰暦五月節）芒種　六月　至夏（陰暦五月中の節）

六月行事

上旬より梅雨に入る、梅の實の熟する頃なれば此名あり○三十日は諸處の神社にて大祓を行ふ半年の終なれば罪穢を祓ひ淨むるなりとぞ、十二月三十一日も同じ○花菖蒲咲く頃は田植の盛時とす

節物時令

夏木立○木下闇○入梅○梅雨○さみだれ○實梅○燕子花○花あやめ○ばらの花○枝蛙○蠅○蚊○蚤○夏至○天王祭○扇○團扇○夏山○五月闇○五月晴○暑○單衣○雷○苔の花○黄梅○若竹○新竹○今年竹○日枝祭○撫子○早稲○田植○早乙女○田植歌○田植笠○蝙蝠○廬橘○青田

食品月令

いわし○こはだ○鰺○家鴨○牛蒡○人參○枝豆○夏蕨○百合根○冬瓜○藤豆○新芋○蕪○早松茸○あらめ○苹果○杏子○夏蜜柑

諸國祭禮

大和山城	いわし	一日
下野	こはだ	一日
山城	鰺	一日
武藏	家鴨	一日
石狩	牛蒡	十五日
尾張	人參	十五日
摂津	枝豆	十五日
丹生川	夏蕨	十五日
貴船	百合根	十五日
東照	冬瓜	十五日
八阪	藤豆	十五日
日枝	新芋	十五日
札幌	蕪	十五日
熱田	早松茸	十五日
吉田	あらめ	十五日
祭	苹果	十五日
祭	杏子	十五日
祭	夏蜜柑	十五日

○六月中行事豫記

六月一日

水曜	丁酉	天氣 晴	寒暖

發信	受信	摘要

今日ハ朝ノ内ハ曇リ勝ナリシガ午後ニナリテ晴ル、ヤ、暑シ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

木曜	戊戌	六月二日	天氣 曇り	寒暖

正時半過ぎ雨冷雨摩擦ヲ終リ、ゾロ〳〵二階ノ室ノ方付ケカヽル
何ヲヒロヒヤルカ金ガ伝授金ヲ入レタリ時、遅イテアッタリガ、マダ其ノ時
ホコリヲ、ガツテ居ッタトキノ如カラ其ノ大機ノモノデハナカリシ
ナ時後金ノ後ガ来ルノデ、ガレコードノ思ヒデ新飯ノ喰フ
意味方ガ終ッテ直食後実後ニ代ヘタリ思ヒデ出題ケルト雷雨ガ
降ッテ出タノデ、ドーク〳〵ガ降ッテ来ルニ階ニ上リ多ク近寄ル
ヲ待ッ入浴後食事迄ガ約後名詩解ノ後ニ、後ヤ、代数等、九時
過ヤ少時文章軌範ノ前ニ出ル後ニ就眠ス

發信	受信	摘要
伝騎五代春人 伝騎ヲ〳〵病ヲ見 舞ヲ報告		

金曜	己亥	六月三日	天氣 晴	寒暖

今朝ハ雨ガ降ラヌ為カ比較的ニ暖カイ、石花ヤ金ノ日年輩ノ坊ヤト
ヒヲ話ヒデ見ル、宮氏伝無人中ダヒヲ居ラウ見ヲ大丈夫ソコデ
モナシ新早ク来ルトノヲデ帰途ニツク、ソレカラ代ヘ宮ヲ伝騎ヲ
男ガ来ヲ居ルカラ、此レヲ其ヒ、出入場ヘ宮ヲ、石陰ヤ遊ブヲ
ノデ之レヲ其ヒヲ所ヲ遊ヒヤヒ時ヲ帰宅、下女父ガ煙草ヲ買ヒ
直食迄之レヲ後ヒヤ後代数ヲ男ヲ使ヒ、其ヲ来帰後ニ書ヲ
又ヒ書ヲ年ニ文ヲ遊ヒ、ソノ代ヲ代ヲ代ヲ、ヲ、九程ヲ通ラ
デ金ヲ成功ヲ近ヲ決シテ之ヲ書ニ為ヲ日ヲ代ヲ為ヲ程陰ヒ其ヒ比
舞ヲ居ヲ、代数ヒヲ代ヲ男ヲ使ヒ十一時就眠

發信	受信	摘要
後年其後		

夏山や紫躑躅遅櫻（道彦）

土曜	庚子	六月四日	天氣	寒暖

午前8時過床、室屋ノ方ヨリ六月定リ出デ、ソウ云ヘバ寝ル居ラレルカラ、ト場ナト見テハ屋ガナサレト程ノ場ニナイトカ云フノデ、ソコデ二場ノズーフトヲタ、ソレトズートトヲテモ山ガナモーデアル二場ノ方ニハ立ツ：アル一番奥デソレカラ疑問ニ場デハ上物ト別ニナイカヘレニ近イ文ガ側ニ物ノ一番奥デソレカラ疑問ニ場デハ上物ト別ニナイカヘレニ近イ文ガソレラシイ多分宮ノ入ニノデ極側ニ墓ナラ程上ノ方ヘ行ケタ程ナモノデ

履物ノスベテ和帳ガアツテ、ヤスリ物ノ多ク勝ノ対シタ右側ノ個長ノ作ツテアル多ユナレカオ藤人ガ、ベタ〳〵スルト思フ居ルト云ノ方ノ、ソイテ、ヤートカ

ケニカリモ居ル、ヤ、鶴ニ付ケタ、唯ニ付ケタ高カラモト方ニナカウギ

征清軍臺灣基隆を占領す（廿八年）

行過ぐるあとに風あり夏野原（完來）

日曜	辛丑	六月五日	天氣	寒暖

此文書ハ下ノ方ニ書ガ見ガ荒イト見エル

ヤガテ又可写ヲ持ツテ来ル人ハ、ヤウヤウ出テ来タ、ヨーノ藤ナコレダ

然ト深ヤ〳〵ト出タ顔色デ、ソレデ頭ヲ出シテヤツテ居タ

モーカレコレ五十二近カローカト思フレル不快ハガ程ト上カラナイガ、逆脈ツーナ質デ初対面ノ時ノ時ノ様ニ出テ居ルト言ヒ出ス

トコロガ〳〵現切ナモノデ自ノ住居カラ藤人ハ一番悪ナトモ

説ケト、先ツ多務ノ方ガ考方ヲ故等デ又、平ラ分カル

カラトノ方ガ会ツコ宮ニイ程ニトコロト、ソレナラ時トモ、モー

一応期待ノ初ニ出ヲ過ラ出マスカラ出ル出等ガ分ルモー

一辺ニ過ヒ方ニタイトコーヒツ方ニナツテ、ハ対ソコノ時ニタ

ソレカラ浮腫ノ様ニ出ル方ニ居ルノデ、ソレ一番ノ果国ノ夏ヤ写

トソレナラ服薬ハ、体内ニサレルトドーデスト改ル居ノ迷メデ

直ケニ電強ノ熱ケ来ニ方ニ飛ノ熱ノ機型ノ材料ニ英牛ハ

出ル下分ケケ出ツタ、ニナ分程ニ方、マダコノデ又電強ノ長く

ガヤルトガ〳〵スケ来ヲ、全ノ思ツテ居タ皆色ノ見ガ分カル

出ノ方ノ方ノ方

夏山や紫躑躅遅櫻（道彦）

土曜	庚子	六月四日	天氣	寒暖

紺ト黒トノ色ガケテアル。出ヲカケカラ紺ノ一番ハヤカ色ノ
浴衣ヲタ十五四分トノ。十二時前帰宅直後ニ階デ
コツ〳〵模型ノ製作ヲナスヤ午之ヨリ比後イ裏庭ヲ
掃ヲカアマリ、クキテ、ヨリ結ヲノ枝ニナリ居ニ、ヲ之ヨリ
ヲ、夕食ハ四ヨリ廿分ノ白ニマデ「スタラ」ガ「ヅック」ヲ買ニ
ヲカ五地ノカナ、タノデ城跡ヨリ一ツ買ヲ帰ヲ
定期ヲ後書設ヲ挟ニ十時就床

征清軍臺灣基隆を占領す（廿八年）

行過ぐるとにあり風の夏野原（完來）

日曜	辛丑	六月五日	天氣 雨	寒暖

ドシヤブリノ中ヲ七時頃定ヲ出テ「天ヘ」ヲ、坊サレト云フ人ガ出テ来タレテ
額ヲ見ルナリ今ハカラ来テオクナハウタニカフカト「余期シテ居タ」ヲガ
「アマリ実如トシテ」ヲカ
レタノデサヒ、ダダ〳〵トシタ、然シ兼ダ通ツテ止メヲ宿マヲ来レトノ事デ
比方ガイカラ、云フ通リニナシ、今ハスグ帰途ニアイタ、ソシテ工場ニ立寄リ
吉田ハニヲ勝第ト手稼用ニナヲ「ヲ告ゲ又往ヲ通ベ十時出ル帰
定ヲ〳〵ナニ二階ヲ方附ケ持ヲ〳〵ヲ、ダケノ本リ掃ヘテ後ヲ、何ヲモナサズ
タベナレトナリ元ヲ勝ダズ今ハ一ヲカウント喜ガカレトヲ挽ヲ元場ガヒタ
ソレハ余ノ「クセ」デ今ハ迄
ヒヲ以上帰宅ヒタ時ヲ元ノ帰ル時、カナラズ、マンナ感ヒガ
ヒタノデアツタ、ヲ、余ヲ何ヲコー憶病ナノカヒヲ、ヲコデ一ヲ自ハ偏ヲ達ヒテ、易

信發
信受
摘要

比方ガナイカラ、帰宅後マダ一ヲ書ヲ和ノ定ヘ「ヲ」ヲ、ヲ、ヲガナイノデ帰ヲ以ヲカヲ九條ヘ「ヲ」ヲ、ヲ、ヲ、

「夏ミカンヲナ何ボ」ト八時半帰れ、ソレヨリ数ヲ地ヲ書ク、主人ハ主人ハ、ソノ計算法ノ誤
接ヲ知ラ知ル地ル家後論偏リ二十語ヒテ帰ル」ト十時
六月

一六四

月曜	壬寅	六月六日	天氣 晴レ 寒暖	受信	発信	摘要
午前九時延休後面会水産技師ノ紹介状ヲ持ッテ前田ノ紹介状ヲ持ッテ市場ヘ車ヲ走ラセ						
ヤリ、所ガ、名刺ヲ書キナドスル内ニ四日セヲ方ヲ十五分、第十二ノ方ヲ第十五レタ						
ゲ其車ニ乗ッテ、イク、定ラズ、エー加ト一緒ニ後ヲ感ジタ位置カラ、車ハ已ニ若ヲ						
ッテ止ラ、「カスケラ」、箱ヲ一ツ渡シテ西ニ走リ七時半シ五分ハ家ヲ出タ						
場カラ一直ニ出車ヲ数ヲ、泡盛ヲナス後ヲ空キヲ、工場ヲ廻ル						
見廻ヲ、又帳簿ヲ調ベナドヲナス、今ハ兎ニ角一向不得要領ガアル						
夕食後入浴、職ヲ呼ブテ、昭慶町ノ同田清服店ヘ行キ以ヲ、外ニ出ノ出						
独ノ「ズボン」ヲ一着注文シテ、ソレニ寄ニ少ク新橋ニテ井上君ト同ジ正長ノ雲						
右帰ル、ヲ待ッテ、ヲ、ヲ、ヲ

六月八日	甲辰	水曜

天氣 晴　寒暖

信受

信發

要摘

用ヲ命ズルト云ノ是ガ例常ノ癖イツモガヘシ[illegible]ヲ[illegible]シテ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

短夜や毛蟲の上に露の玉　（蘇村）

金曜	丙午	六月十日	天氣 雨後晴	寒暖
				發信
				受信
				要摘

然清ノ亭静カニヨキテ延来昨ニ引続キ暖ノ日ヲ送タ

今日郵ノ帳合ノ仕方デハ一ツ一機械ノ比上ケトソレニ材料ノ幾程上ケタカ幾

ラカヨクトモ、カイモク合カラナイノデ、立ツハ金ノ弁者迄ノ、ソレヲ何ベ抗

ト、之レヲ切ニサセント前ニヤツテ居タンダガ、ソレガ終カナカタノダ

ソーナ、ソノ金ノ前ノ帳簿ナドヨリ調ベ色々苦心シテ教ケラルル、Note ヲ

一冊丈メ出ス之レニ難リ引タ、然シ半々面倒デアル

夕方主人ノ外国ニテ居ラレルト聞キニテ後ヲ見ル、ソウカラ、捜ビ一番ニ

其他一ニ話ヲシタ夕　九時頃寝ニノボリ暫ク時ヲ過ス内ニ寝ル

二時ヲ見過ヲ時就眠ス

（年十四）　日佛協約締結せらる

羅ひくや天女の天つ風　（鳴雪）

土曜	丁未	六月十一日	天氣 晴	寒暖
				發信
				受信
				要摘

目ヲ覚マシテ時計ヲ見ルト七時十分前ニシハ大変ト飛ビ起キタ

昨日ハ飯ヲ喰フ毎ニ腹ガ痛タンダガ今日ハ何レトモナカツタ　大体六日以後憂思

ガ変ツタ為ニ、官物ヲ少シモ取ラナイト食量ヲ定メタノト一ツハ、飯ガ「コワ

イ」カラデアツタラシイ、而シテ今日ハモー別タン悩慢ニナレタノデ昨日ノ苦丁ト変

化ノ過度ニ陥ツタトモヨカロー、

六時入浴ヲ食ヲ終ヲ外国ヲ巡ビ、アル時迄ヤヨリ主人来ラレ種々有

益ナ話ヲ聞キ九時半内ニ達ス、主人ニ一ツモ工業学校ヲ建テ、ソノ内

ニハ、モ建ラナカツタノ、ソレニ考機械ニ関スル博物ヲ警ベバカリテ、全ク講

義録デ一ニ日遅ノ個所ヲ行正セラレタ　ソレカラ色々実験ガアツタ、金ハ別ニ

（年二十四）　皇室服喪令の公布あり

不得　方角　時就寝

日曜　戊申　六月十二日　天氣　晴　寒暖

今日ハ我々ノ時節ノ句デアルソレノ故ニ三好政柏餅ヲ拵ヘテ第七時茶ヲ持ツテ来タ余ハ二ツダケ、帳ヲアトニツハ残セテ居イタ、ソレハ近頃百姓ノ少シモヤラナイノデ、之レ以上ハ、又ハ後リ捉シン為ニ一ト思フカラ

六時半夕食入浴共ニ終ツテ洋服ヲ着テ帰宅ス、何トモ無キ日以来洋服ヲ着ヘ来ルノガ今ガ「レコード」デアル、余ハ敢テ容姿ヲ正シテ先ヲ何ヲ無イ風ニ、ヨツテ、帰宅スレバ皆ヨク似合フト云フテ、先ハ一ツト着テ見タガ、ヤハリ服ノ方ガ少シ大カツタ、余ハ今宵ニ限カラテ見シン事ヤ無花勤強ヲ先ニト言ヘバ、ヨ子ヲ呼ビシン事ヲ話ツタ、ハ対時ヨリ、余ノ「ユカタ」ヲ買フトテ帰ト云ヒトモ無カタ、ソシテ云ヒ出シモ「ユカタ」ハ入江

信受　信發　摘要

（年十正天）明智光秀死す

角一ノ島カノ下ニ入イ

主人ハ「イヒ」ヲ絵團扇ノ扇ターデ十七島ノトモ言フノガ長ク

清十郎ハ清水ノ島ノ島ガ夏ニ

ナカ言ヒ

（村）

月曜　己酉　六月十三日　天氣　晴　寒暖

昨日ヨリ入梅ニシテ、ガ成程今日ハ実ニ梅雨ノ「ダイ」ト云ヒツベキカデ、ソレガ時ニ

ヲ朝ニト降リ続ケ、ソレカラ続ケハ雷雨相半バシテ、時々細雨ヲ交エテ居タ

午後ノ「テ」ヲ主人ハ角一ヘ行ツテ帰ルトリ、「大変ナ事ヲ云ヒ居ツタ」ト

言ワレタ、ソレハ今迄ヨリ、アル十七島カノ「エビジ」ガ出ル島カガ不足ダカラ

今一ツ大キクシテ呉レトノ事デ早速侍ノ屋ヤラ火造屋ヲ入山ガ止メト言ヒ

タ所ヨリ角一ヘ、木下ト今又護謨工場ノ技師ガ被害ノ程度ヲ

取調ベニ来タ、タ刻侍ノ居ガ来テ、ヲ侍遥ニカ、ツタ、ヲ、ナドノ被害

ヲ主人ト話シテ居タ、ソコヘ童謡ヲ来タガ之レハコタ今材料ヲ買ヒニ行ツテ

居タノガ、ヤ作ニカ、ツテ居タカラ夜ヲ徹シテ居ント主人ガ来テ話シ

ヲ

（無）

六月　月　居ル夜ヘ木下ガ来タ例ノ如ク酒ヲ飲ンデ、ヨ子ハ酒ヲ

竟ニ主人ノ話ニ、張リ切リ過ギテ居タ、ソレガ原因ノ為ニ、余ハ一七一作ノ絵ヲ拵ヘ

坊ヤヘ絵ヲ出シテ、ヲ、ヲ、ヲ

波頭呼ぶ草の彼方の扇かな　（蕪村）

火曜	庚戌	六月十四日	天氣 雨	寒暖

午前十時頃吉田氏から電話で、昨日夕方送別会を夕食の為に
タイが出来ないから電話でお知らせしたが来られず残念だ
ったが出発の時間が迫ってから来られたので
夕飯をこゝで
在仁川某支店、現在帰朝の後を又共同会社の
ことに就いて

受信	発信	摘要

曾根子韓國統監に任ぜらる　（四十二年）

送別会

佐佐木友人の送別会

絲くれば蘭踊るなりの鍋の中　（四明）

水曜	辛亥	六月十五日	天氣 雨	寒暖

午前五時延期後理学界の讀み、其後へ丁度佐佐木先生の場から電
話で早々帰宅して主人と共に金りワスレを見たりして
夜、角洋村の呼びでうき主任と共に出発せしが、七時半入山来って角一
会社の「ロール」蓋車の、ハブシテ九時半帰って、可成人の大根伐採へ
進むことに出来たので余は主人の進と半分金殖の後援者鎌へ行った
帰り後洋服に着替へ十一時食の富士で定り出で勢銅場に立寄り
仕事の様子見た、富士の老人次第さかしく成られた、ツレて今夕、送別
会と御年玉の笑が失礼する者多く本日迄もしるくから何時ナリト良
うと来て呉れとのワレタ

受信	発信	摘要

昨日コレから今宮へ帰ってから電話の話で、少時スルト此から又電
話が鶴の中山氏から吉田氏が居り待って居るから今宮へ帰って
吉田氏と共に送別会を夕食の為に
ナ、、、

ヤカテ雨々タル中ヲカラ〳〵ト砂ヲ踏ンデ日柄丸ノ玄関ニ上ガッタ
先ヅ池畔ノ南ヨリ二階ニ案内セラレテ「ガラト」一風呂汗ヲ流シテ
「サッパリ」トシタ塔依リ著タ時ノ心地好サ！試ミニ樹チコヨレバ
涼気ノ冷ヤリトシタノガ殊更ニ肌カワヲヨイ、　トヌレバ左手ノ方
自然ノ老松枝ヲタワワニ濃ク緑ヲ垂ラシテ、ソガ才晴ラキ
下ニトウ〳〵ト響ク音、瞬ク稲ヲ、ウカバフニ見エルハ流童ト
浮ベル生簀ノ篝ノミ、其水流シテ前庭ノ池ト成ッテ居ル、　池中
又風流アリデ一丁凝タ板橋ガアリ其橋柱ニ鉄鎖迄結ビ付
居ロ一ニ六ツ珠ニ池中ニ白ク塗ニ絵ニ色トリ〳〵ニ映クハ、アヤメカ
ショウブ抔ノ類ガカ何レニセヨ五月雨ニ相応シテ涼味タン溢ガ
又ヨシ、ヤカシテ妻ヲシテ、気言イ　池ヲ廻ヘタ小山アリ石アリ
燈籠アリ又蔦ノ類等中ニスリ凝ラシテ居ル、而シテ之ニ等ガ
皆梅雨ニシイ陰気ナ中ニ緑ヲ加ヘテ一ヒシ色晴ヲアテ見エル
余ハ彩々ニ移シ行ク空ヲ眺メナガラ詩ガ壇声ヲ吞クハ城ニ好キ
タ、何ヒトナク心ウトウト薄ク付イテ来ル時ガ如イ
然シ此多ハソレ迄ニ余ニ満足ヲ與ヘナカラタ、白フ一生数カラニ強ー
音ニソレ時ヲ起コル阿房声ハ城ニ多キ苦ヒシイ
時ハ此時ヲ半バ過ギタ頃デアル井上次下ノ諸氏ガ来タ〳〵遅クナルト
ヨフノデ、フコデ中山中氏、両氏ハ結構ナ初ヲシル、吉田氏ハマダ眠イ
トテ横ニナラシタ余ハ疲ノ持ヲミヨウフ、中山氏ガ電気ー中デ
珍ヒ見タ余ノ著報ヲ眺メタ、夏ガソレニ先ヲ、飛ブ機ノ設成
ノ記事ガ多ク居タ余ハ驚ク思ウ様ニ思ウ下ラタガ、兼ネテ
外注シテアッタ設計機ガ来月初旬デナイト到著シナイトノ事デ
アッタ、コレデヤット安心ガ出来タ、何条同様ノ他人ニ先ヲ第ノ
セラレテナルモノカ、
ソレカラ欧米飛ブ男ノ近ヲト経ヒテナセ耳外タラシイ記事ガアッタ
若シ一ツ城ヲ行ハ研究会ガ電ブ飛ブ機ノ材料ヲ海外ニ注
文シテアッタノガ浙次輸入セラレツ、アルトノ事デ余ハ遠カラズ機会ノ
来ルベキタ為ンダ形ガ内ニ時ニ過ギテ電燈ガキラッド輝イタ
此時吉田氏ハ待チアグシテ「ビール」ヲ命シシタ、又ヘ甘酒ガ下ガ
冷キコトタカラ其レヘトスッテ来タト同時ニドヤ〳〵ト井上、坂口
藤田、高橋、ノ氏ガ来ラレタ余ハソレ〳〵接拶ヲナシ、カクテ
席吸タマッテ富ハ同ジタ通シ通セ同様意味ガ来ラシタ
長坂一吸盃ヲ交ケタガ仲居ニ意ヲ通シテ居イタノデ「ホレ」ー
マネタケシ意シタノデ大ニ助カッタ、此駅迄ノ大学トスッテモ
ナイガ　メナラ坂カラ〳〵ト極ビレタ場所ガ場所ダケニ大分高ク
付ク事デアロー、然ニ此ノ貴ッテ手當ガ見エスイテ居ルカケ、高お気
ノ毒デナラナイ、余ニ初メ、コンナ事トハ思ワナカッタノデ特ニ北おか
島庶位イト後想シテ居タノダ又今日迄ノ例ヲシケモ雷ッテ、コンナ
盛大ナ事ハ無カッタノデアル、ソコデ余ハ〳〵祖意スル

余が引き受けて〳〵下しなから送りそしてタシト吉井氏ニ会ノ目的
ヲ山五郎ニ対イタ為メゾレリ忙トシテ、サレバコフコトナ思ヒ切テ
手ヲセラレシノダトモカツテト金ハ金ノ責任ノ一部カラ、フタ
後ナ気カシタ而シテ又レ音信氏ニ謝スルト同時ニ姉ニモ又多
謝セネバナラナイ事ヲ感起シタ
欲酒ト猥褻トハ対キモノト見ユソシテ オカシナ話ガ初シヌル迄ト
仲居ト故々ノ年ヲ営ナサセタ、スルト吉田氏ガヤハリ天デ金ヲ
一番芸ヲトラフヨウハムシロオボコウ見タラシイ、然シ関ガ見ハ金
ヲ一ツ下デアルノダ、ガ芸妓舞ヒカ大人ビテ居ルノデ金ニ私ガ
惑ウタノデ、其内次第〳〵ニ酒ガ廻ツテト、何度ハレル免ル中山
ハシ一ツ頂戴ナド、云ヒ出スト、吉田氏ガ場数カラカ味慣リ
リヤシテ果テ仲居ト引カセタ、ソレカラハ舞ヲ教ノ大カワ
キデ、先キニハ河原声トイフノガ芸ハヤハリ英語ヲ作ツテ
居ラネバナラナイ 殊ニ余ガ正寅トシテ 家ノ前ニ張ル為ケラレタノデ
治更自由ニ立ツテ出来ナイ 然シ嫌ナ気ハ少シモシナカタ
中ニハレハカスカニ延ビナシテ居ラレル外ケ一ツハ飛ビハナレテ見ユル
吉田氏ノ側ノ猫ヲトラフデモナイガソンナ風ナ気味ガアタ井上
氏ハ近頃大分延ビヒラカレル外ケ一ツハ蔓ガナイニ立ツテ見タガラ
シテ、頃ハ内地両氏ノ猫ヲ多ク自ラ仕ズシテ外ケデ顔面色モ
変ヘナケレバ又云然タルモノデアル。同氏ト共ニ嫌ラヒイ方デ
十戸デ呼ブ仲居ト封信セラレ、後田氏ト果ハ又大ニ対デ
色気ヲツケモアツタモノデナイ気ニ入ラナケレハ大キナ声デ
ドナル、カト思フト如ト晩リ紅ヒデ歩ムラセラレルフコデ今一人中島氏
ガ其言ナシイ為ニ実ニ夜明リ知ラヌフカ立チナイ位デアツタ
時タラ〳〵夜前ニ〳〵ト警戒一ツ船ビラカラヤドサレテ迫
ヒラカラ来人ガ多、ト中山氏ハヤリ〳〵ト呼シ立テ、引キ上
デツテセラレタノデ帰人ハアタフタ逃ケテ了タ

外ノ面ニ外ノ人ノ逃ヒ出セル内ハ時ニ迫ヒ上ガ来ル近カラ
スル故トモナルト中山氏ハ全ク心ヲ計カツテ「ダメ〳〵」トエラレタ為ニ
仲居ナドハマダ〳〵ト云フテ急ニ出サナカツタガ遂ヒニ九時十分
一円ヲ延シテ強ヒリ縛シタ幸ニ両ハ上ガツテ居タ、然モ星影ハ
一ツモ見ヘトラレカツタ、惜能ノ如ク千古ノ老松ハ立タ〳〵
俯ク地リオラク居ル、而シテ来タ断光燈ガ白イ砂ノ上ニ松ノ影
ヲ模様ノ様ニ染メテ居ル
九時ニナ分変車ノ鈴快ヲシ暴騒ノ地ヲハナレタ、嬉嬉全ク此地
デ親密ヲ上ゲタイモノデアル、ア、金ノ為ニ此ヲ去ル事ハ
出来ルデアローカ
車中ガハ一二タノツタ外皆寝タノ居眠ルノ居ラレタ
十時半五市ノ停定ソシヨウ五ケニ提灯ノ下ヲ引キリナシ十二日十五
分新橋ノ入

木曜	壬子	六月十六日	天氣 雨	寒暖
昨夜遅くまで精が出て終に眠れず疲れを覚ゆ 此様ト思ツテ目覚ヒ用トシタレドモ一番用ヒタ 午後角一ヅヽ今度今ハ「エンピツ」見積書作成ノ為ニ使フ迄ニ 入浴、夕食後作ノ記ヲ書ク、イクラト文句ガ出テ来テ仕舞ヒニ長イ モノニナッテ了ッタ時半頃迄ニ終ル				

發信	受信	摘要
依頼ニ応ジ、既成未成ノ被害者ノ自宅 作ノ概況送ル		

金曜	癸丑	六月十七日	天氣 雨後ノ晴	寒暖
新ノ内ハ、トヽト降リ通シダガ、ヒヒ時頃カラハ久シ振リニ青イ空ガ見エテ 一作ノ先生ノ飛ノ機嫌成ノ記事ヲ見テ以来物忘レ心動イテ今ヨリトハ 又少シ話席ガヒテ、ウシテ先生ノ自転ノ出ヲ一日モ忘テ下サリタヒテ見 テガ、余ノ当リ矢ヒテ文句ヒカナイ処ヒテ文句ヒテバ出ス必要 ハ見トメラレナイ、トードイ今ハ書信ニテ居イテ 夜イヨ〳〵機会ノ近ヒテアルノヲ知テ了ッテ孔明及ビ石油機実ヲ優ム ハ時時計ノ時ガ破レテ居ルノデ直ヒテ了ッタガ今ウノガ直カラ多カラ 直ヒテ待ズ、時ヲ去ル、張紙ノ記ヲ使用スル事ヒ ナリ終ル				

發信	受信	摘要

土曜　甲寅　六月十八日　天氣　時　寒暖

二日半延永分別心持ノ好イ部分ハ「カフト」机ノ上ヲ照ラシテ居レタ、後ノ快晴ノ人ノ上ヲ全ク極楽ト云フ感ジヲ与ヘタレドモ、コレガ為メ今ノ角一ツニ心ヲ持タセテヤルノニ人足ガ立カフタノニ一番困ッタ、多分カフ主人ハ角一ツトキカーセルト外国ノ国面ヲ写シテ居ラシタ全ク其カタワラニアフテ、心フトヌ居ルト成ル程ウマイモノデ出ラクナラ先ヲ外側ハ墨塗トナル太リナ部分カラ始メルカ主人ノ中央ノ主ヲ部分カラズシ〳〵進ンデ行カレル、ダカラ線ノ形ヲヤマラカ無ク、尺度ヲ多ク使用シテ、大概ニコレバスデ済ムモノデアレル、後ヲ少シ備新ヲ写ス内ニ移ル所ノ光線機械ノ研究ニ対シ紙

摘要　受信　發信

日曜　乙卯　六月十九日　天氣　時　寒暖

今ハイドクノ「ビ」ノ絵ガ出来タ一両日中ニ該成スル予ヒ

夕方主人ガ外国ヘレノ見後ヲ十出ヲ、此ノ書ヲ書ノ長カ、ヲ一ノ内迄ガ迄ヲ書キヲ後ヲ修正ノ優ル

今夜色々考ヘテ見ルト同ニ成ルノカ何ニカ無線ヲ居ル気ガシテ、コレハ若シ「エジソン」ノ研究ノ目的トシテノデアルカ必ズ立派ナ機ノ外エジソンハヤラナイガカラ出来ル機ト信ジ立派ノ結果ヲ出ス様ニ一日ヲ早ク先ヲ行ヒタイト思ヒ第ニカマ多ク心考ノ方ノ工人トシテ、ヤトワレタイカト思フデ、ソコデ金ニ色々苦迷ノ方ヲ考ヘテ見タガ今出ダシヌケニ成ッタ

夫ガ先ヲ考ヘ模様ヲ居ラレルト結ヒヲ居ナイカラ、やハリ苦ヲ思ヒ今ヒ上ニ

摘要　受信　發信

六月ヒヤケシバサラナイ、然シ先ヲ、先ヲ、ヨ部ガ、ヒンカラ人足ガ一七七八用トナルカラ、ソレカラ其ノ迄デ待ト、ガ、コレナルデ五位ノ行ヲ寝ヲ出ル

夏痩の横顔照るやる宵の月（雪居）

月曜	丙辰	六月二十日	天氣 雲	寒暖

今日ハ一日ハ何トナク気ガ晴ナカッタノカ眠ガ心持ヲ悪カッタ、ソレカ有ル大分用事ヲ済マシタ様ナ気ガスル

夕方ヨリ雨ガ降リ出シタ様カト思ヒカ急ニ冷ヘテ帰宅セラル

父ヲ帰ハ故家ニ今ニ少イテ一層勉励セヨト八ツニ教ヘラレタ、ソレハ余ニモ失敗セシカ引イテ仕舞ヒ先ノ精ヲ出ジタラトナレバカラデアル

先ヲ日ヲ出ガ頭ヲ上ケテ歩ケナイドコロデハナイノデ後ヲ外ヲ人ノ如クヲ出ル例ニヨツテ来ルリ一層ヲ出ル

ヲ絵ニ十四日帰宅外ヲ出ル後ニ後ヲ今夜ハ早ク寝ル外ヲ出ル

強ク成ニ〇ノ眠ノ機ノ日ノ強ニ十四日ニ外ヲ就寝ス

發信	受信	摘要

上村艦隊日本海遊撃の敵艦を捜索す（廿七年）

潮引て藻の花しぼむ暑さ哉（兒）

火曜	丁巳	六月二十一日	天氣 雨	寒暖

五時半起床今ヨリ午後カラ雨ガ降リ出シタ

本ノ大阪時報ノ俗答ノ買ツタ二ヲ後ヲ二日分ヲ出カラ見テ帰リ掛ケ見ル

ルト外ヲ交ガ太遠ヲ出ルノコデ細イノト変換ヒナケレバナラナイ様ニナッテ、余ハ果遠

気ハ出難ケテ中ニ換ヲ着ツテ出ル様ヲ

夕方ニ納カラ変ヲ釜ヲ急イデ来タノデ余ヲ失ハ

交通ヲ見ルト中ニハ長崎ヲ出テ来タラマスカラトノ事ヲ

夕食ハ陸後ヲ後ヲ出ル客人ノ見舞ニ来タ、少ク時ヲ過ギ

之ハ半時失ヲ口ダトヲ時ヲトレガ、ズ〳〵セツテ来タ中上、坂ヲ、坂ノ

ヲ方ヲ走ル、午ノ帰宅ノ近ク外ダトカ、五時十五分帰宅

發信	受信	摘要

六月　遠近隠伯、国民協会ヲ開ク、後ヲ主人ノ

帝国大學を東京帝国大學と改め京都に都帝国大學を設く（三十年）

六月二十二日 水曜 戊午 天氣 雨 寒暖

雲雨終日止マズ

今年後後遅き熱砂〜ブリ来後後ノ方ヨリ多ク出セシ

夕星夫内子ガ納・釜後成ノ報アリ

午前八時半起床 掃除終了ノ後ニ。書間サ時国民後ヲ

観ル夕方人ノ英国ノ見又後後ノ事午後サ実物英国ノ

練習スサ時エンパスノ納ノ階上ニ立ノ整ヲ終了ノ見紀

ス

信發 信受 摘要

六月二十三日 木曜 己未 天氣 晴 寒暖

午前八時五分 稀カナ 鶏声ノ為イテ延ル後ノ暫ハ寝ル事ヲ寸書ノ

現ヒスト共ニ此者ニ黒色ハ東方ニ走ノ換フルニ改室ニ白雲飛ブノ

見ルニ至レリ、気ワヤカナリ

有先ニ注文シタル内乾燥器用ケエイ車又々失敗ニ終リ作ラヨリ方

法ノ換ヘテ然作中ノ夕方ニ上ガル稼定、納ノ乾燥釜今新ス

内ヨリ持参ス東客山田氏ノ乾燥機請求、外ニ家新ノ人ヲ入ハイドリ

ノ二ハ五時ノ間全ク来リシ人ヲ入ハイドリ

入浴夕食後ハイドリノメートルノ見ノ写スサ時半就眠

片羽もえて飛びあるくなり夏の蟲　（關　頁）

六月二十四日				
金曜	庚申	天氣	寒暖	
今朝主人ノ命ニ依リ「ハイドリック」ヨリ送ル電報ヲ邦國ノ報告ヲ見ルト	彼地ノ物ハ通リ下ル者ガ早ヤカラ多ク帰宅シテ居ル	雲り	信發	
西ヨリ雪ヲ多ク降ラシ、帰ル人ノ書ヲ又近ク降ラシ居ル	写真ヲ見ル多ク彼ノ皆帰ノ結フタ元ノ中ニハ七分身ガ使ヲ		信受	
如キ帰ル物ハ要ラシ居タ（export american industrie	ヲ見ル十時平ニ眠		摘要	

運羅國と通商條約を結ぶ　（廿一年）

夏川や魚にとらるゝ小蜻蛉　（雪　江）

六月二十五日				
土曜	辛酉	天氣	寒暖	
五時十分前起床ス昨夜ノ例ノ如ク日中ヨリ二ツノ物ヲ見過シ		晴	信發	
十時頃山男又乾燥器ヲ為イテ来タデ有光ヘ電話ヲ懸ケタガ			信受	
ナイト云カラナイトノ、日曜ニ来テ、ハイドリック			摘要	
ヲ見テ兎ニ角答ヘテ先ヲ進ムテ居ルト云フ所ガ主人ハ				
成タケ一時ニ引ケテ豊ナナイトヲフト金ノ用後ニ帰ヘタ此外ニハ来				
客ナシ				
七時半夕食ヲ終リ門ヘ高木然ノ話ヲ精ヲ出ル者デ帰途				
田中ヘ寄ル市代ノ帰リ居レタト巻ノ号ノ近歩ノ購フ、九時帰ル				
後ノメートルコロ「ピ」ノ国ヲナシ十二時就眠ス之レヨリ前「ウドン」ヲ				

六月は駆足ニナル矣が此「ウドン」が石思議石ヲ思議トス一八三頁ニナイが林が先一巻ヲ読ンデ有リツーナヤフフレカラ「フタ」ヲ取レト「帯鉢」ガタタ一切事次ガ書ヲ変ヲ変ヲ「トロ、コブ」ガ返入ヲ食ヲ一ヲ、然ウカヲ

順序ヲ経テ如シテ之レ等ノ秀才ノ士ニ命ジテ始メテ完成セラレタルモノデアル。ソコデ今ノ飛行機ノ間ニアヲ決シテ悪ビカラズ大ニ慎ミノ敬リ取リ正サニ飛ラセナドハ、空想ヲ捨テ徐ニ其実効機ヲ改善シ進ミカナト

六月 思フテハ何ガ苦ケカン書ヘ帰ヘラレナ何今ノ新聞ヤリ

一八四

月曜	六月二十六日	壬戌	天氣 雨	寒暖

日曜

世ノ中ニ人ノ寄ニ依ル一粉ノ者ノ者ニ為ラレタ食ラ表ヘカラレルノ中ゲ

ヲ行タ。

夜ハ時半過ギ大塚ト共ニ知ノ友ノ家ヲ訪ヒ新井氏ノ所ニ行ク。修時ガ急

ヲ知ル

今日ハ食事ヲ夜ノ海軍ニ余ハ敬リ又ヲ敬ヒ男ノ近歩ヲ後レタ室ヲ飛ヲ機ヲ

アヲガ多クノ金ノスゲヲ知ヲ居ンダケノ一ヒカヲ居ナカヲ。ソヒカヲ

電ヲ少ヒト夜ノ中ノ入ヲ直ヲ機関ヲ後ヲ外。ガ表ヲ余ハ一ヲ論ル夏ガ

ヲヲ。ソレハ明ノ朝ヲ後ヲ居ント発ヒヲ方ヲ人ノ「エコート」ヲ引カ信別トヲヒ「ワ

ト」トヒヲ思ヲ無ヲ知ヒト解ヲ決ヒヲ然ラズ。スベヲ古ノ次者ヲ正ヲ

發信	受信	摘要

月曜	六月二十七日	癸亥	天氣 曇	寒暖

五時半起床「散歩」ヲ後ニ後記帳

来客ハ山田外ケ例ノ乾燥器ヲ急キニ来タ。然シ有光ノ後文ヒヲ

ケエイン車ガマダ来ナイ。時ノ入レトノ一然ヒ又ベケニナンカヲ計ラレ又

ヲ食後ヲ多ヲ後ノ後「散ノ界」ヲ後ノ十一時半ヒ寄ヲ

閉ヒ記帳スベキ時半頃内海来ヲ後ノ後ヲ

ヲ後ヲ然ヒ又ヒ時両様ヲ降レヲ

發信	受信	摘要

（太　蕚）　中の汁も込飛の蚤や旅き憂

六月二十八日	火曜	甲子	天氣	寒暖
			雨	

午後角ノ金北ノ木下某ノ家ニエレヒノ図面トハイドクラベルグラ急ダノトキガーロールノ主張ハ五円ニ出切（仮ニハ七円ノモノ）ニ来タ。ダアル然シ皆集不調ニ終ル而シテ弱ニ何百ニ後ラ所ヲ所ヲ話シテ居タ内ニ余モ大分待ニ疲カアル半デ裏ニ著ベレイハ、公園馬カノ計算デアルフレハ、シクンガーノ若ノ自来ニヨリ来シタモノデ現スノデアル

夜九時近ク人ト坊ガント喜上機械ノ為ノナス後ヲ発ス男ノ進歩ヲ使ニナル所ノ

發信	受信	摘要

初蟬や梅雨の晴れてゆく朝嵐　（孟　遠）

六月二十九日	水曜	乙丑	天氣	寒暖
			晴	

今日ハ久カニ一日家ヲ使ハナカラ出ニ私ノ旅ヲ行ハナイ。

先ヲ新聞社ヘ書留ニスル家賃ヲ買ヒ之ヲ渡ス時ハ後家ノ叫ヲ聞ク後ヲ「エンサン」ヲ「アリ」買ヒ之ヲ渡ス時ハ

（楢　曳）　渾釜に子子沸いてゆたかなり

木曜	丙寅	六月三十日	天氣 丙	寒暖
今ニテ珠ノ準備ヤ職ヲ勤ムナドヲシテ、午後少シ「わヤミ」ニナルノヲ待ツ	夕食後ヤモトトト内海サンノ宅ヘ行キ暫ク話シ合ツテ帰ル	「ツ」ト張レド帰ラ、後ヤ敷髮ヲ切リ帰宅後眠ル機ノ客来ル	「ブラ」ニ「バリ」ヤケ十一時就床	夕夕給仕ヲ雇フ七月末レタ実ニ意外デアル、シカシ先ヅ

發信	受信	摘要

（年七冊）　浦鹽艦隊南下して元山居留地を砲撃す

七月

小暑（陰暦六月節）　大暑（陰暦六月中の節）

七月行事

中休暇始まる○土用に入れば諸處に海水浴始り○鐵道驅上野驛にては日光松島等の回遊列車を始む○十三日より盂蘭盆會なれば○十二日早朝より諸處に草市立ち○河々にては河施餓鬼あり○十六日の藪入は一月の時に同じ○九日は淺草觀音の四萬六千日參詣殊に群集す○富士山開き○美濃長良川の鵜飼舟賑ふ○隅田川の大花火は多く此月末に行ふ○此月隅田川游泳稽古始まる

節物時令

納涼○晝寢○海水浴○氷室守○氷賣○ラムネ○土用休○盛夏○盛暑○帷子○避暑○銷暑○三伏○夏菊○朝顔○苦熱○秋近し○夏の雨○夕立○雲の峯○富士詣○蚊柱○蚊やり○火鶏○蚊帳○蚊帳の月○夏の峰○老鶯○水鶏○鵜飼○蝸牛○照射○靈棚○田草取○炎天○青嵐○雨乞○清水○打水○盂蘭盆○墓參○涼衣○行水○浴衣○洗ひ鯉○沖鱠○冷やし瓜○汗○土用干○蟬○蟬時雨○書顔

食品時令

きはだまぐろ○黑鯛○紫蘇實○生椎茸○茄子○隱元豆○鵬し獨活○千瓢○夏ねぎ○玉蜀黍○朱欒○芭蕉實○鳳梨

諸國祭禮

山城建勳祭　一日
羽前陸前鹽竈祭　十日
羽前月山祭　十五日
湯殿山祭　十五日
出雲日御碕祭　七日
羽前攝津湊川祭　十二日
肥後阿蘇祭　十五日
羽前出羽祭　廿八日

○七月年中行事

金曜	丁卯	七月一日	天氣	寒暖
			晴	

月ヶ瀬ストスゲニ寄ロウ誓ヒ直チニ飛ビヨモ電ヲニ乗ンロ正ニ出ロ之ハン十正分
金ノ落紀ノ各位ヨリ午後因ヲ正ニ作成々迄ニヤッタトヨウノデ
溺ル寂リセ文ニ甚ヲヤンヲニモ茶ガニロ出ニナッテニ延キナイ甚ダ
金ノ風名ニ入リ因ヲ去リ迄ニヨガ延ヲナイ比方ガナイカラ捨テ、居オテニ別ニ
カマイ出ニナイガソレデ「御部帳ガ出ヲ居ンニ落紀ノ方ガ出来ナイ」ト言ッテ
因ヲ長ノ面目ニモカワルト思ッタノデ、地ヲノ帳面迄書キ上ゲ動ニヤッタ
ロ出ロ迄ヤヨウ中ニ居ロ上野ニ八ヶ百数ヲ言ッテレンデ、出ンデ、夕食ハ摘
ニヲ風ニ言ッテ、布ヲ見ンロ飛ヲ織ノ現在及暗来トヨウノガ用ニ入ッタノデ
直チニ求メタ代一日十銭ヨリ帰宅迄次ノ暴ヲ、ヲ、ヲ、ヲ、ヲ、ヲ、ヲ、ヲ

受信	発信	摘要
		十時帰宅就眠

内地雑居を實施す（廿二年）小村高平兩氏講和全權委員仰付らる（廿八年）

土曜	戊辰	七月二日	天氣	寒暖
			晴	

ロ出ロ半起床ポ、日記ヲ付ケ、後支拂簿ノ各ノ記帳ヲナス。
ヲ後ッスヲ三ヒヤトロ今ロ出ヲ之ヲ思ッテ演ロヘ電信ヲ送ントロ出ロ半頃
迄出ヲ時ヲ来テナロ迄ニ長ロ出ヒヲ長ロトヲ了ッテ、出ヒ出ヒ長ロトヲ了ッテ、
里能デ実ヲ「ッ」ヲ「ッ」ヲ「ッ」

夏の月御油より出でゝ赤坂や　（蕉　芭）

月曜	己巳	七月三日	天氣 雨	寒暖
日曜				

夜あけ方に一昨夜のうち若き人と懇しび何ごとかの気のせいレフーナモノフト思ひ、先生の絵に「金月今の音」七十七字の書き送りて又新に定へ所望の旨を伝へ去月十五日の拙作に対へ「一九二中之日拙作へ」

一西中ノ花鑑賞ヲアセラヒ出ス

ナリ

夏ノ暑ノ

暑ノ又止ミ一幾回九カ知ラズ嘸々ウットーシキ梅雨ヨ早ク上ガラマホシト思ヘド如何トモナシ詰シ

今年前年後二回ト本型ヲ洗フヨ黒汁流レ来ル、外例ノジャウ、汚レヌ

ミヨ時ロット其他ノ次迄ノ事四ト使ヒ、ヒ、ムツクルシキ似合度数年ニ

数年之無ベン中程ノ寒ミ、入レ、半ヶ月ヶ月壁ニヤウトコノ数数年ニ

下カシリ載左側ニ火床アラサレド床サシ、ユカモ、味ル強い妹又ジ

レツーナリ寒暖ニ金床アラ今ヤ長来ニ子ヒ、リンプ、ノ狭ニケ、ケント

今ワセガ来ヒ、ラ二丁ノ白健トンカント南ワコ庭ニ大ハ載ヨ、地蓮ニ立タ

ヲ来ノ山ヒ所ハ見ラ、ハ所所所所セラ

發信	受信	摘要

大津繪に丹の過ぎたる暑さ哉　（蓼　太）

月曜	庚午	七月四日	天氣 晴	寒暖

午前十時頃先ヲ仮ノ仮ノ客人ノ訪ヲ報ジテ来タ見角今夜ヲ待ツ

ことタ、ヲ後山田ノ乾燥機ノ組立ヲシタ、ハ時ヒ中田ノ仮仮ムノ

ホープ車ノスコピン注文ヒヲ帰ヘルト仮仮ムノ三田ノ二カラ電信

ガ懸カヒテ帰ツテヒタ時ヒゲ来レトノ言伝リ下ムカラ取イタノデ

別カラ店ガ先ヲ電信ヲ懸ケテ見タ、驚想通ラデアル

夕方一時帰宅ハ佛家ノ法ヲ修ル為ヘ

旦那ガ上書ノ様ハ来ヒ

ヒ時宅ヲ出ヲ、ロ本陸化語ヲ、ロ一ヲ「ケ半紙ヒ、ヘ五十五ヲリ

帰ヲ、ヒ、ヒ、ヒ

暑き日や順禮むれる榎かげ　（關更）

火曜	七月五日	辛未	天氣 晴	寒暖

一時寢書を讀む。夫が毎日忙しかるべき早く起きて朝食を食べ後片付け冬一日毎に寢室へ防寒ころ[illegible]ばかり。[illegible]夜後[illegible]遊んでもかまはぬ。[illegible]人が出て来て[illegible]。[illegible]上をやり一寸[illegible]。[illegible]。[illegible]。

木曜	癸酉	七月七日	天氣 晴レ	寒暖

山田延康洗面、ますます元サレタ事カ、平ニテ帰所

山田ノ軍機カ出来上ッタトカ云フ電車ニ乗ッテ出来上ッタ、山田ハ家ニ来タガ宿田ノ帰ル迄ニ家ニ

夕方飛行機ノ練習ヲ見テ、後ケ方用ニテ堤ノ後ニ宝英館ヘ行ク、

帰所發ノ電ノ迄歩ヲ後ニ十時就床

發信	受信	摘要

金曜	甲戌	七月八日	天氣 晴レ	寒暖

九時半起床飛行機ノ響ノ騒ク

今日ニテ、トカヤ身ヲ、オケツケ百ナニ迄ヲ

夕方後ノ夢ノ迄歩ヲ後ニ外ニ出ルト、電車ニ乗テ

心臓ガ帰ラ四キ、ヲ注ムセニ夕刻後ノ夢ヲ見ヘ、ヲキ涼ク過ビハ時

迄ヲ緑ニ接ケノ稽古ヲ入リ久シ振ニ、ビーブヤケキ上デ舌ヅミリ

ケケ、十時ニ就床帰所迄ヲ記ス

發信	受信	摘要

露國キール親王來朝す（廿一年）　我軍コルサコフを占領す（廿八年）

七月

土曜　乙亥　七月九日　天氣　晴　寒暖

曇時々晴スト雖モ不圖ヲ眺ムレバ高山ノ頂ニ雲ノ懸ル時ハ必ズ雨ノ降ルコトヲ思ハシメ、今日モ亦タ雨ノ降ルコトヲ思ハシメタリ

此日極ノ方ヨリ友ガコロ〳〵トヤツテ来タドード〳〵余ノ中ヘコルゲ込ンデ来ル此方ハナイカラ正ニ逃キタヤレト思フ間モナク直チニ逃ル洗面ヲナシ飯ヲ喰ヒ

機ヲ待ツ

車窓ハ高ノ細ク切ケドモ「ハイドウ〳〵」「ポンプ」ガ山ヲ登ル

ハ山ヲ登ルモヤウヤ一直ナカラ下ゲ見ル角ノ山ノ出ノ方ヘ一ヨウヤ下ルモ

夕食ノ時間不正ノ値段ニヨリ決算ヲ見ル、、、ガ一番ニ中略ニ

見ヲテ強ヲカレトードニ人ヲヤラサレタ後ヶ月表ヲ見ル遠雲他ノ

所ノ下ヲ教ヘハ「アスクリーム」ヲ駆ケ上ル氏ノ宅ヘ先ヲカイフリ

十二時就床

我軍蓋平城を占領す（廿七年）

日曜　丙子　七月十日　天氣　晴　寒暖

立時半起床ガラ、呼吸ツマリソーナ天気熱イカラ閉ヒシタ寝宜ナ戦

寒暖計ハ九度ガ強ガアラウトノ

晴ノ日中ノ金眼ニ習ヒ代数ヲ教ヘタ、カレドエンピンノ制型ヲ絵

考ヘタリ多ク得ナカツタ

夜夕食後外国九時半後ノ、ゼンガイノ「ポンプ」ノ「ポンプ」ガ遠イカラ国

ハカ分ラ心悪ク帰ヘナイカラ比方ガナイ

十時就床

夜中ニ一回一日書ク夜ノ日記ヲ書キ遠ク所ヲ

夕立ニ降ラレモ雨ヲ降ラ来ニ濡ラレ後ニ濡レ

うつむきしき百合に合ふ雨ふる垣根かな　（蘭更）

月曜	丁丑	七月十一日	天氣 晴	寒暖	愛信	要信	要摘
立時延期飛行機研究会コウい金ヲ殺到的ノ研究ヲナス先ヅ第一ニ風圧等ノ研究カ、馬力、其他為之法等研究ノ為メ、カレトビエセン式十四型機ヲ作ルコト決シ、組米ヲ以テ飛行機ノ設計ヲ進メ、ヲ吹ク分降ヲ上ゲ行ヒ、ヒ音量ノ高、物ヲ入れ、米ガ佛ノ方ガ氏ガ今ノ五ガ分カルガ其他ノ色々ノ音量ノ高ク多クノ方ノ方吹ガ外イ又業ノ方吹ノ書ルノニハ音量ガ書イテ無イゴーニフ風ヲ分ケ高領ヲ得カラ夕食ノ後ノ後ノ研究ヲ終ツテ地図、本ノ馬力エンジン用ノ「ベアリング」ノ「ニンブレート」ヲ半分カラ以上ケタ時ノ半フレヲ終ノ後ヲ研究トスルガ為メ分カラナイ	本ヲ飛ヲ機大食ノ後ノ一米美人ハ百ヲ吹ノ高ヲ迄後ヲ走リ上ヲ持セラト	一報ガアル		

蝸牛角振り分けよ須磨明石（芭蕉）

火曜	戊寅	七月十二日	天氣 晴	寒暖	愛信	要信	要摘
立時延期飛行機研究会コウい金ヲ殺到的ノ研究ヲナス先ヅ第一ニ結構ノ機研究中フト今ノ為領ヲ得カラ夕食ノ後ノ後ノ書ノ方ノ書ノ為メ特許局ノ出願書ニ、タワヒタ書イテアルコトヲ御ヒンコトヲ三日ノ夕ノ方ノ為メ硫酸肥料株式会社ニ硫酸バルブノ地図ヲナス入浴ノ後ノ後数髪ニ入リ研究後又地図ニカヘル迄ニ十二時実ヲ盡カエゲタ直ヲニ就床	此上機長入山ニ三日ノ前ヨリ休ンデ去ヲ来ナイ原因ハ先ヲカ何ヘバイドリッヲ」ヲ根ヲケニ入ッタガ名モ多ノ方ノ其望ヲ又ヲ捉ヒヲ、ソレガ高ヲエブ」バンドルガハネ返ヘ				

七月

「カラ多ノ方ガ」「ヲカラ」ヒカラ」ヲケラレタヲ国ノ方ノ為メ其他ニ色ヲ主常ヨリ不満モアルラトイソヒテ前書預ノ為ガ氏ニ職ノ業ヲ差レトヲヲ居ルソーダ（国ニ同機ハ又望ヲ内海ガ出発ヒ事ヲ直ヒテ来タ何ガ

水曜	己卯	七月十三日	天氣	寒暖

立川延命飛行機研究

今年ハ去年ヨリ少シ暑クナルカ如シ、大砲ガスコブル強クナル

夕方ヨリ後ニナルト涼シクナル事カ十時過ギ

仲秋名月ノ月ハ雲ニ隠レテ見エズ、

夕食ノ後約三十分ニシテ月ノ出ル事ヲ知ル、

後ヘベアルヒ光国ヨリ飛ブ機研究ヲ以テ飛ブ思フ

ガブートバンブ」ノ光国ヨリ来ル事ヲ寝ル

發信	受信	摘要

木曜	庚辰	七月十四日	天氣	寒暖

昨日ハ延命飛行機研究会ノ記事ヤコトカ多ク、

四十キロ近ク来ル

愛々年後ノ改四ノ情勢、陸ノ動定等其他ニヤ用ガアル

此ノ時中ニ氏カラ手紙ガ来タ後常後ニ渡シタ

ト云フ笠置塩

勝ノ誘引ガアル来ガ雲ヨカラ、雨ガ降リ出シタ

中ニ氏ヲ訪シテ新今セウトモ雨ヲ降ラネバ

クトモ二十ニ分、デハ日定ヲ緯ニ帰宅

ト帰ラヲ帰ル私明ハ

發信	受信	摘要

金曜	辛巳	七月十五日	天氣	寒暖

發信

受信

摘要

土曜	壬午	七月十六日	天氣	寒暖

ノ[illegible]ト牧と故メラレ[illegible]ノ夢ヲ破ラレン丁歟回ゼラ知ラズ甚平ガ十[illegible]一可吹ヲアラ表ヲ尺ヘ一言色ヨリ辞カナタタタ夜ノ大ヘラ、アダカネ月ノ去号マデモヲコエハセヌカト思ハレル程[illegible]ヘ切ラタ倒ルダ[illegible]ガアラタ御可寝ラ[illegible]ヲ耳低ケテ居ルガ此名ヒ言ノ山スヒ[illegible]ト共ニ再ビクルカ眠ヒのヲ

二可十分ニ起床皆ノ起ラタ美白記ヲ作ル

主例ノ如ク同ナリ、サレド[illegible]ノ相当働ヲ居レ[illegible]金ノ身体ノ[illegible]

夜然回後ヨ性倫ヲ積ヒ十可吹氷ヲ喰ヒ[illegible]ヲ帰定後直ケヒ就床

發信

中[illegible]

受信

摘要

日曜	癸未	七月十七日	天氣 晴	寒暖

昨夜は眠れず眠とナイて、遂々とう眠る機械室ナカニ卯ケ一作る矢張り
宮神号を祈ケ祭るとる習慣、伊勢、関さん後備こつとゆケ
此時頃角丁ノ木下が来る、サイダーヲ出シタ、西松原の斎藤〜来ると同ク引イケ
来レトこつノデアル、此時昨晩ケ
今朝れと関ヶ原ガ講ケタ、ツル丸様ヲ移ケ乗れト何もいつもト大分遅ウノデ
関ヶ原電話ヲとヲヤルト主人ガ腹ヒ方来る、ヨク関ノ火特ト見ル仕ル
アル、然ケ先ケ番後デナイノデ先ケ角後ヒケ丸ケ丁ケ
南方ガ来ル七ケ所ノデ直段ヲ調ベケ丸ケ火ケ関ヶ原ノ方ガ高イケ
決判ヒケ遅ケヤケト百円ケ多ケ出ケ出ケ中ケ者ガ居ケ

發信	受信	摘要

月曜	甲申	七月十八日	天氣 晴	寒暖

御ノ時刻ニ遅ケ遅ケ御ノ時ニ遅ケ出ケ筆スベキ

發信	受信	摘要

火曜	乙酉	七月十九日	天氣 晴	寒暖

午前五時半起床洗面後例の如く蹲踞の上に本日から一番印機を使ふ

今日迄の陰鬱な日光を浴びたんだ後性の犯後セント欲し例の通

ス

今日は止メ油り求メタレバ之レリ、朝一「エビジン」中の既成品を塗レ

又クトリテ汚キ「ニワニワ」ナリ又クサカリ

夕食の後帰宅ス、妻ノ帰ルを待ち何故カト問フタト答ヘ所ちうしイ

某知ラズ来レリ昨日迄ハ皆病ヘリ起ル者ハ僅ニ来テ皆フ

タトハテサテ、ハ知ラズ帰ル立日ハ脊ノ強張ノ如クリナス

十二時迄ノ就眠ス

發信	受信	摘要

水曜	丙戌	七月二十日	天氣 晴	寒暖

出迎後帰ノ何事ヲ為サス

日本眠ラサル如ク習ヒタナス又ハ性偏ノ強ニ原因シ、フートバンブ

ノ為国旗迄ヲ中途ヲ居眠ラカケタノデ止メタ、バ少セカナ後ケと例ヘ

見ルト同迄ヲ居ル

夕食ノ後前ハ性偏ノ強ニ後外ヲ強ノ電燈稼ヒ為国ハ日本

迄今夜ノ制今涼シイ風ガ俄カニ窓カラ吹キ込ンデ大変好カ

ソレデモ汗ハ出タ、然シ之レ後イ一ヲハ何トモナイガ多ク数ダケハ一番困ル

ハンナ時地獄

發信	受信	摘要

蟲千や幕をふるへばさくらく花（北枝）

木曜	丁亥	七月二十一日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要
高延氏所ヶ逆ヶ續ヶ又今既完成ス割合ニ少ナカラズ然トスケテ居ル	モノモ大ブ出ルダロー	昼食ノ時ノ出ノトキ、スハキノ大キナ一ヲモフ食ヒタ為ニ薩ゲデル飯ヶ一ツ	ヨウ味エナカラタ而ロモ胃腸ヶノマネバナラナカラタ	夕食ノ後「アンドカイ」ノ映画ヲケスル分事終ル、ヲルヲ見ルヲ	「アイスクリーム」ヶ一ヶ	帰宅十分位	午後習字ヲナス

澤潟の太りすぎたる暑さかな（嵐雪）

金曜	戊子	七月二十二日	天氣	寒暖	發信	受信	摘要
今ヨリ以ヶ以四ノ日ノ出ヲ見ル為ニ逆ニ登ヶ三ヶ三ヶ三ヶ三ヶ三ヶ三ヶ	ヤ	今ヨリ朝ノ如ク五分前起床霊光堂後ヶ続ケ	御ノ如ク	午後ヶ三ヶ今ヶ終ヶ掃除ヲナス今ヶ小ヶ	後ヶ	寝ヶ逆ニ夕ヶ	夜ノ長キヿ

夏の雲なみ白鷺となりけり　（烏頂）

土曜	己丑	七月二十三日	天氣 晴	寒暖

午前七時半起床後直後洗面朝食ヲ済ス近所ヲ一巡トシテ
起ツテ居ナカツタ、立ツテ少シ歩ク歩行者ニ参詣「金ノ金」ベストヲ買フスツカリ
神ノ之レヲ相傳護ナサレタタコエ」ト御ノ通リ新ツテ居イタ　帰宅後弁当ヲ喫シ
井田ニ場ノ陸文ヲ妹ヲエト結ヲ友ヲ多ク俗ヲ俗ヲ何ヘ勤文書ヲ作リ居ル
ヒキヲ新聞ヲ見ヒヒ取ラニ来タ金ノ金ヲ芸ノ芳ノミ本トヒヲ来ル近一
新ヒヲ

七時半帰宅後ニ帰宅後ノ夜ノ来ノ外ヲ取リコトクリ京何ベ如何帳
ニ納ムヒ夫ノ雪ノ立ヒ近カ多、金ノ色ヲ一年ノ新年ヲ知ヒヲ喰フ
夕ノ後ノ味噌ヲ汁、多方畑ヘ勤難ニ多方ヒ心地ノ多ヒ帰宅後

發信	受信	摘要

夏草やつはものどものあとの夢　（蕉芭）

日曜	庚寅	七月二十四日	天氣 晴	寒暖

立ツ起床作ラ一服ノ和記ヲ書ク
午後第一ノ大ノ学ノ学ノ学ノ年
今日ノ主ノ四ト出ヒヲ実陸史遊ヲ先ノ主人トカヤヲ来テ色々試験ノ上、モ
二分前ヒ来ヲ、モ中ノ現ノ学ノ居ル後ヲ多ノ書ノ又相談スルトヒヲ
ヲ分レタ帰ケ学ノ学ノ学ノ国ノ方ヒ後カラ　金ヲ渡ヲ
デアル、デ、ヲ主ヒンシカヒヲ陸ケキヲ居ヲ方ノ多書陸ヒヤヲ
ヲ、キズガ現レタトノ一デアル、又ヒ多食後ケ学ヒ国
ヒ十分後ノ一丁儀俗ノ主ヒヒ人ケ年帰宅後ノ時ノ表ヲ渡ヒ十ノ紀

發信	受信	摘要

日韓協約成立す　（四十年）

○天神ノ神威大ナルカナ、余ノ少時表ニ落チタル紙車記解ス

畫寢さめて松風に胸のすいすいなかき　（吉保）

月曜	辛卯	七月二十五日	天氣	晴	寒暖

今日延林氏ノ招ニ応シ、午後ヨリ出ス。暑ハ比較的ニ軽シ。夕ニ入リ、雨ノ降リ出ス。暑ハ十二時一時以降ニ伸ビアル割合ニ少ナイガ、之ニ大ニ、コガ、又クロ、ブツクと又ケケ居ルノガアル筈デアル

昨ノクロ、ハイヨ、ハ、後用ニ遠ヒナイコトナル是ニ用ヒ一應帰ヘスコト

夕方ハ例ノ通リ少食ノ後ニ阪本ト後藤ニ行キ、暫リ時ヲクロ、今ハ吉田氏ノ書籍アル、金ハ戸次ヨリ後回ニ約束ノ十八円時ヲ合ヒ得テ、ハ時半ニ帰宅ス。今夜ノ電車ノ事故ワイハ大変ナルニテアル。

發信	受信	摘要

（年七卅）　我軍大石橋及營口過磐嶺を占領す

夏痩やや今朝さきそめし白木槿　（松隣）

火曜	壬辰	七月二十六日	天氣	晴	寒暖

立ハ起床、ハ時半ノ後ニ、ハ時半ノ後ニ、ハ時半ノ後ニ

七月　七日　夜　今日　明後日　返事　電報　来る　返信　カシワバ　ニレ　トチ

七月二十七日

水曜	癸巳	天氣 雨	寒暖

冬と振り雨降者と成

今日不斗外出ノ度者中ニかりりと撃く男迄吸壹ヶ後何國旅之新ヒとり

アラタ之ヒテ今ヒ思ヒアタラ共迄今ヲ實ト見るハ完ク國ノ習慣ヲアル

ノタツコヲ来月一日ノ最期ノ日ヲ見ヒメラ見るイト思フタ、何ヒヒ資金ノ

ナキ今ノ勢ヲ以テ為ン奇事如何ヲ為ン為ンカナイ事デアル

アヽ奇怪迄カナ而シテ此辺ヲ者ヒレバ既来ノ事ヒ研究室ノ移ヲ者ヒ

遊歩ヒテアンノ見ン実ヒタコロナイツコヲ今ノ一時金策ヒテ之シヲ以テ

佛国ヒ移ル。タトエ男働キヲンヒ迄ヒモ者ヒ日地ノ勝ル職業校ノ移ヲ見ヒ

練習ヒるイヒノト思ヒ様ベタツコヲ旅費ナドヲ一ツ御給金北ヘヲモ合セテ見

愛信　受信　摘要

七月二十八日

木曜	甲午	天氣 晴	寒暖

立ち迄来ノ通リ表ノ場ヒ来ル風ヒ吹ヒナガラ船ヲ機ノ研究ヲヤン之シ裏ヒ

金ノ一日中表ヒ格闘ノ時ナリ

日中金時タコトヒ〳〵ヲ「東郷発明実ト富豪ヒ強ヒリ書ヲノヒ、巻ヒヒヒタ」ヲハ金ガ

船ヲ機研究ヒ強シ力ヒバカンヒ為ノ裏新機ヒスル月ヒヲ迄ヲヒヒナイ形

クノ中ノ日研究上発達ヲ遅延ヒヒムン事出来ヒ大ヒンガ故大分他ヒモヲ

様ノ人々アルベト感ヒタンヒノ何シヘカ故ヒ等ヒト思ヒフイタ為メデアル

夜八時半近夜来

ヒ人ノ八時ヒ寝迄ヘヲノヒ出ヒレタ

十時就床前今ノ年期ガ大分夜業ヲサリ居ヲノデ半ヲ十五銭位ヲ迄ヒヒヒ

七月　実ノ金ヒ外出ヲ止イタカヲカラ

因ヒ時間ヒヒ考ヲ早ノ寝ヲ為ノ今ノ少ヒヒ重眠ヒヲ憶ヒナカラ

さささらと秋立つ軒の木賊かな　（祐昌）

金曜	乙未	七月二十九日	天氣	寒暖
立秋延長御ノ発ノ機械性ヲ有スル御ベ後就業				
八時時ヲ作ノ終キニ等リテ午後ヤウトカ東上ガラ、ヤウ庶				
ルカ少シ弱帰リ懸ラカサ等リ遅ラトモ知レヌ恢復アルモノ				
ツテ完タカル先ハ結ビクナラ、而シテ之ナ対ノ暇ヲ付ケ知ラヌ百ニ遅ヤ				
ナ社長ヲ報				
夜八時半近夜業後ナ不性偏ノ復ム十分知暇				

發信	受信	摘要

樺太占領に付勅語下賜（廿八年）

このあたりが秋になるとひぐらしがなく（亨葵）

土曜	丙申	七月三十日	天氣	寒暖
立日延長御ノ発ノ機械性ヲ有スル御ベ後就業				
ルベカラズ				
午前中ハ作ノ上ケタルノ行正増補ニテ全部ヲ整ノ内ニ納ム				
午後ハ有マニ於ケル得動定リナス、ムルニ益ニ頃四ヨリ				
ル中ニテ長ヒタルモノアリトニ通ニ書カカリト余ノ多帳モ年月ノ記ナ				
カリトヨリ大調査ヲナシテ当分ハ整ハセズ此ノ得ズ塗ニ清ル通リトナス				
而シテ全ク余一人ノ責任ニアルノ以テ余ニ之ノ責ナクガルベカラズ				
（主人ハ有トモ）タ之ニ即定ノ通ノ手主ニ又ノ比ベ今ノ前方				
ノ通ヒナリモ夜ハ月ハ半近月得稍ノ多後ノ整理ス、後ナ表ニ				

發信	受信	摘要

日露新協約を発表す（四十年）大阪大火二萬戸焼失（四十二年）

七月　主人ノ書ト納家ニ付テ一人ノ果ニ付テ二人ノ九而ニ付テ後後
余ノ元国戸ノ家ノ不ニ兼コ、テイ半スベカラズトモ云フ三アリ

日曜	丁酉	七月三十一日	天氣	寒暖

立秋

[illegible]

今年後後[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

受信

受信

[illegible]

八月

（陰暦七月節）立秋　（陰暦七月中の節）處暑

八月行事

立秋の日（上旬）より始めて秋なり○二百十日は立春より數へて第二百十日目の日にて、農家にて大厄日とす○炎暑の月なれば諸處の瀧繁昌す○東京にては二十五日龜井戸天神、二十八日深川八幡の祭日とす○秋の千草咲き初む

節物時令

立秋○初秋○秋風○殘暑○稻妻○初嵐○秋草○秋七草○蓮○銀河○花火○早稻○秋暑○秋蟬○秋の螢○二百十日○鈴蟲○松蟲○花野○秋の野○秋の千草○花すゝき○西瓜○眞桑瓜○初たけ○秋狩○秋の空○秋の雲○秋の聲○秋の鐘○下り鮎○さび鮎○初紅葉○芙蓉○露

食品月令

鮭腹子○海鼠○さはら○いなだ○薯蕷○なた豆○しめじ茸○西瓜○まくわ瓜

諸國祭禮

| | | |

荒海や佐渡に横ふ天の川　（芭蕉）

月曜	戊戌	八月一日	天氣 晴	寒暖
側割延林道面後獻燈ニ付事ヲ聞ク細ハ一角一ノ上ニ人ノ代リヲ来ル分ナス意ヲ意イデ之ヲ付ケ其上ニ人ヲ出ス				發信
其ヲ作ル仕之ノ下ヲ持ツ中ニ来ル人ト之ヲ出ス、金ヲ出ス、身体ヲ付ケル				受信
不用ノ書物ヲ取リマトメ其イタヲ中ニ捨ル、先ツ之ヲ送ル為ニ電車ニ				摘要
乗ル後ハ之ヲ家ヲ出ル即チ居ル処ヲ書イタノ中ヲ見テ下ヲ見ルト思フ				
所ニ女婦ヲ大勝除ヲ下ル、ヲ金ヲ出ス高ハ筋ヲ、先ヲ下ル下ヲ階ニ帰				
之ヲ、後ヲ対ヲ出ヲ下ヲ入ル後ヲ居、先ヲ来ル帰之ノ道ヲ知リ道次道				
姫姫ヲ洋食リ喰ヲ十分十分帰ル、身体ヲ水ヲ洗ヲ床ヲ付イタ				
其ヲ明レナイ程ヲ知リ道ヘヲ下ル数十回ヲ出ヲ何ヲ下ヲ家ヲ				
ろし				

木に倚れば枝葉まばらに星月夜　（子規）

火曜	己亥	八月二日	天氣 晴	寒暖
五時迄林分新宮吹ノ草車ヲ割ヲ等レトヲヲ居ル人（横江ノ表）カ				發信
先方ノ人（モクリヲ金）ヲフレヲ				受信
ヤヲヲ来ヲ吹ヲ手後ヲ合迄ヲ知ル比ヲ上ヲ等レヲ、ヤヲヲヲヲヲ居ヲ来ヲ				摘要
之人ヲヲ来ヲ来ヲ来ヲ、旧知ヲヲヲヲヲ後ヲハヲヲ色々ヲヲヲ来ヲ				
弾丸ヲヲ白的貨後迄ヲヲ久後四旗ヲ洗ヲ、ヲ自的代ヲヲ来ヲ人ヲ献ヲ色ヲヲ				
午後ヲ文ヲヲフレヲ合ヲ人ヲヲ来ヲヲヲ吹迄ヲヲヲヲ居ヲ				
ヲヲ来ヲ後ヲ後ヲヲヲヲヲヲヲヲヲ迄ヲヲヲヲヲヲヲヲ				
ウストヲヲトヲヲヲヲヲヲヲヲ七時院ヲ五ヲヲヲヲヲヲヲヲヲ

水曜	庚子	八月三日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要
如何起床「第陸」の続き 昨夕、車車に乗りて「ラ、ソレト」を見るとが交ゝ々々語ナ遂ケテ床 夕刻と云ふ出て、高橋著ハナカラ、今夜之レ徹夜サスフ、ニレタ 其後、先生ト月夜ヘと、緑陰書ヲ一ヲ畫ク。先生ハ近ク来来 ノ、想像畫トシテ、李良原戎艦ノ機、飛揚セン様ヲ描ク。他畫的ニ畫ク。 自定「ハ、ジャ」ヲ踊ラ、事ヲ、ヒ、ノ、ゲ道節ヲ畫イテヤ、ヲ 十一時就床							

韓國改元し隆熙と稱す（四十年）　我軍海城及牛莊を占領す（廿七年）

木曜	辛丑	八月四日	天氣 曇ノ	寒暖	發信	受信	摘要
朝ニ、ヨリ、一寸ニ降ラ、ル。過ヲ、ニト、蒸ノ、収ル。ヒ、ヒ、ヒ、

金曜　壬寅　八月五日　天氣　晴　寒暖

今日ハ帰陣ガアルカモシレナイト思ッテ通常ニ遅クマデ全ク予後ノ押入シリ一ツ方付ケテ了ッタ夫ノ手ハ後ノゴシヤ〳〵ヲ清水重信ト共ニ書ノ借言報リ整理シテ了ッタ夕方ノ引出シヲ掃除シタ

夜ハ牲鍋ヲ経ヒ又神楽ヲ考ヘテ親ハ八時半終業後帰宅シタ場ニ居ル間ニ新聞ヲ見テ返信用ノ絵葉書ヲ作ッテ見ル外ニ何ヲ書クカ考ヘル日場ノ二階カラ絵葉ト延蔵カラ見テ下サイト言フ嬢ノ様ヲ呼ンデ〳〵ト新イテ居ル帰宅後表匠画的ニ絵ヲ描キ又ソレニ外絵ヲ重絵待ッ者ニ新ト迷ヲ同ジ日様ノ二ヲ義弁ヘモ出ル

信受　同京意ヲ寄

信發

摘要

土曜　癸卯　八月六日　天氣　寒暖

今日ハ出張ノ為ニ嬢ニ Note ヲ Record ト命名シテ印刷ノ様ニ寄贈シ書キ了ヤ了

此度迄ハ大谷君ガ来テ翻訳モノガ出来テ来タト知ラセ呉レタ

例ノ如ク四年ニ「飛ス機」通解ヲ持ッテ来タ、多ク今後ノ役ニ立ツ、後ニ又ソレニ機ノ構成材料ガ其他大分有益ナ事ガ書ケテ居ル、前ノ様ニ「飛ス機」説ハ後ニ特集ト題シテ廣優ノ内容ハ充分満足スベキモノデアル、夜ハ四年終業後ノ仕度ヲ、又ハ振ラヌ先生ニ雪ヒヲ翻訳物ヲ貰ッテ見タ、帰途大谷君ト例ノ意ヲ表ス為ノ絵ハ高ク有ル

ガ、合鍵ヲ不在デアル事ヲ代言ニ渡ス井上河北君ノ二氏ガ、清酒一

信發　同京意ヲ寄

信受

摘要

八　月　完結コヲ、新詩科理ノ出来節ナド、コレガ了ッタ夕二二七所ヲ最初ノ合ヲ又歌ヲ歌ヲ、全ク一ツノ文ノ書ノ傷感ニ為ル文ヲトシタ了ガ了ルト思フト、ソノトシテ資治ノ様ヲ簡単ニ終ル、ソシテ大谷君ニ伝言ヲ頼シテ

日曜　甲辰　八月七日　天氣　雨　寒暖

[illegible]

午後ヨリ空晴ル　[illegible]雨ハ強カラネド雷鳴スカラ半[illegible]

歌ト俳句ヲ渡ト居タラシカ不半日ヲ特ビ何ヲモ捲ンデモナラ「ボンヤリ」ト

ヒタト頭ニ色々ナリヲ思ヒ出シタリ其ヲ中ヤ今ノ文人ノ性格カラ次第ニ[illegible]ト前

ノ文人共ノ[illegible]ヒ[illegible]ヒ今ノ共ヲ何レ[illegible]ヲ[illegible]ノ[illegible]ヒ[illegible]ヒ[illegible]ヒ

日曜　甲辰　八月七日　天氣　雨　寒暖

發信

受信

摘要

第一軍に勅語を賜ふ（廿七年）

月曜　乙巳　八月八日　天氣　日暮ノ　寒暖

發信

受信

摘要

見る影やまだ片形も宵月夜　（蕉　芭）

寒暖	天氣	八月九日	丙午	火曜
發信	曇り			今日迄休「お敷ト俳句」ノ稿ヲ終ル之レデ「お敷トエフ」ニツイテ 〃サト分カンコトナラン成程何ニデモヤラウ思レバ無味ノナイモノトテハ一ツモナイキノデアル
受信				夕夜業終ツテ主人ノ外国ヨリ来ル国ヨリ角一位文ノ「ミキカーロール」ノ勝ノ連動機デ今現ニ使用シツヽアル新案ノ模型デアル後チ考慮ノ上ヲ
摘要				十時半就床

曇月やひとの夜の松の梢より　（萬、蘭）

寒暖	天氣	八月十日	丁未	水曜
發信	曇			今日ニテ今迄休電気學ノ學ブ、後チ昨晩 The cycle & motor trades Review ヲ見テ居ト不図 Heavy Oil Carburetter トモフカ目ニ触ルルデ此ヲ翻訳シテ書ツタ中ニ口語化ノ変ハトアルコトヲ意味ガ分カラヌイノデ特ニ(図ト)首引デ半バハ判ル迄ニ翻訳シテ見ルトヅツリ丸助発生機ノ一ツデアウカ、下ル重点カヽツタ多倫寺ヨリ電話デ呼ブ之ニ応ジテ見ル迄ヲ人ガ雛型ヲサウレバ其ノ如キモノトカ、ソレデ出来上ガツタノヲ見テ此ヲ比較スレバ一円ノ値ノアル、マーマーシカラハ此御ふでやんノ夜ハ十時半終業後直チニ帰宅中ヘヲ流レテ居ツトナカトダンダント見ルト中々ヘヤントモ来テ呼ラ見ガ来クトモツテ居タ下ル其変ニ筆ガ記ル事ヲ

八月ノデ以駅迄ヲ行ク時ハ雨ノ降ル中ヲ二三一ノ時ハ雪ノ降ル中ヲ帰宅ヲ迄ヲ行ク時ハ十分ニ注意シテ歩ク

木曜	戊申	八月十一日	天氣 快晴	寒暖	發信	受信	摘要

えこ張りで輕快ナ味ノ方ノ色ガ元々タ百ニナリ太陽ノ赤々ト照リタ

飛ノ成 Record ヲ作ル

今年ハ[illegible]又今一種ノ爆發ヲ機ノ翻訳ヲ試ミタ今ノ[illegible]

ニ信程アルカハ[illegible]

後ニ整備部隊ヲ整理セラレ後ヘ先ノ中ニ入ル[illegible]

今ノ重ニシテ二ヲ考カラ先ニ止メテ居ル[illegible]ノ外ガ、調整デ[illegible]

制ニ[illegible]ニ線狀ニ[illegible]レ[illegible]ル[illegible]ト、[illegible]

作年某外国ノカタヒガ[illegible]見ル[illegible]ノ先ニ車ヲ[illegible]ケテ四輪サス

ヤウヲ作ル[illegible]ガ[illegible]嘉ル[illegible]今[illegible]一方デ[illegible]ク週ワスト付ノ[illegible]

○国ノ[illegible]ナ[illegible]ニ[illegible]ガ[illegible]ヤ[illegible]ト同ジ方向ニ週[illegible]ル[illegible]ガ[illegible]アル[illegible]コデ今ノ一つニ[illegible]

[illegible]ヲ[illegible]ロート[illegible]ヲ[illegible]ト[illegible]ト中ニ面白イ結果ガ[illegible]

二三三

金曜	己酉	八月十二日	天氣 雨	寒暖	發信	受信	摘要

[illegible]ノ機ノ研究ヲヤセートシテモ一向ニ[illegible]ガ[illegible]ヲ[illegible]ト[illegible]

ノ[illegible]ノ中デ[illegible]ト行ニヤウガ[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]ガ一番[illegible]ニ[illegible]

爆發式飛ノ機ノ[illegible]ニ及ビ今ノ先物機[illegible]ヲ[illegible]ヘ進ラト[illegible]ニ百馬力ノ

發動機ナラバ一回ニ[illegible]ヲ[illegible]ガ一分ニ4回[illegible]ト[illegible]ノ爆發トナル

[illegible]ニ[illegible]ノ爆發ニ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ガ[illegible]

アル[illegible]シ[illegible]ニ[illegible]ニ百馬力ト[illegible]ノ[illegible]ガ[illegible]ノ[illegible]ニ百馬力アルモノデ

アロートモ[illegible]ガ一回ニ[illegible]今ノ後ニ[illegible]ニ[illegible]ノ力アルモノトシテ

ナラバ一回ニ[illegible]ヲ[illegible]ニ百馬力ノ物[illegible]トナル[illegible]ヲ[illegible]ヘ[illegible]ノ

後ニ[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]ヲ他ニ引ケルルトシテ百馬力ナラバ一回爆發毎ニ千[illegible]ノモノ

八月三十日ニ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

土曜　庚戌　八月十三日　天氣 曇　寒暖

公子絵ヲ作ル樣ナリトテ空地ニフケ出リ待ル事ナシ

夜主人ノ妻国ヨリ来ル後説ヲ多ク

午後妙好徳ヲ参村ノ煙草ガ吸ヒタイトテ来ル

夕方ニ成テ旅ヲ出ル人ノ為ニ送リ出ル

ツレテ炊煙ノ味ヲ重ジテ来ル

所ノ丸ト云ヘ遠慮ガ仕ル者ヲ食セシメル

ナイヲ見ヲ見ル角ガ生ル程ニ強ンテ帰ル

用ヲ見ル者ガ難ヲ見ル

午後七時箕面ノ方ガ雨ガ降ル

受信

摘要

日曜　辛亥　八月十四日　天氣 晴　寒暖

暑ク続キテ困ル時ニ海辺ニ来ル所ヲ見ル所ヲ来ル事ヲ

合ヒテ其一部ノ大雨ガ降ル時ニ於テ大雨ガ一尺余ニ及ビタリト

ナリタル外ニ見ル事ノ続クトヲ十一日ノ朝ヲ切ル雨ガ減水ノ

見込ナキ由ソレニ引返ス間ノ地方ノ雨降ル今ニ至ル五ヶ所ノ

雨ヲ降ラセタリ。ソレガ余ラ引き返ス事ニ成リ

今ヨリ迂廻ヨリ帰ル

夜中ノ急ガ知ル人ガ来テ主人ノ病ヲ下リドードート後ル

ヨリ見ル金ヲ引ク。或ル所ニ於テ学者ニ工成ル所ト思ワセル

今ノ煙草ノ点ヲ点ル丸ニ残ル

受信

摘要

月曜	壬子	八月十五日	天氣 晴	寒暖
例刻起床				發信
洗面食事				
出勤				受信
夜ハ電燈ヲ点ス				
十時就寝				摘要

（年二十四）

近江美濃大地震あり

火曜	癸丑	八月十六日	天氣 晴	寒暖
今朝ハ涼シク				發信
身体ノ				
一週ノ				受信
帰宅直チニ				
軍使山岡少佐聖旨及勧降書を敵將に傳ふ				摘要

（年七卅）

秋涼し二十六夜の月の色（霜　峨）

水曜	甲寅	八月十七日	天氣 雨	寒暖

多四ノ方ニテ七時半ヤウト承リタガ後面ノ方ニ食ヲ草ノ中ハナカ〳〵ニ
ウマイ後ヤ花鳥等ノ種ヲ十二時ヨリ空模様悪シ来ル遠雷
ガスコシトビロキ始リ少シ〳〵距離ハ近ヅキテ遠ニ南降リシキリテ後チニ
ヤ降リトナリ　金ノ夕食後チ本屋ニ菓子ヲ持ツテ帰所ノ近ニツク
今後ハ手ヲ引ク紙略ス

發信	受信	要摘

源頼朝兵を伊豆に起す（治承四年）

物干や火の見や廿六夜待（小　波）

木曜	乙卯	八月十八日	天氣 晴	寒暖

紙ヲ〳〵ハ〳〵ノ傷ノ説ヲ着手ス今後ノ先ヲ駕面ノ大ヲフト機体ノ要
面図ヨリ取ニ書ク多ク後チ金ガ石在中ノ帳簿ヲ書上ル
ノ中ノ少ニ見ル〳〵ノ十サ
夜ハ記ヲ書ク
夕飯ハ半紙略

發信	受信	要摘

（臺・曉）　むしろやや門で髪結ふ盆の月

金曜	丙辰	八月十九日	天氣	快晴	寒暖

立秋を迎へ今年の機体の正面の畫を終へ撰ぶ結ひ方の研究又

ちの角一つづつションクラツケの雛型を某週と型ツイケたる行んみ

ゆり

今年新年の坊ちゃん帽の新型畫が出るとの噂が飛交すれば

畫き下と風流な出籠の置や窓の廻り先づ月の真実ヒケ

之レといそくと佛道でゆるくらくと畫きそくたつひとを中を母様見へ

も畫を畫で肅然ん作とろりとも濤き慌しうそ立て立しも

「月の中清き流れの中の月」と畫とを此新投函入れることを

丸ぬ年記明

發信	受信	摘要
	義本基様様	

（年六）　始て銀行紙幣を發行す　（元年）　榎本武揚等品川を脱す

（角　其）　はらゝ子が千々に碎くや後の月

土曜	丁巳	八月二十日	天氣	快晴	寒暖

今年も迎春準備の繃帯の研究又

沙田ゴラは畫から角一つづつ車り吹りのとるがドーとタ門前見つ帰ひか

ら流と迎へ一つ多ゲかドーとタ流し迎へ十月用りから比為るり

ゲトードー形板ノ々ノ々ベケとテ比年了え ノ為ナかに方ノ十ら特

ゲ方坊カニトラ人見ヒ行ラつヒデと時間ー天新機実ラ見用

七方カニハドーヤラ天新機実ノ研究ヲヒテ居ヒラ夜八時半迄夜業

終業後帰宅風呂ヒ入ん帰新今ラノ外ラ後ヒ十時迄ヤ新明又

發信	受信	摘要
義本基様様 中ヒ丑様様		

（年七卅）　千歳對馬の二艦敵艦を樺太に撃破す

日曜　戊午　八月二十一日　晴　天氣　寒暖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

稲妻に見付けらるゝな若白髪（尋風）

火曜	庚申	八月二十三日	天氣	寒暖
			晴	

今朝スタンプ多数ニ多ノモ十五日以来ノ空襲ノ為メ甚ダ少キニ止マラズ、全ク逆ニ彼ノ捕ト為ル多、彼ヤ定メシカラ快活ニイ外交官ガ来訪シ、ムシイ様ニ話シ、全ク腹言ヨリ有ラザルモノ、彼ノ日々表ヲ通ル、全ク能ク見ツムレハ、彼ノ咎ズ、ニヲミカヤス、ツーソニ帝廣ヲ、ちと全ク独家者ノ代表ノ晴ヲ、未度ヲ前迄ヲ、ちと時、時ヲシカ不ノ通シ多ル彼ノ之ニ全ク多彼ノ余ノ殺リ眺ムノ多ケ多ル全ハ見タラト思ヒツヽ、ヲ殺ノ何カ、オカセル驚リ問ウン、カノキヘ地ヒヲ空ヲ見ナガラ、スレ逆カラ多、ア、何故ニ全ノ引ク情振ムカ

彼ノ之ヲト考ヘ天快決ラヒキ彼ノヲコヒシヤイワケニヲカナイ、アヽ

飯時や戸口も秋の夕日影（樗良）

水曜	辛酉	八月二十四日	天氣	寒暖
			晴	

空襲ヲ又空襲ノ今日ニナル迄ハ、迎ヒ夜業後、久シ振リデ先国ヲ、

十一時終ヲテ就床ス

老鐵山沖にて敵の驅逐艦機械水雷に罹る（卅七年）

木曜　壬戌　八月二十五日　天氣　晴　寒暖

土匂起床今朝より再び研究の問題として今日より正面各部ノ突
圍ヲナス
夜八時半終業後直チニ帰宅セシ列ニ用ヒハナカリシノガ小遣ニ
セマシノト一ツ茸ガ吸タクテタマラナクナリシノデアリシガソレヲ
見ニアリシ茸ニ水ト創ニ茸ガ生ヒシノトヲ皆ヲ上ゲテ後ヲ
砂糖漬ノ茸ガ「ドロンク」セシノ心地ヲサイヤラマカリシ
アレ余ラマシカモ考ヘアル

受信　摘要

金曜　癸亥　八月二十六日　天氣　晴　寒暖

今朝七時半終業後位置ヘ行ク列ニ入リ考ヘシ
デ之ニ四中ヘ寄リ機械設計及ビ図ノ編ノ変ヘ、新ニ見ル
ベキ油機ヲト識ヲ論トリ注文セヲ帰ル、帰途彼女ノ表ノ通ル彼女
ノ携ヘルヲ今一人母ニトキト法ノ一ツヲ氏ヲ彼女ノ余リ嬉ノ余リ
得不見ニ帰ル

受信　摘要

二色の絵の具に足るや秋の雲　（召波）

土曜	甲子	八月二十七日	天氣	寒暖
作戦ノ本ノ終ノ為ノ後ノ久シ振リデ英国ノヤウ、ソーセイ後ノ[illegible]ノ[illegible]ニ対シテ[illegible]ノ[illegible]ノ為ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]

夜半後雨ヤミ月見十一日新月

秋雨や水底の草の踏みたわむ　蕪村

月曜　丙寅　八月二十九日　天氣　晴　寒暖

今日ハ昨日ノ事ヲ、見物ニ石油機買ヲ送ル

今年ハ例ノガニ比ベ某ヲ千五百金年某ノ年ノ向ニ比ベイヨ〳〵鮮快

ガツイタ今日ハ備金ノ役員改選者ノ方ヘ出ル芋掘ノ方ヘ行ク

青年会ノ士ノ役地ト昨夜ノ医日ハ八十年ニ十年ニ五十年ヲ

後ヲ今ノ家田、宅地ノ後ヲ加ヘテ一ツ一金ヲ地ノ設ヲ

為ル身ガ元ヨリ一ツ長ト人ノ目ニフレザル者望ナル事ヲ見ル

テ大ニ踏動ヲ見ルベキ秋デアル

甚ダ後悔ハ又ヲクロスヘデノ、ベケリ搭ヲ

イヨ〳〵外ヲヒヤリ出ヲ見ル

信受　摘要　贈信

秋風や酒肆に詩歌ふ漁者樵者　蕪村

火曜　丁卯　八月三十日　天氣　晴　寒暖

記ル事ナシ

信受　摘要　贈信

九月

白露（陰暦八月節）　秋分（陰暦八月中の節）

九月行事

秋分の日（廿四日）秋季皇靈祭を行はる、次第春季祭に同じ○秋の彼岸、亦春の彼岸に同じ○十五日神田祭禮は日枝祭と隔年にて東京の二大祭たり○十五夜の觀月は此月の下旬陰暦八月十五夜なり

節物時令

秋扇○置扇○霧○木槿○蟲○秋蟲○蟲聲○蜻蛉○秋蝶○萩○桔梗○女郎花○かる萱○われもかう○藤袴○すゝき○葛の花○稲刈○秋分○秋季祭○後の彼岸○月○秋月○名月○明月○中秋○望月○觀月○月夜○尾花○桐一葉○砧○案山子○鳴子○引板○落し水○秋山○鮭○野分○朝寒○夜寒○新米○新稗○新蕎麥○初雁○渡り鳥○秋海棠○蔦

食品月令

ぼら○かじき○生鮭○かます○木茸○慈姑○蓮根○桃○梨子○棗○銀杏○くるみ○葡萄

諸國祭禮

| | | |

木曜	己巳	九月一日	天氣	寒暖
立冬				

（年七卅）我左翼軍首山堡を占領す

金曜	庚午	九月二日	天氣	寒暖
立冬				

（年七卅）我中央軍東八里及西八里を占領す

在一日万行機会得り捷し腐レもん心ヲ活メントカシフレドもしりハ無至ラりき、電報ニ金ウオリヒ又ガレバ九ヨリ表ヒそーそーヒ方ノ終書ヲ方近心ヲ発ケタヒトシ又ヲ、彼ノ側ノ想ヒヒヒト不ス帰人ト行又ハ九カラ月キヌ、又ヒ思ヒ彼ヒノ上ヒ走リスアハ、今ヲ方終ヲスダエ

二五六ヲナヲ深ヒ入リヌ

土曜	辛未	九月三日	天氣 晴	寒暖

見ノ解ヨリ又金ノ時ヒヒヒツトヲサシ延ヒヲ車窓ヲ眺スレバ雲形雲帆ヒ紅ナリタドケヒハ不延ヒ時ヒ後ヒ乗ヒ彼機ヒ書ヲ積ム後ヲ断ヒヒヒ活ノヲレタル往来ヒヒヲ不国ヲ望ムヒ思ヲ彼ノ姿ノヒヒエヒ、タヒヲカケヒル、カヒヒヒ身ヒ行ヒ活ヒヒヒト行ヒヒ活動ヒヒヒル、

金ノ再ヒヒヒ思ヒヲ考ヒヒヒヒ

ノ夏ヒ別ヒヲイ

今ヒ、彼ノ載ヒヒヒヒ表ヲ通ヒヲ金ノ或ヒハ聊ヒ彼ノ捷ヒヒヒヒヒ或ヒハ

ヲヒ帳ノ懸ヲ引ヒヒヒ或ヒハ時ヒヒ行ヒヲ或ヒハ行ヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

ヲソヒヲ今ノ彼ノ人ノ事ヲ少ヒヒ思ヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

月曜	癸酉	九月五日	天氣	寒暖
上野延遅天古時し			晴	
昨夜後藤新平氏ノ病ヲ傳ヘル事ヲ聞ク腦ニ入レ腦ニ心地悪シ、樂ニ今日ハ				
四ツ題ニ書ヲナケレバ夢ニ夏氣題ノ少シモ之ノ用事ノ方ヲ				
ケタリ				
昨サレハ主ノ小納ヘ御金ヲ送ラレタカ、ダメデアツタ、之カライン				
ヲレルトヲ極リ付ケテ事ナイナドハ、如何ニ之場ナドデ、ハセツイテ居				
ヲ昨サレヲ、夢ヲ〳〵死レタイト思ヒ				
夜ハ半夜妻絲ヲ呼ヲ告カンヤ、一寸外國ヲナシ、後ヲ夕食ヲ足リ				
御ツヘリ更新ヘ出ル井ト其ノ昨ツヲ帰ル再ニ孰ニ初ニ職ヲ御				

發信	受信	摘要
		夕後ニ十時半

火曜	甲戌	九月六日	天氣	寒暖
昨夜暑ヲ堪ヘカネノ蚊張ノ外ニ寝ヲ取レ夜蚊ニ攻メラレ、ヲ			曇ヲ	
シキリ、孟ニ出ル行ヲ上野延遅天古時ニ				
日中御ノ知ヲ時ニ坊ヲ行ヲ研究ヲナス				
夜後ニ後ヲ時ニ用ヲナニ今ノ欲ノ御ニ早時ス				

發信	受信	摘要

初露や猪の臥す芝の起上り（去來）

水曜	乙亥	九月七日	天氣 雨	寒暖
立秋				

朝ノ内ハ雨降リ後ハ晴天ニナル
夜ノ内ハ降リ後ハ雨ニナリ夕方ニ帰宅ス電車ノ帰ル時雨ニ止ンデ居タ、是レ程ノ大雨ニ電車内ニテ先ト逢ヒ共ニ帰ル、ヒヤフ、サン文
腰屋ノ下駄ヲ取リ出シ橋ヘ立チ帰宅ス
八ツ頃父ガ宅ヲ出ル後地ガ空イタカ思イトカゴタ〳〵云ヒ乎フテ居タ、サテイヤナコトデアル今ノ定リタル中、ビヨー淺ニマヂラレテ帰レデ居ルモノ、ケンカシナヤレトカ捨テテ帰ツタ
夕方帰ル後今日ノ瓦斯ノ電気ノ制ガ取リ後習ヲナ
ナ一日終ル

發信	受信	摘要

露霜や一畝青き蕎麥畑（野橋）

木曜	丙子	九月八日	天氣 雨	寒暖
立秋				

立秋ヲ迎ヘ今日ノ天候ハ雨降リ後ハ一寸晴ルカト思ヒ居タ
夕方ニ成リ雨ハ降リ出シ夜ニ入リテ又雨ヲ降ラシ
夜ノ内ハ降リ後ハ雨ニ成リ夕方ニ成リテ又雨ヲ降ラシ
雨ガ降ラナイ為ノ為ニ
午後五時ヲ過ギテ紅茶ヲ飲ミ食事ヲ済ス
電気ノ燈ヲ間ヲ置キ方ニ依リ点スルト同下町ニ貸
シテアルトノ事デアル
夕方ニ成リ秋風ノ吹ク中ニ多ク過ギル
夜ニ成リ長ク用事ノ為ニ
生ニ成ル事ノ先ノ用事ノ為ニ晴ノ少ナイ事デ書ナド
夜雨ノ中ヲ

發信	受信	摘要

金曜	丁丑	九月九日	天氣 雨	寒暖	發信	受信	摘要
今日は絵の陰鞍ナカデアツタ所表ノ方ケタ対林ヒイ・雨ハヒトトくト降ラ降ヤラくト降ル・大きハモー秋デアツタ、後見物撮影ヲ後ノ方ハ、今ハ別ニ寒カヒイトモウデモナイカ此ヒエくが続ク場デ、ウルくヒヤ降ヒレンデ、マヒカラ市ヲ見テ居ヒ決ケヒヒ ヌロナイノデ勝負論ハ遠ヒヒヒヒヒ・夜ヒ時ヒ多数撮影ヲ後ヒデ十時ヒ近ク就床ヒヒ			

土曜	戊寅	九月十日	天氣 雲	寒暖	發信	受信	摘要
今ッカ月カ・カラツメノ家ヒ移リヒヒヒヒヒ

日曜	己卯	九月十一日	天氣 曇	寒暖

[illegible]トロノ光リ仰ガルカ如キ其自然ニ生リ又美ツ[illegible]其ノ今[illegible]ノ側ノ機[illegible]書リ中ノ自動車ノ鄰リ[illegible]

夜ハ[illegible]経来後数琴ニ[illegible]帰途、[illegible]菓ヲ一[illegible]求メテ帰ル後ハ、自動車發動機ノ後ヲ十一時[illegible]ノ上経リ[illegible]ヲ[illegible]ル記ス

作ノ石[illegible]表ヘ出金[illegible]ニ従ヘ[illegible]金ヲ[illegible]ノ刻ニ何ヒトナカラカ

今ノ又後ハ[illegible]金ノ[illegible]ヲ見リ表リ面ヲ、午後金ノ[illegible]先[illegible]ニ[illegible]

ベリ電車停留場迄ノ道[illegible]ヘ[illegible]ノ表リ面ヲ[illegible]ヘ[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]

夜又[illegible]中石[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

發信	受信	摘要

月曜	庚辰	九月十二日	天氣 曇	寒暖

[illegible]ハ[illegible]ヲ例ノ用ヒ法[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

火曜	辛巳	九月十三日	天氣	寒暖
例之伝つて例の如く夜又或スルヿなく早朝ス	冷気強し		曇	

發信

受信

摘要

水曜	壬午	九月十四日	天氣	寒暖
今年の寒ッテナカラカ何ニモ物ニ感ジタレタ線ニ触レタ如ク雨ヲ一ツ感ジナイ様ニモ夜後動モ終ル後帰宅ス帰ルサト今又来リヨク遠ツトテ申ス事アリ然ト金ノ思ハ出ダハ発ニ成ルヤ分ラン金銭倹約ニテ成ルノデアルガ之ニ伴ハ七月ノ多事ノ費ノ内其儀分リ宅ヘ持テ帰ルナレトモ云フヿハ当分出来ザルヿデアリナイ金ハ今当修業中デアル研究中デアルカシ毎月ニ不足ヿ感ジガ残ルナドハ決シテ出ナイノデアル、然ト雖ク考ヘテ見ルト帰ノ言葉ニ又一理デ決シテソレハ無理トハ思ハナイ、ソハ今年入ツテ金ノ名ヲ成ヘテ多ク浴服	雨		

發信

受信

摘要

九月ノ作ヲ之レ外ケデ大分金ガ懸カ、テ二六七成ルカラデアル当此後ハ成分ハ金ノ欲望ノ抑圧スル

木曜	癸未	九月十五日	天氣 曇	寒暖

長い方法をとると雨を何かう始めて今朝は多い雲がユラ〳〵と

家の室に初エテ〳〵る

午前中傘屋車ノ指ヲ引キ出シ食後電ヲ掛ケテ見テ

居ルモ未ダ此方ニ居タ例ニ反止ノ方法ヲアカラ性ガ全ク

著ヒク感ジノハ居ル内ノ左後ニモ思ハナカツタガ今ヨリ

今更ノ後ニ居ル気ノ警戒ノ後ガ目ニ映ジタ、金ハ幸福デアツタ

而シテ居ル者ヲ一ツカニ殺シタ

ヒ切帰宅シテ外ヲ出ル時ハ車ヲ引ク間ハシ立ツ時ハ弊ル、少時ノ後ニ

公園ニ一サンポ出テ数歩ス例ノレース場ヲ通ル面ヤ笑ノシヤウ

受信	摘要

金曜	甲申	九月十六日	天氣 雨	寒暖

今ノ刻ニ何ニ〳〵モ力ヲ尽ス時ハ人ガ夜業ヲ入レカ出スト力

ダン〳〵ヨクナル居ルノデ迅ヒヒセヌ〳〵ヒヒ今夜ヲ休ム

夜ニ入ル年末ノ暮キ方ヲ教ヘテ

受信	摘要

土曜	乙酉	九月十七日	天氣 晴	寒暖

門ヲ出テ外ニ出シバ強風吹ヤカニ面ヲ打ツテ過グ雲ヲ空ヲ仰ゲバ戰ヒノ雲ハ北ヨリ東方ニ去ラントスルイチギレ〳〵ノ雲ガ過リ過ヤルトアトハヌグーダ樣ナ白ク晴レ渡ル心地ヨキ秋ガアツタ

午後ニ人ノ今デモ忘レ難ク思ハイカナキ企リヲ空ニシテ多ク後トハ時時コンデンサーノバルブノ外国ヨリ命ゼラレタ通レ変ニ金ガ生ジタニ対スル最初ノ外国デアルデ一ヶ月ノ命ヲ過ギテ無ク、幸運ニシテ早ク引イテヤセート此考ヘ居リ乃ガヤハリ古ク近カ、多クシテ一ヶ月ヲ過ル。後ヤ日用品ガバカリツテ命セラレ之ニハ百過ヒタクナイ年ニ上ガル、ネテ今夜又知イテ言ヘ定カニ

（注）此度ナラレル風ガアルテ余ヲ今ノ此言葉ニ無理ナ行ヒカヒ金ガ足ライトモ思ツタカラソハ金ノ金ノ義ヲツクシテ居ルカラ後ヲ或ナラニ後ヲ

（注）元ヒカケテロリ用ヒラレタ多ク過度シ
ラレタノデアツテ何ニ
モ元ヒ人ノ金ニ此考ヘ

（注）ヒ

（注）ヒ

（注）ヒ

肌寒や襟に落入る月の露　（黄治）

月曜	丁亥	九月十九日	天氣 曇	寒暖

今朝始めて機織り持ちてゆく時、路へ出るより後へ引かれる思ひ、ふと仲丸が又此袋とへ多きを持ちて帰りしが、「白雲抱月遠空眼秋在漢江」と書いて、雲と書き遠く手後から雲かと云ふ。帰りから雨の多くなりて、帰りとなる。夜々業後少し職分編り稽古。

發信	受信	摘要

平民姓氏を呼ぶを許さる　（三年）

古畳つためき秋の晝寢かな　（四方太）

火曜	戊子	九月二十日	天氣 晴	寒暖

曇る。今日何故勉強が出来ぬか。試験の何とても無り強ヤマレ。今日も服部先生の暇り若干ケリ。ザル稽古。今夜も夜業後、為国ナリトナリタヤト思ふ。ふと思ふ事多タレバ行カハナシ。モノカリナリ暇ケケレバ、ヤラバ、ことの暮れ方も面白ク、カ説ふ。ふと後ニバヤト思ふ。ふと見タ。ベタ。秋と同ジ。ふと紅葉金集ノ借リて帰リ。又明日ふと。ナリケリ。此時角一、納ムベブリ本ノ逗敷入ベ多ク。人生ハエイヤ〳〵ト作業ト成ル。サレバ金ヲ渋ガ程足ル。ふとアリとガヤカラ彼レヲ云ふと十日近クヨリ秋ノ金色夜又ノ後ヲ初ム。後ノカルタ金ノ時迄お客ト豊一ノ見ふと。サテハ熟海ノ後ノ悪戯者後ニ云ふ後ニ来

發信	受信	摘要

黄海の大捷を嘉し勅語を賜ふ　（廿七年）

九月タレバ何ガ中ニ入ノ家ガ。ナル。ヤ。ヤ。ヤ

身にしむや亡妻の櫛を閨に踏む　（蘇　村）

水曜	己丑	九月二十一日	天氣 曇り	寒暖

夕巴堂今夜眠りしを以来夜の明け方迄床の刻八ツ
かへがりの事と云ふ／ナヤミの醫五ゴリキ
今日暖気毎と雖ども稍々寒さを感ずる夜来の雨降り籠る雲
と雖も絶えずして東にのり後の方に晴れ今日長き陰か
からず

發信	受信	摘要

（村　蘇）身にしむや亡妻の櫛を閨に踏む

（美　成）暮の秋にき拙の身の寝て喰ふ

木曜	庚寅	九月二十二日	天氣 雨	寒暖

秋冷肌寒しを感じ稍々感じ
夜トードー今を夜又り後と晴ちタトロ時に就寝ス時れ時時ゲ
アラタメ一カ

發信	受信	摘要

（年　元）始めて天長節の儀式を行はせらる

秋の宵辻の地藏に油さす（蕪村）

金曜	辛卯	九月二十三日	天氣 晴	寒暖

今日ノ改ノ元始ノ日ノ藏ゲゲ張藤ニ直ラスラシイ

書畫一匹命一ノ改師ノ米ヲ色々ノ絵ノ所ノ

本年後オンクノ方ニ立ラ方ノ一ノ元左ノ賊ノ知ノノ妻ノ

工要ニナラヲ長ノ「ラ」ニケリキクノ方ノ十使ノ横ニ上ニ一ノ〈トエル

ソコデ例ノ病ニシノ手腕ノヤウヲ長ノ下ニナラヲ、ソレガ出ノ

ノ名ヲ七ノ前ニ喫シタ、ソシテ平連帰定ニケ給ヲ持ラヲ行

ニナラヲ。

發信	受信	要摘

（年　五）　私に銃砲彈藥を販賣するを禁ず

大きなる家ほどの秋の夕かな（許　六）

土曜	壬辰	九月二十四日	天氣 晴	寒暖

秋季皇靈祭

今日ノ休ニデハナラヲ、元例ノ刻起床近改ニケイ

ハ元ニデアラヲ

今後ノ始ノ日ノエンジンノ決算ニ從ラテ夜業ノ日ノ遊ビ

畫ニラノデ地図ヲヤセート道ノ方ニラノガサテ出ナイ

行政ノ中ノ、イヤデハナイ、ソシテ出ナケレバイケナイト思

ラヲ長ラ自ニ書カナイ、今ノ元ノ機ニ一ノ東ノ見ノヨシ出ヲ使ンデ

居ルト前ニ知ノ一ノ考ヘンデキナイノニ一ニ仕ノ前ノ方ノナイ以外

ニ職ノ論ノ中ニシタソシテ出ヨイ同心技道ニニ時元サヘモヨオシタ

ラデ、床ニ入ノ食ヲ夜又ノ再後ニタ、コレデ、ヨーヤノ元ノ

發信	受信	要摘

九月ガナオラヲ十一月改ニシラ

（年　十）　鹿兒島の賊徒平定す

日曜　癸巳　九月二十五日　天氣　晴　寒暖

今日は病がいつきりとしなかつた、で夜は老仙物へ通つて居つた。つまり：
帰宅したら、丁度初の時が来て居るが大師の芝居へ行つて居る。先ず作
主殿の用事で和泉山へ四半居と金と出すつもりで帰へつて居たが
矣の例とおつて不在だの聯かで丁度大師の芝居へ行つた所ゆ
え遂今見物で来ないまでもつまるものが何故かとおもつた。多分組織の為
が傾倒となつて居るのが今お本叮寧で御使を居りまつて居るのだ。ソコデ
人民の為の叮ゆ何かよりも絶えずキヤナるものがつまり外の為
るイテイるう、山本と感じ、何故なら彼は年少ことをスデに本叮
ゆの人をかろ左様にせられ、遠年が成功して居るのだ。我が会の為

信發　信受　摘要

（年三）墨刑一廢す　發ルコトヲスベシ

月曜　甲午　九月二十六日　天氣　晴　寒暖

今日は午後延原行まり後に
在イテ機ノ研究ヲ今日ヨリハ必ズ成功スル迄一日ヨリトモ、カニス
マジトハ心ヲ決シテ奮張ス

信發　信受　摘要

出るかとかる妖物を待つ夜長哉　（几董）

火曜	乙未	九月二十七日	天氣 曇り後雨	寒暖

今日延期する積り

今年後之人なるべき事の吉川英治氏今死へりかとの多く今の英国の
繰返しなる。夕食後浜田の例と作る為の研究と考へ題ケタ
ものとして研究する所の人や息子等に後始末を浜田の
事務の不安や職人の話等をする中に息子の職を学校の
ナドを考へる。又南の主人のウワサを多く然とソレハ宜イ方ヲ考ヘる
然と呼ばるるの。「コマカイヤ」の軟膏（浜田）を評判と見たり
後者寒ならるゾレより歩き研究の如きものかあるべきなり張の次第
と云ふ所とナリ。ドーナツ迄研究の積り多

發信	受信	摘要

長き夜も旅草臥に寢られけり　（去來）

水曜	丙申	九月二十八日	天氣 晴	寒暖

寄せと寄せ悠々として延期者へ言ふ事なり外出の積り

夜分後不平名ヒカーヒ後後ふれと同様戻ヲ後ヒ紅葉
会集り遠慮と多。御時後ヒ戻ヒが皆を節重ヲ急ヲかし
ソーヒとヒ戻多ノ。ヒ戻ヒ戻ヒ戻

人なばらく六十近し暮の秋　（桃雨）

木曜	丁酉	九月二十九日	天氣 晴	寒暖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月

寒露（陰暦九月節）　降霜（陰暦九月中の節）

十月行事

十七日は神嘗祭として、新穀を伊勢大廟に薦め給ふ祭儀あり○六日より十五日まで、浄土宗諸寺に十夜詣あり○十一日より十三日まで、日蓮宗諸寺に會式あり、何れも信徒群集す○此月二十日、商家にては惠比須講として惠比須神を祭る

節物時令

秋雨○秋夕○菊○野菊○造り菊○稲干○木の實○栗○柿○鹿○鶉○百舌○鳴○後の月○秋霜○秋の風○烏瓜○糸瓜○梅もどき○紅葉○紅葉狩○秋柳○秋晩○暮秋○神嘗祭○ふびす講○十夜○會式○菊月○捨團扇○落穂○晩稲○冬近し○ゆく秋○蟋蟀○竈馬

食品月令

ほうぼう○さんま○松茸○初茸○しめじ茸○新蕎麥○芋○細根大根○柚子○栗○柿

諸國祭禮

周防　長門　大和　讃岐　肥前　伯耆　石見　山城　讃岐　播磨

豐前　赤間　丹生川上　田村　大諏訪神　物部木比羅　梨金刀　海

一日　七日　八日　八日　八日　九日　九日　十日　十日　十日

肥前　筑後　出雲　常陸　紀伊　薩摩　播磨　攝津　備中　阿波

安仁　高良　熊野　酒列磯前　伊太祁曾　枚聞和　伊田　長吉　備津　忌部

十一日　十三日　十四日　十五日　十五日　十五日　十五日　十六日　十六日

但馬　出石　下野　二荒山　丹波　出雲　唐澤山　宮崎　日向　薩摩　臺北　筑前　香椎

二十日　廿一日　廿二日　廿五日　廿六日　廿八日　廿九日

○十月中行事豫記

秋深き隣は何をする人ぞ　（芭蕉）

土曜	己亥	十月一日	天氣	寒暖

發信	受信	摘要

秋の末身もふるはれて蟲の聲（樗　瓦）

曜日	庚子	十月二日	天氣	寒暖
發信				
受信				
摘要				

今年大なる大なる不景氣ヲ感セシメラレタリソハ主ニ今ヨリテナリシ事ハ、冬ヒコハ化ヒテ化德ニ止メルヒノビナイ室ニ一代ノ聲デアル、ガレドコムイフオ又ダワルベキヲ今ノ信ガ出ル事ハ信ジヲ今ノ今ノデユーテイーヨリフヲサレ

有術ノ研究ガ大ナル發ヒヒノナシ

曜月	辛丑	十月三日	天氣	寒暖
發信				
受信				
摘要				

今ヨリ寒ク迄ヤテ年ヒヤヒヤ年延ル、高サニ作ノ一ツリ

ヒヒヒ

秋名殘夕日のまへに小雨降る　（曉臺）

火曜	壬寅	十月四日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要

研究ノ眼考ヘ有望ナアリタヲ考ヘ、研究ヲソハスベキ筆

テアルガ、ソノ機ノ上ニ圧力ヲ計ンデ参考書カラ引キテ計算

スルト何ニテモ代数ヲ使ッテ、ヨリカヲ実験ニ当テテ風速ナドノ

単位ガ出カラナイ。此ニテヨイノカ或ハ吹ニテヨイノカ当吹ニテモ一日ニ

一度カ二度カハタ一般ニカヲ出ル時カラ作ッテトドイテ有カラ

ナイマシテ眠ルヲ寝ル所マデ

音にたてゝ飄いもなるやの秋の果　（成美）

水曜	癸卯	十月五日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要

今ノ世ノ精進ナトヒヨート曽ヲ例シナキ丁ヲ思フ様ニナリタ文レ一日

スマイニスル氏ノ男性ノ感化ニ外ナラナイ、近ヒコレハ直ダケデ夜帰宅スルト

宅ヲ別ニ精進ヲトラセラレナイノデ帰途ヲ破滅ヒテ

帰ル年後ニ人ニ人共不在ニナルノデ先ヲ同年ニ借ラレ

外家眺続ノ繁雑ヲヤル

明夜九時迄ヤ帰郷後ノ研究後ヲ床ニ入ルヒトヲ不図作

ノ犯リ捷ムデ見ルト下駄ノ歯カ表ヨリ脱ノ入院ヲ

シタ当日ナノデ早速思ヒヒヲ就床後左ノ様ヲ作ルノ論書ニ

書イテ送ル　「十月二日夜

去年今夜就病床、終身思辺医断腸、当時力伽

雲の峯城のうしろを塞ぎけり　（羅風）

木曜	甲辰	十月六日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要
研究社と書と金瓶梅とサレド實到所					井上法政大学校不参	速達	
實際ノ後ナラデハ何ヒテモ充分ナル工夫ノ役計ガ出来ナイ筆ニ角					恵日夫命長		
一應、サレドシテモ型ノ一ツ役計ヒテ見ルコトニ拙ト現メタ							
午後又獵彈ニ於タ危後所ハ古鳥ノ撃ヒ、七時今昨日獵彈セシ							
鳥ドハ此ノ式鳥獵實ノ先国ヲナス、十時之レ迄来ノ所ハ多場ノ撃シ							
後ノ就眠							

灯ともしてもし影祭るや菊の花　（子規）

金曜	乙巳	十月七日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要
窓ヲ少シ白キ吹用ノ用イテ、ゴロリト天井ノ眺メタリ今日ガ							
昨日ノ如ク何ヒモ機ヒ、ハ、ナカ多、多ク用ニ入ル、ハ、ヨ、ノ方ニ多ク							
長ク空ノ色ト其上ニ的ツテアル單ヲヤ長持ノ様ノ外ハ如ク張ノ考ヘ							
多ク多クシテ天井板ト同ジサレトテアル							
昔ノ面起原ハ了ル見ル							
下ノ方後ノ夜先国ヒタノニ墨入レト移色ノシタ							
夜角一ハ二ノ車ノ先国ヲナス、十時後ノ之ヲ記ス、ドレ太陽ガ							
後ニ寝ヒ							

年々に天長節の日和かな　（嶋雪）

土曜	丙午	十月八日	天氣 雨	寒暖

今ノ今迄ニ生ワリフン前ニ掛カラウモシカシラテ機ノ鈴リ鳴ノヲ氏ル昔ノマニ仲カラリ見テ見ル鶯多、ソレハ下ル僕ガ教ヘタ絵ヲ畫イテ居ル時程今ヨリモ見テ戻ラシタ通リガアタ知ヲ一日ニ見物ノ日カ多ケレバ午前ハ外ヲ歩ク絵ヲ畫ク例ニ倣テ工場ヲ見廻レ一金服ヲ時ニ忽カニトスルカト思フト色々ノ思ヒウカベ又鶯ヲ機ヲ交ヒ本ヲ繼ヲナドシタ夜眠リ機研究イヨイヨ勢国ニ為ヲ多カテヤリカケルト又役ヲガコンヲ変ヲ来ルフヒヲ主翼面ヲ動カヲ後ル機ヲ器遠ヒヲ対本ヲ床ヲノ作業ノ記リヲ立テ後ヲ十一時ノ計ヲ寝ヲ用ヲ寝ガイタ

發信	受信	摘要

岩倉右大臣を歐米各國に差遣はさる　（四年）

日曜	丁未	十月九日	天氣 晴	寒暖

今朝又後ル来タヒ外ヲ見ルモ「ホルトガル」革命ヲ作ノ事前ニ書記ヘ対ス今ノリヲフリ探ガヒヲ外ヲ後ノ例ノ通リ時ヲ改ムノ通リ

今ヨリコウ〳〵ハリヲノヲ迄ヒ外ノ後ノ「スカ」ハヲ多ヲ外ヲ外ヲ大分上吸ヒヲ

夜入後多食後同ジ表ニ倣リヲ美家雑誌リヲ見ルヲ書ヲ

外ヘ出ヲ多ヲ来ル遊ヒ牛鍋ヲ吹ガ有ル、昨日、行ヒ、ノ後ヒ表ヒ出

今ヲ多ヲ下ルヨイ出ヒカラ後ヘ出ヲノ知カラ最期ハ対今ヒヲトドリ〳〵

思ヒヒヲ見ルヲ下ヲ出ヲ多ヲ皆ノ服装ヲ見ルヲトヒ人号鶯多リ

發信	受信	摘要
井上外五名		

月　月ヲ中ヲ惰リカムヲ見ルヲ下ヲ二九三　見ルヲ下ヲ錦ヲ
ヒ前ヲ見レ題ヲ多ヲ惰下駄ヘトヲヲトヲ場ヲ履イヲ見ル僕サビヲ妻ヲ
カヲヲ見ヲヒヲトヲヲ見ヲ見ヲ見ヲ見ヲ見ヲ見ヲ見ヲ見ヲ見ヲ見ヲ見ヲ見ヲ見ヲ

（巻　樗）　蓬ふ夜と てて目出たき星の光哉

月曜	戊申	十月十日	天氣 南	寒暖
時筆取スベキヲナシ 夜数髪ヲナシテ後 親ニ物ヲ出用ル				
水メタリ 何ヲモナサヌ 悲ダ 方 場ヲ 信ヲ 紙				

發信	受信	摘要

軍艦平遠號敵の艦械水雷に罹り沈没す　（廿七年）

（其　角）　二星眠む隣ゑ嫌年十五

火曜	己酉	十月十一日	天氣 南	寒暖
こゝは延糸 此頃ノ通イ〳〵ト思ヒナカラドーシテモ年ヲ起キラレナイ				
今起キラレナイノデハナイ 頃ハスグニ 駕メヲ床ヲ寝ヲ寝ヲ出ルト 時イ				
計ハ 頃ニ多コ 陰ヲアルカラ見ヲ見ルガ 六年ナイ 月ヲ 獨ヲデ				
又ヲヲ 寝ヲ 眠ヲナイトヲヲ 月ヲ 向ヲト、 魔ヲデモオヲ				
レテ 床ヲカノ 機ヲ 月 然ヲ 向ヲ ヒヲレ ヲ 床ヲナイ ゴテ〳〵スル 内、 向ヲ 後				
ヲカケルト、ストトスグ 吹ヲナル 之ヲ 頃ノ 毎 部 稼ヲ 五ス 来ヲアル				
後ノ 外ヲ ヲ見ル				
有 方 場ヲ 信ヲ 頃 方 イヲ〳〵 飛ヲ 機ノ 後 計 成ヲ 兄バ 地 國ヲ				
著 家 又 十 日 一 夫ヲ ヲ 五ヲ バ ヲ 五ヲ 之 紙 紙 又				

發信	受信	摘要

德川慶喜大政を奉還す（慶應三年）　廿三年國會開設の詔出づ（十四年）

水曜	庚戌	十月十二日	天氣	寒暖
發信				
受信				
摘要				

[illegible]

夜分に後帰宅す雨し雷燈が輝ウヒテ居タ

[illegible]長官から大臣へ直電あり当方が来テ居タノデ

ソレ等ノ反響ヲ書カウカナ

[illegible]内部ノ者が来タ色々ノ話ノ末遠ニ金ノ[illegible]

トヲ人ニヤマ多ク人ニナレトモ[illegible]

イヤ知ラヌカ心イテオヘ人ノ多人ノ[illegible]

攻撃ニテ金ノ[illegible]人タン[illegible]

十時帰宅ノ方帰ヲ[illegible]

木曜	辛亥	十月十三日	天氣	寒暖
發信				
受信				
摘要				

今ノ[illegible]ノ[illegible]

先ヲ[illegible]多[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金曜	壬子	十月十四日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要
やイを由も午後から晴れて来て、多分六日美うしく空模様が見うしなり、夜後になるべきりの吹き強くなる今日後ソートとなるかもしれないが宮山へ寄りまして時々雨の時々晴れとなる様子なり後ケ井上氏ト廣宴へゆき、外林ノ香りカンバシク、淡白ノ味ノ盛りの一ヒオ心地ヨカリタ先ヲ、正面ノ座ハントスグ左ノ表庭ニ面ヲ切ノアル芸妓ニ頼ノ抜キノ手後鮮芸白ニ側ニ車夫郵便屋ノ横ノ両側ノ接ノ入ノ数ノ右イキリトヨタ本ガニテアル正面ガ勝負ニ少ノ強ノガ玄関デアル、風ヲモ見タ表庭モ見タ、然ニ表庭ガ最ニヨカリタ、十五日ニ後ノ方ニ比較ト			

土曜	癸丑	十月十五日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要
今朝ノ上ノ方ニテ延キタ、後ケ刻ニ之レトモ云フ事モセズ吹ケ一来ニノ待ノ方ニ居ルト吹ニトヤスト給仕ノ接モテ比較ノ多ク速、参考書数ノ盛ノ帰宅ス、清書ノ終ニ包帯ガニテアルおてちガ走リ之ノコケタノ知トカラ手ニ居タ、金ノタ〻ケニ吹ルカ知ノ吹ノイシ謝シ数ノ知ノタ書倉後一ヶ月ニテ本来ニガタ、ソコヘ側ノ一カレガ来ノ共ニ天ニ方ノ高ノ共直今ノ見ニ又多、秋変ノ知ニ十ニノ中カタノ少ニ月ノ引ノナト名ノト新来ニノアタニ吹ニ絵ニテタ〻ケ帰宅ニ金ノ表裏成リニ船ノ織ノ外国ニ知ノタ立ノ比一カニリ帰ノテ船ノタ、夕食後ニ又外国書ノ先ニ帰宅ノ来タノデ			

十月朔日飛ノ機ノ国ニ就キテ話ヲ多、先ノ二九九外国ニ書ヲ入シ之ニ対キタテ〻ニ模型ヲ作ノテヤントキ中ニ熱心デアタタ、之レ十分大丈夫成功スルノ時帰郷ス十時就寝

（村　蕪）　秋の宵りたけりたけり籠切の尾りだし

曜日	甲寅	十月十六日	天氣	寒暖
日曜			晴	

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

發信	受信	摘要

（藤原鎌足薨ず　天智天皇八年）

（角　其）　見る人も廻り燈籠に廻りけり

曜月	乙卯	十月十七日	天氣	寒暖
月曜			晴	

神賞祭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

發信	受信	摘要

（滿洲軍總司令官に勅語を賜ふ　廿七年）

一廻り待人遲き踊かな　（尙白）

火曜	丙辰	十月十八日	天氣 晴	寒暖

今日ハ弘前ニ行ク事ニナリタルガ、先ヅ行ク事ニ付テ、軽便エンピツノ研究ヲシタリ、午前ニ一度ト午後ニ一度ト計リ、ソノ間ニ那須先生ノ下宿ヘ行ク。用事ハ那須先生ノ下宿ヘ、夜ガ入ル前ニ行ク事ニナリタルガ、夜ガ入ル後ニ帰ル分ニ成リタルガ、夜ガ入ル後ニ帰ル分ニ成リタルガ、夜ガ入ル後ニ帰ル分ニ成リ

花火せよ淀のお茶屋の夕月夜　（蕪　村）

木曜　戊午　十月二十日　天氣　雨　寒暖

昨夜十一時頃家ニ入ンベリ上リカケタ時迄見元ニ見エタ一番ノ修業者ニ
ヒヒヤト嘲ヒヒヒ

（董　几）花耶女の都は妻や取關

土曜　庚申　十月二十二日　天氣　晴　寒暖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

衣うつ京へは遠き寢覺哉　（鬼貫）

月曜	壬戌	十月二十四日	天氣 曇	寒暖	發信	受信	摘要
六日延期今ヨリ後ヲ分ケ迄レヤウケレバ夜ヲ明ラヤバヤト夕食入浴後タベケレ活動寫真見ニ行クハ明朝早ク歌舞伎見ニ行ク約束							

悲しさは上手なるらん小夜砧　（曉臺）

火曜	癸亥	十月二十五日	天氣 晴	寒暖	發信	受信	摘要
今ヨリウツクシトヨ樂しかろうぞ夜然何物へ通帳ヲ持ツテ行ク序デニ淋ク老ヲ訪ネント後ニ考ヘル事ガ多クク後ノ道ヲコウレ老ヲ訪ネルコトガ近頃遠ノリ向イタトヨリ現在過郵、未来ノ三体コウイフ遠ラシタ方ニワレル事願ル解ニ苦シム即チ曰リ過郵ハ過ギ去ツタ事ヲ現在ハ今ノ事ヲ未来ハ行ク末ヲ教ハ未来デアル、ドー考ヘテ見ヲモ解カラナイ、ナンニ曹堂々タル博士學士ニ成ル中デモ分カラナイノガカラ哀シイ、アタラ前トシテ、ザテ人ヲ、身体ハ何ナルカ即チ死ネバ一片、埃微ノ煙ト化シテ亡ビ去ルノミデ、ダカラコノ靈魂ハ何ナルカ之ヲ知ルモノハ佛教デ云フ地獄極楽、神故、耶							

英船ノルマントン號紀州沖に沈沒す　（十九年）

十月蘇ノ天日ニ云フト思フヨリ外仕方ガナイ、ダカラ三〇九
ドーダトハ習イタ、ドーモ之レ位イナ偏リナラ大体老年ノ方ハ皆ソノ名ヲ知ラズ
ダ思ヒ老人ニ口答ヘモト思ヒタノデ、ウコリ今迄ノ御ヲ長ク、ドーヒリ酷ク感ジカレタ

暁の寝姿寒し九月蚊帳（暁臺）

水曜	甲子	十月二十六日	天氣 晴	寒暖

午前十時延床数百集大会ノンキニ生活シタノデ元ノサクヤガ出テ身ツヨクナッタ一日ズボラシテ七時就床明日改四月又始ル活ノ時間ハ寒リ過ガズニ寝ル比較ヲ

發信	受信	摘要

そよの田へ弓引いてゐる案山子哉（雪魚）

木曜	乙丑	十月二十七日	天氣 晴	寒暖

今日ハ暖ヤカナ一日デシタ　夜帰宅シテ新聞ヲ見ルト、神戸ガ空襲セラレタ

發信	受信	摘要

金曜	十月二十八日	丙寅	天氣 晴	寒暖
今日は昨日の者さつて来て角を一ノ問題を被要ずれ何と切り				發信
フノ多ずナ五月のんヶ月を今ヶ何ことヨリ、アヽ今更帰ることを今り				受信
強ムフ一ヶ月ナイ多ち居ヶ多ノ中に入ヶ多ヶ日ト伊服トゲ サナカラズ				摘要
帰ヶ迷或ヘリカケテ居ヶ多ノカラヶヶそうヶ那ヶ交ヶ多伊職員先ハ御ノ				
同情ノアヶが金ガナイ、コヒヶ思ヒフイ有リバ小五郎ヶ此頃ヶ心ノ病ヶ				
又ヶ一ヶ反抗ノ中ヶ世間ヶ世田ヶ一ヶ所ヶ一ヶ多ヶ中ヶ多ヶ、ヶコヶ夜				
後ヶ一ヶ可ヶ来ヶ、ヶ此ヶ家ヶ濱ヶ宅ヶ五郎ヶ力ヶ家ヶ中ヶ多ヶ居ヶ何ヶ				
ナイ家ヶ内ヶ気ヶ多ヶ居ヶ者ヶ何ヶ迷ヶ中ヶ五ヶ内ヶ物ヶ多ヶ丁ヶ出ヶ人				
ヶ居ヶ多ヶ、ヶ行ヶ多ヶ、ヶ五ヶ郎ヶ一ヶ人ヶ色ヶ中ヶ心ヶ内ヶ多ヶ迫ヶ多ヶ				

（年四廿）　震地大濃美張尾　（九　年）　前原一誠等亂を山口に起す

土曜	十月二十九日	丁卯	天氣 晴	寒暖
昨夜ノ夫婦ニ目ノ来ルヲ願ノヲ聞シヌヲ、色ヶトユ夫ヶ人ノ内只ヨイマ了ヶ小				發信
五郎ニ多ヶ多ヶ多ヶ多ヶ見ヶ様ヶ上ヶ速ヶ来ヶ時ヶ又ヶ了ヶ五ヶ年ヶ				受信
多ヶ、用ヶ多ヶ希望ヶ怪ヶ憲ヶ多ヶ述ヶ多ヶ十ヶ五ヶ月ヶ相ヶ伊ヶ手ヶ後ヶ多ヶ				摘要
今ヶ夫ヶ後ヶ多ヶ電ヶ後ヶ多ヶ返ヶ多ヶ多ヶ多ヶ或ヶ多ヶ述ヶ多ヶ				
多ヶ此ヶ十ヶ忘ヶ多ヶ後ヶ電ヶ後ヶ多ヶ悪ヶ多ヶ先ヶ同ヶ年ヶ五ヶ多ヶ呼ヶ上ヶ五ヶ郎ヶ				
様ヶ多ヶ多ヶ今ヶ年ヶ一ヶ家ヶ郎ヶ中ヶ多ヶ後ヶ再ヶ多ヶ多ヶ後ヶ				
多ヶ濱ヶ帰ヶ多ヶ後ヶ多ヶ多ヶ濱ヶ年ヶ多ヶ多ヶ帰ヶ多ヶ				
ノヶ多ヶ、ヶ所ヶ多ヶ多ヶ五ヶ郎ヶ再ヶ多ヶ濱ヶ宅ヶ日ヶ電ヶ後ヶ多ヶ在ヶ宅ヶ多ヶ				
在ヶ宅ヶ多ヶ多ヶ多ヶ多ヶ多ヶ特ヶ多ヶ多ヶ、ヶ五ヶ人ヶ様ヶ目ヶ多ヶ多ヶ多ヶ多ヶ、ヶ金ヶ五ヶ後ヶ				

十月十九日　三一三十五郎一流

金ノ来ルノ嘘ヒヤ今モ本ノ嘘ノ後ノ、ソレヒヤ

戀わたる鹿や臥猪の枕もと　（蕪村）

日曜	戊辰	十月三十日	天氣 晴	寒暖

昨日引きへ今日の氣かユ了りトしテ、手段坊ッテ氏イタ
夜遊ニ一ツ個ベタ後ダ電車ノ切符ヲ購ヒナイノデ帳場ノ車ト
乘リ換ヘテ帰ル筈デアッタガ氏ラナイト見エテ何ヲ立ワナカラ
タダ黙ッテ帰宅シテ昨ト異ダ切符ノ帰ヲ取ラ氏ル、之ハ氏
ラナカッタ事ハ帰ル

珈琲後ニ文豪ノ話ヲ聞ク成ルハ如フヘタカラ、後ノ一種ヲ
相手ナ好事ナ新聞ガ変ッタ名ト係ベラレタカラ

親信	要信	摘要

教育勅語出づ（廿三年）　我軍鳳凰城を占領す（廿七年）

初雁や遊女に油さゝせけり　（太祇）

月曜	己巳	十月三十一日	天氣 晴	寒暖

今日ハ朝ノ内ハ戸ヲ閉メテ暖カ過ギルカラ、ストーブヲ焚ク程ノ
セラレタカラ、遂ニ、エンピツノ電光製造ト国情ガアッテ上ガラナ
カッタ為ニ機ガ廻リナカッタカラ、長ク待ッテ一刻ヲ半ノ
ナカラ集ノ陰ノ義ガ行ク、ヒナラナカッタガ、ヒナ、ゴヒナ
ツ忘ル間ガ自身デ十手足ラレナイ為ニ、ストーブヲ
ウマク一変ニ暖ヲセラレタカラト
タ方間ニ正反ガ出ルト言ヲ我ノ張ラ氏ルカラトノ下デ夜帳簿
ヲ整理ノ終ッテカラ年速ヤタ、ソレデ此ヲ本ヲ矢ヲカニ
用ルカナカトアカラ嫌ヒテ、ナンデ笑ッテ氏ルカラドー

十月ノ下旬カラ寒レトノ下デアタタ、帰途年氏三拍五ノ揚ヲ下駄ト
ヲ帳ノ前ノ帰宅ハ出ノ此ノ手ノ見ルト、私ヲ法ヒ豊カデアイノダカラ此ノ合ノ用ニ使用
セラレトノ下デアタタ金ハ一ハ出ノ対シテ一雪成ユノ到ヒナケレガナラナイ

十一月

（陰暦十月節）冬立　（陰暦十月中の節）小雪

十一月行事

立冬より冬に入る○三日は天長節○二十三日は新嘗祭として、天皇陛下新穀をもて神祇に奉りたまふ○八日には鍛冶職の家々にて鞴祭を行ひ、酒肴を供へ、男女蜜柑を撒く○十五日は小兒の祝日にて、男兒五歳、女子七歳なるを携へて産神に詣づ、○酉の日四日十六日廿八日に酉の市あり○初の亥の日を爐開きの期節とす○紅葉狩は下旬より始まる

節物時令

立冬○初冬○天長節○新嘗祭○酉の市○鞴祭○初霜○初時雨○爐ひらき○霜○時雨○火桶○火爐○木がらし○殘菊○落葉○寒○霰○敗荷○水仙○茶の花○山茶花○大根引○頭巾○足袋○外套○神樂○冬の雨○冬の月○初氷○薄氷○鷹野○鳥撃○冬の蠅

食品月令

目鯛○むつ○伊勢ゑび○たいらぎ○松露○大根○はうれん草○黑くわゐ○生海苔

諸國祭禮

磐城	都々古別祭	一日	阿波 大麻比古祭 一日
駿河	淺間祭	四日	日向 都農祭 五日
武藏	靖國祭	六日	豐岐 住吉祭 九日
筑前	宗像祭	十五日	筑前 竈門祭 十五日
大和	談山祭	十七日	

○十一月中行事豫記

一行の雁や端山に月を印す　（蕪村）

火曜	庚午	十一月一日	天氣	寒暖
				發信
				受信
				摘要

金錢出納錄

月日	品目	収入 千	百	十	圓	十	錢	厘	支出 千	百	十	圓	十	錢	厘	姓名
1	繰越金				一	三	九	五								
〃	婦ミ〉				三	〇	〇	〇								
3	幸ヤ乙ニ寄宿十三例											一	三	〇		
〃	風呂賃 故石夫ト二人											〇	五	〇		
4	穀ワリ											〇	八	〇		
〃	横浜男美											四	〇	〇		
〃	常男第一節									一	一	〇	〇	〇		
〃	マレダユー											一	〇	〇		

		千百十圓十錢厘	千百十圓十錢厘	
4	用水正堀ノ西方ト ゼニザイ底ニ入ル場所書		一七五	二四三十六リ
6	過働賞與（ニヒ分）	三三〇		
7	停定車賃		二〇〇	
8	腦丸		三〇〇	
9	用水正見出ゼニザイノ三号倉	〇八〇		
5	就役ノ為ノ外害給費	五〇〇		
5	東京府教學費		三二〇	
5	ニ學費		一一二〇	一四三十五リ
5	出物料		五〇〇	
5	才方三		一〇〇	七十五リ
10	停定出張林橋五ツ		二五〇	

		千百十圓十錢厘	千百十圓十錢厘	
10	中勝ニ吉田ヤ其他		二六〇	
11	・ウドン屋料		一二〇	十二リ
12	婦ラ	五〇〇		
13	電車賃		〇四〇	
14	百表		三五〇	
5	數髮		二〇〇	
21	婦ラ	五〇〇		
5	せんべい		一〇〇	三十八リ
24	給料ト別ル	六一五〇		
〃	外國用紙トピンセン		一一〇	
〃	學校ヨリ帰宅ヲ食		三一五	一四十三リ

		千	百	十	圓	十	錢	厘	千	百	十	圓	十	錢	厘
25	巻ニ八イ											一	六	〇	
26	婦ニリ				二	〇	〇	〇							
27	ケント紙ト雲形定規										一	一	〇		
28	要板用画共巻ト										四	〇	〇		
29	婦ニリ 二本ガ二ツガ巻ニテ巻キ				一	〇	〇	〇							
30	毛筆特製、半紙ニ文字ヲ										四	六	〇		
3	張紙				三	〇	〇	〇							
7	お男郎ヘ売リ渡シ				一	五	〇	〇							
6	婦ニリ				三	〇	〇	〇							
8	下駄屋様														
4	コンパス										二	五	〇	〇	
8											一	八	五	〇	

		千	百	十	圓	十	錢	厘	千	百	十	圓	十	錢	厘
6	美術文房具										一	五	〇	〇	
4	お產物											五	〇		
7	試験筆、日心											一	五	〇	
1/31	ヒヤツ、パツケ代										二	八	五	〇	
8	不明										一	五	〇	〇	
〃	小丸郎ニ売代					五	〇	〇							
〃	男郎迄ニ売代					六	〇	〇							
10	墨一丁											五	〇		
12	脳丸											三	〇	〇	
13	ケントペーパーニ枚											二	〇	〇	
5	内付修繕費											三	五	〇	

		千百十圓十錢厘	千百十圓十錢厘	
2/	雜誌屋々賣			
	時計	二五〇〇		
	紙卷ト刻子	二十〇〇		
	散髮		二〇〇	
27	本屋拂		五〇〇	
〃	煙草		三〇〇	
〃	本賣却代	一〇〇〇		三十銭
	蠟燭拂		七〇〇	
30	時計	一〇〇〇		
〃	著名肖像		三七五〇	
〃	寺院地図		一三五〇	

		千百十圓十錢厘	千百十圓十錢厘	
11	散髮		二〇〇	四三十銭
〃	時計賣却		五〇〇	三八十銭
12	下駄		六五〇	
14	雲丹金々糞		四五〇	
〃	月徽章一個		八〇〇	一日九十銭
17	大イフ		六〇〇	
〃	文房具		二七〇	
18	買物		三〇〇	九十銭
〃	絹布代		二二〇	七十一銭
〃	ゴム		三〇〇	四十一銭
24	紙巻ト刻子	二一五〇		

千百十圓十錢厘

千百十圓十錢厘

くらし

西條料理

千百十圓十錢厘

千百十圓十錢厘

一九〇〇

住所人名録

友誼ハ血緣ヨリモ強シ　サイラス
最舊友ハ最良友ナリ　ブータス

住所	電話	氏名	郷國
東京市本郷区森川町壱番地	下谷三〇一一番	帝國習字速成學會	栃木縣今市町六八三一番